

江戸名所圖會

十二

西垣文庫

文庫10

6556

12



文庫10
6556
12

西垣文庫



戸塚 今高田小属す古ハ此地の惣名とす北条家の分限帳

恒岡彈正忠牛込の富塚の地を領せり

富塚ハ改むと云云或人云岡本氏某の邸の地ハ古き塚あり白狐の窟と

戸塚ハ狐塚と誤り唱ふと又此邊昔古塚多あり

百八塚 今其所在さるる里老傳へ云往古昌運とつる富民

佛小供養の為此高田の辺より大久保迄の間とく百八負の塚と

築くと今ハ悉く其所在を云す

高田天満宮 同所ハ幡宮より馬場の方へ行道の左側あり別當
按中野村兼野十三所権現の別當ニ成願寺と云禪林あり其寺記ハ其本
莊司重邦の後裔鈴木九郎と云者あり紀州藤代あり其應永の頃武州
小来中野の地ニ住す其家大富を云せり其法号正觀を以て寺号とす自りも
九郎大富歎き居室を壊ち精舎とす其の法号正觀を以て寺号とす自りも
又名を正蓮と改むと云云今馬場下町を供養塚町と唱ふるも其旧稱の残る
造立せし所云云或人云此地を昔富塚と号けり富民の割居るあるハ彼供養
塚と富塚と唱へる中古より美の一字を畧し登律かといふハ其後

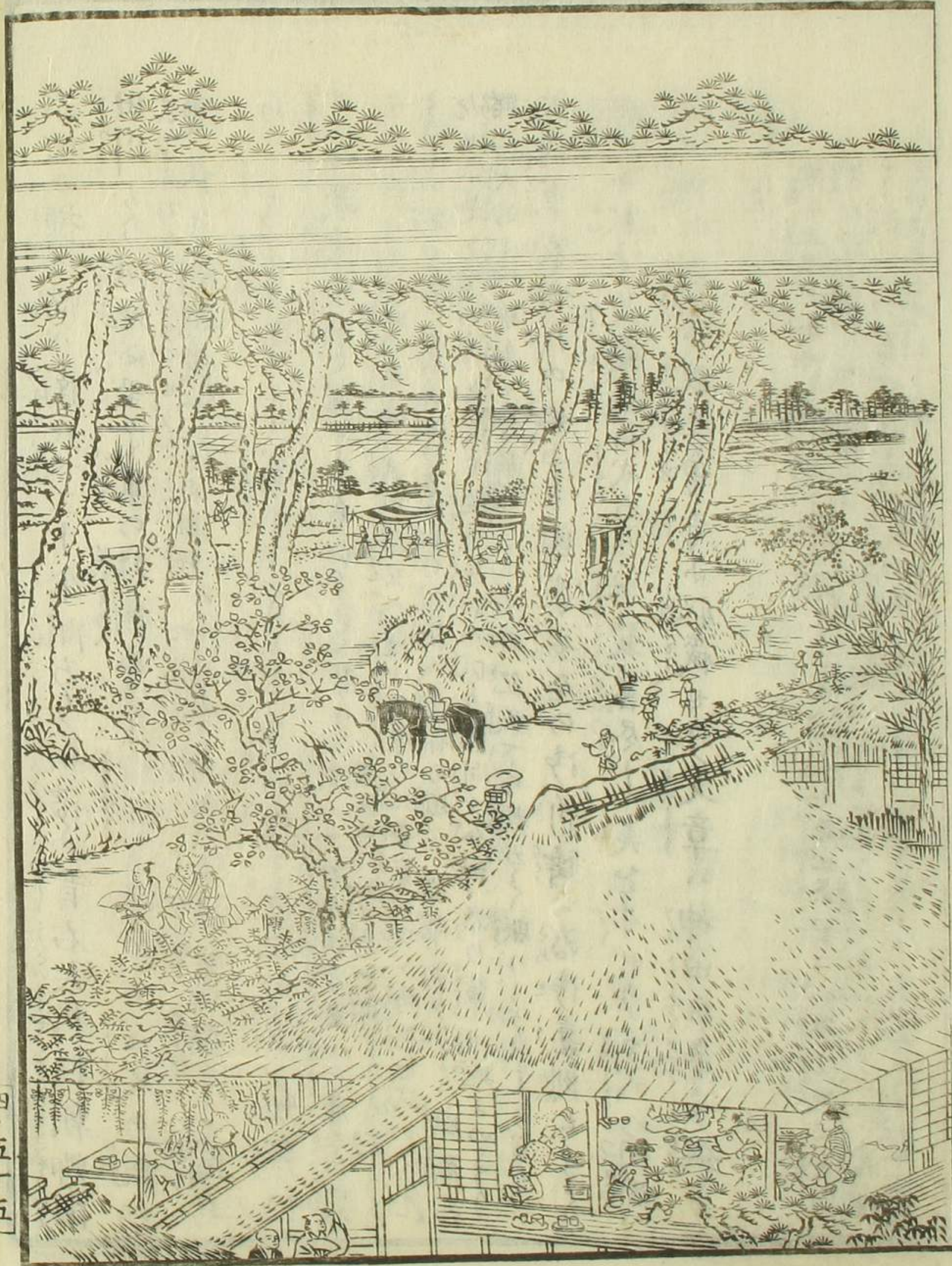
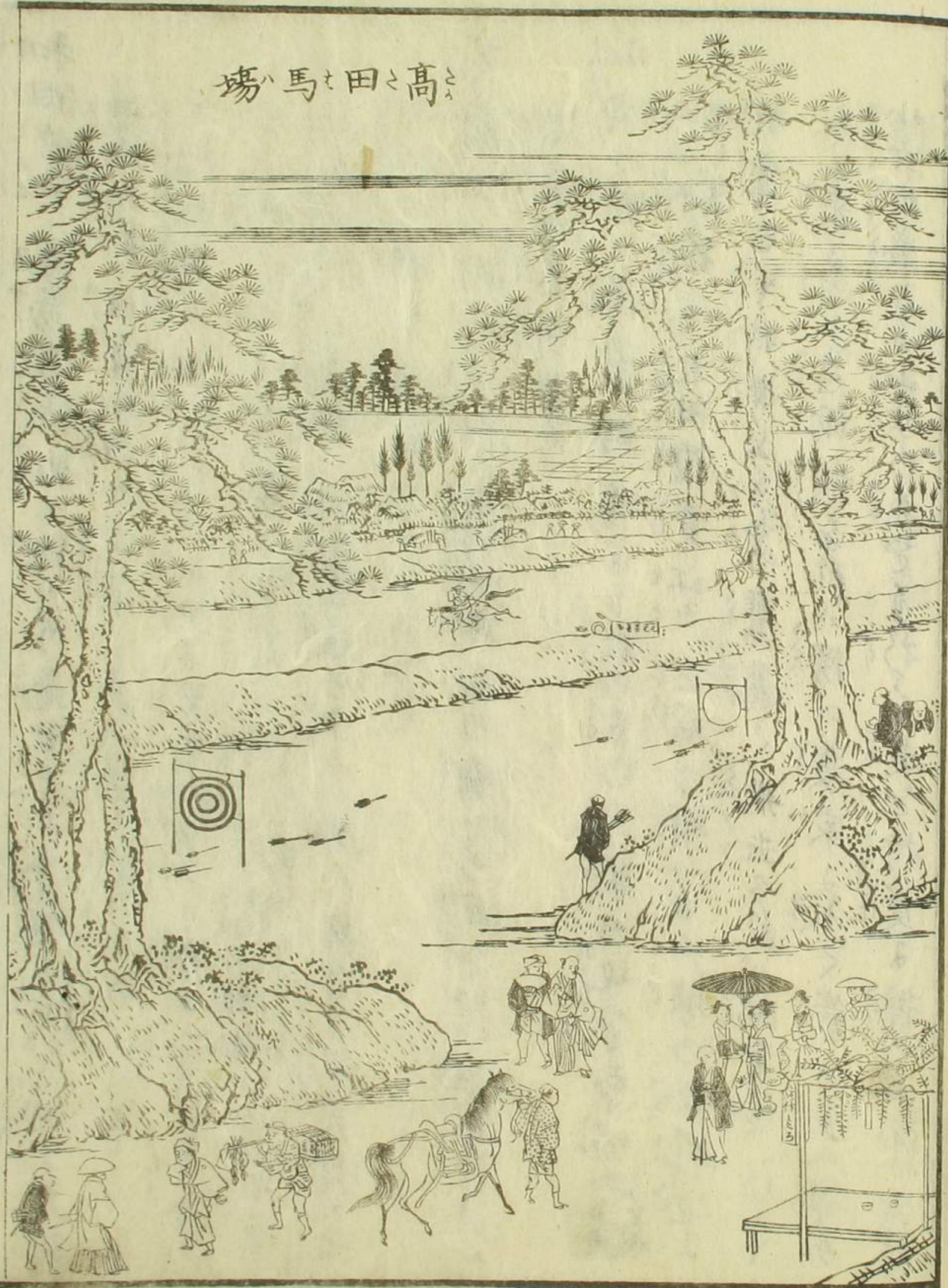
真言宗中々真定院と号し神躰ハ菅神手造の靈像あり
一寸八分ありと云相傳ハ寛永の頃 大樹此神像と大橋立慶
賜此立慶ハ入道堪徳の人大橋流筆法の始祖あり是世前ハ所傳大橋
流と稱する 依り立慶當社を建く神前ハ懸る所の戸帳ハ其旨
趣を記し置と云ふ當社の旧地ハ牛込清松寺の辺り今天神町と唱ふる地
記せし次ハ祐筆大橋立慶ハ高田大友の屋敷と云ふ 又菅神の真筆の佛經
を収むる由云へり社前ハある所の龍神及び鬼子母神等ハ石像ハ
昔此地ハ経蔵あり一頃守護の爲ハ造立せしと云ふ
按ハ當社の傳ハ大橋立慶 大樹よりたゞその所の菅神の像を一社ハ奉せ
とあり旧地ハ天神町と号し土入清松寺の地昔ハ大橋氏の宅地なりとのハ南向
亭茶話云大友宗五郎義延自らの宅地ハ大宰府の天満宮を造しあり
舊地ハ天神町と号し高田大友の宅地ハ大橋長方所奉神の三十六歌仙の僧
とも今猶存あり再び按ハ元禄二年開校の江戸鹿子ハ二百余年ハ及ぶ
とありハ依り考ふるハ大友義延ハ文祿の頃の人なりハ項宅地ハ觀清寺
を後大橋氏より居住しハ大樹よりたゞその所の神像と云ふ狂ハ安置し
とありハ寛永ハ寛政の今に至りて未二百年ハ及ぶ

高田馬場 同ハ北の方ハあり追廻一と稱し二筋あり豎ハ東西へ

六町ハ横の幅ハ南北へ三十余間あり相傳ハ昔右大将頼朝卿隅
田川より此地ハ至り軍の勢揃あり一旧跡なりと云ふ土人の説ハ
慶長年間越後必將 忠輝卿の沙弥堂高田の君遊望の殿とて開を
らるるの芝生なり一寛永十三年ハ至り今ハ馬場を築せ終ハ
弓馬調練の所となし一あり
或人云林丹波守勝正加藤左内河村
たりハ又云北の馬場ハ武田信玄ハ道小田原の北条家と攻り時馬を説り
たりハ旧跡なりと云ふ北の松の列樹ハ享保の頃 台命よりハ風除此
踏的ハ小的騎射ハ外能離子土佐外記故下の類ハ草此地ハのり
大将軍家御代の始ハ國家安全の沙祈禱の爲ハ嘉例と云ふ
此地ハ於て流鏑馬の式あり形装善尽一美を尽せり式ハ圖説ハ
穴ハ幡の別當放生會寺ハ收藏せり文章ハ神田白童子撰
あり

按ハ此地ハ高田と唱へるハ近ハ新六郎平領の中ハ高田内赤沢分同添田多等の地を注し加ハ又赫沢長壽領
と云ふハ高田ハ長壽成父の前赤沢後家小附とあり又此地を中村平太郎

高田馬場



和^と田^た戸^と山^{やま} 尾^ひ陽^{やう}君^{きみ}涉^{せつ}館^{かん}の地^ちなり是^{これ}を戸^と山^{やま}涉^{せつ}郎^{らう}と云^いふ戸山は外山に作る土^と人^{じん}相^あ傳^{でん}

傳^つふ此^{この}地^{まち}ハ往^{むか}昔^こ和^わ田^た戸^と何^{なに}某^某と云^いふ武^ぶ士^しの住^{すま}い所^{ところ}なり右^{みぎ}

大^{だい}將^{しょう}頼^{らい}朝^あ卿^{けい}隅^{ぐも}田^た川^{がわ}より此^{この}地^{まち}に至^{いた}り今此地は和田戸明神の宮社ありと云和^わ田^た戸^と第^{だい}一^{いち}入^{いり}の軍^{ぐん}勢^{せい}の

勞^{らう}を休^{やす}められしことありしと云^いふ南^{なん}尾^び州^{しゅう}涉^{せつ}山^{さん}屋^や鋪^ぽへ行^い方^{かた}の畑^{はたけ}の中^{なか}ハ一^{いち}條^{じょう}の道^{みち}あり里^{さと}老^{らう}傳^{でん}へて

上古^{じやうこ}の鑓^{しゆ}倉^{そう}海^{かい}道^{だう}なりと云^いふ荒^{わう}蘭^{らん}山^{さん} 同^{どう}所^{じよ}戸^と山^{さん}と大^{だい}窪^{くわ}諏^す訪^{ぼう}の森^{もり}との間^{あひだ}を以^{もつ}て此^{この}あつりハ

雲^{うん}雀^{さく}の名^な所^{じよ}なり

山^{やま}吹^ふの里^り 高^{たか}田^たの馬^ば場^ばより北^{きた}の方^{かた}の民^{たみ}家^かの辺^{へり}を以^{もつ}て唱^{とな}ふ此地は今

向^{むか}利^り相^あ傳^{でん}太^{たい}田^た持^ぢ資^し江^え戸^と在^あ城^{じやう}の頃^{ころ}一^{いち}日^{にち}戸^と塚^{づか}の金^{かね}川^{がわ}辺^{へり}ハ

放^{はな}鷹^{たか}を以^{もつ}て時^{とき}携^{たづ}りし鷹^{たか}鷲^{じゆ}く飛^と去^さるれば跡^{あと}を追^おひし

こゝ来^きる誠^{まこと}不^ふ急^{きゆう}雨^{あめ}頻^あれハ傍^{かたわら}の農^{のう}家^かハ入^いる蓑^{かさ}を乞^こふ内^{うち}より

小^こ女^め出^い盛^{さか}なる山^{やま}吹^ふの花^{はな}を以^{もつ}て是^{これ}を持^も資^しハ捧^たぐられしと云^いふ

詞^{ことば}を以^{もつ}て持^も資^しを意^いを悟^{さと}るを得^えし却^{かえ}つ憤^{いらい}を合^あふ家^かハ

帰^{かへ}り近^{きん}臣^{しん}の事^{こと}のありしを物語^{ものがたり}ハ中^{なか}ハ一^{いち}人^{にん}進^{すす}む云^いふ是^{これ}ハ蓑^{かさ}の

なきと云^いふ古^こ奇^きハ

七^{しち}重^{じゆう}ハ重^{じゆう}を以^{もつ}て山^{やま}吹^ふの事^{こと}を以^{もつ}て云^いふ

か^か詠^{えい}せし和^わ奇^きの心^{こころ}を以^{もつ}て答^{こた}へたりしと云^いふ

深^{ふか}く恥^ちく後^{のち}和^わ奇^きの道^{みち}を慕^{あこ}むと云^いふ

此^{この}七^{しち}重^{じゆう}ハ重^{じゆう}の和^わ奇^きハ後^{のち}拾^{しやく}遺^い集^{しゆ}ハ中^{なか}務^む卿^{けい}兼^{けん}明^{めい}親^{しん}王^{わう}の詠^{えい}と云^いふ

小^こ倉^{くら}の家^{いへ}ハ住^{すま}いし頃^{ころ}頃^{ころ}雨^{あめ}のありし日^ひ蓑^{かさ}くる人の入^いりしを山^{やま}吹^ふの枝^{えだ}を以^{もつ}て

按^おはし山^{やま}吹^ふの里^りの事^{こと}ハ和^わ漢^{かん}三^{さん}才^{さい}図^ず會^{かい}ハ俗^{じやく}説^{せつ}并^{へい}艶^{えん}道^{だう}通^{つう}鑑^{かん}の中^{なか}ハ

神^{かみ}奈^な川^{がわ}の事^{こと}ハ昔^{むかし}ハ加^か牟^む川^{がわ}と唱^{とな}へたりしと云^いふ

三^{さん}島^{しま}山^{さん} 同^{どう}所^{じよ}民^{たみ}家^かの後^{のち}園^{えん}ハあり古^こ松^{しょう}四^し五^ご株^{くわ}繁^{はん}茂^ませる樹^{じゆ}蔭^{いん}ハ三^{さん}嶋^{じま}

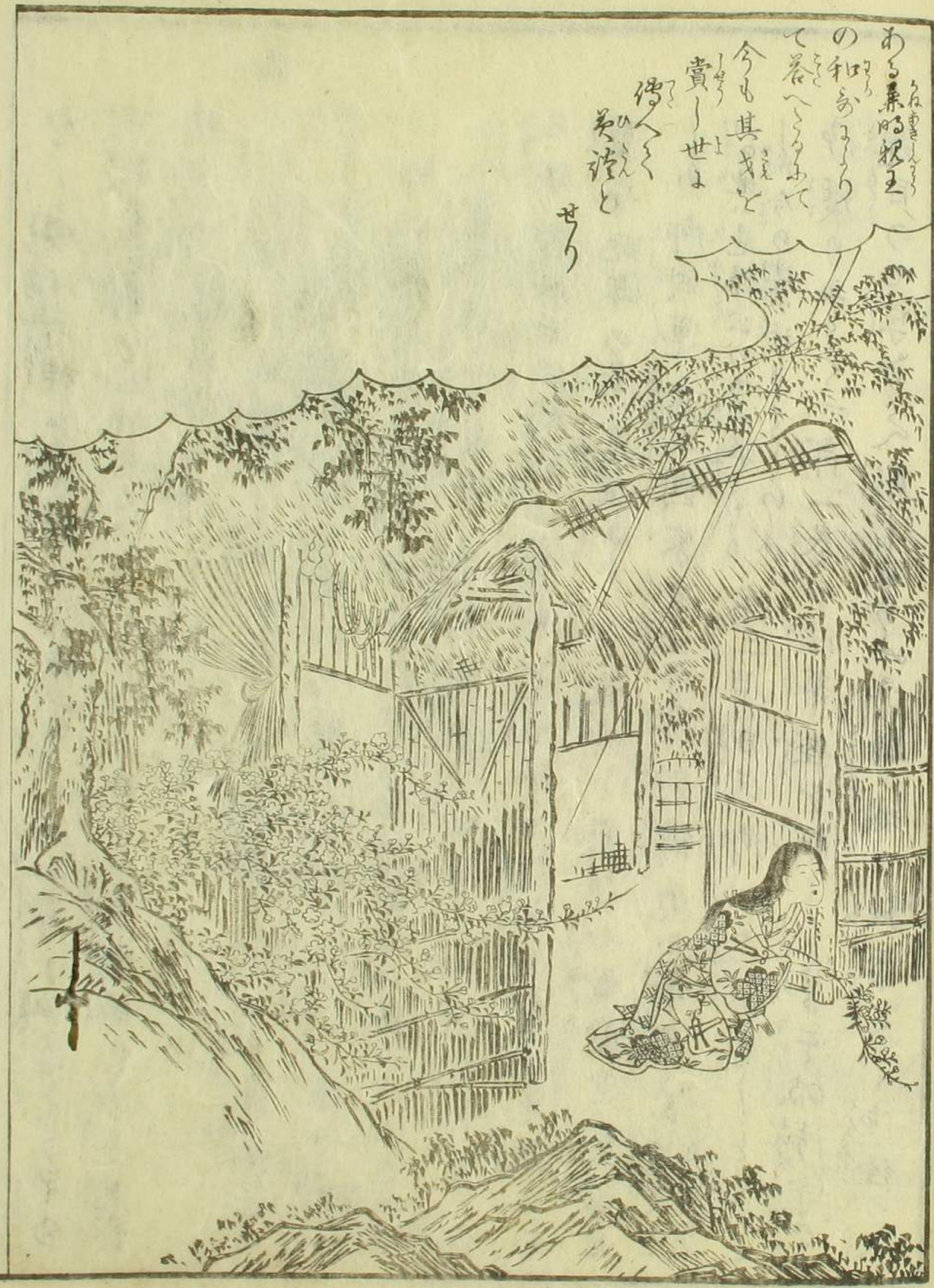
明^{あき}神^{かみ}の禿^{かぶ}倉^{くら}あり相^あ傳^{でん}ハ右^{みぎ}大^{だい}將^{しょう}頼^{らい}朝^あ卿^{けい}此^{この}高^{たか}田^たの地^ちハ軍^{ぐん}兵^{へい}勢^{せい}揃^{ぞろ}

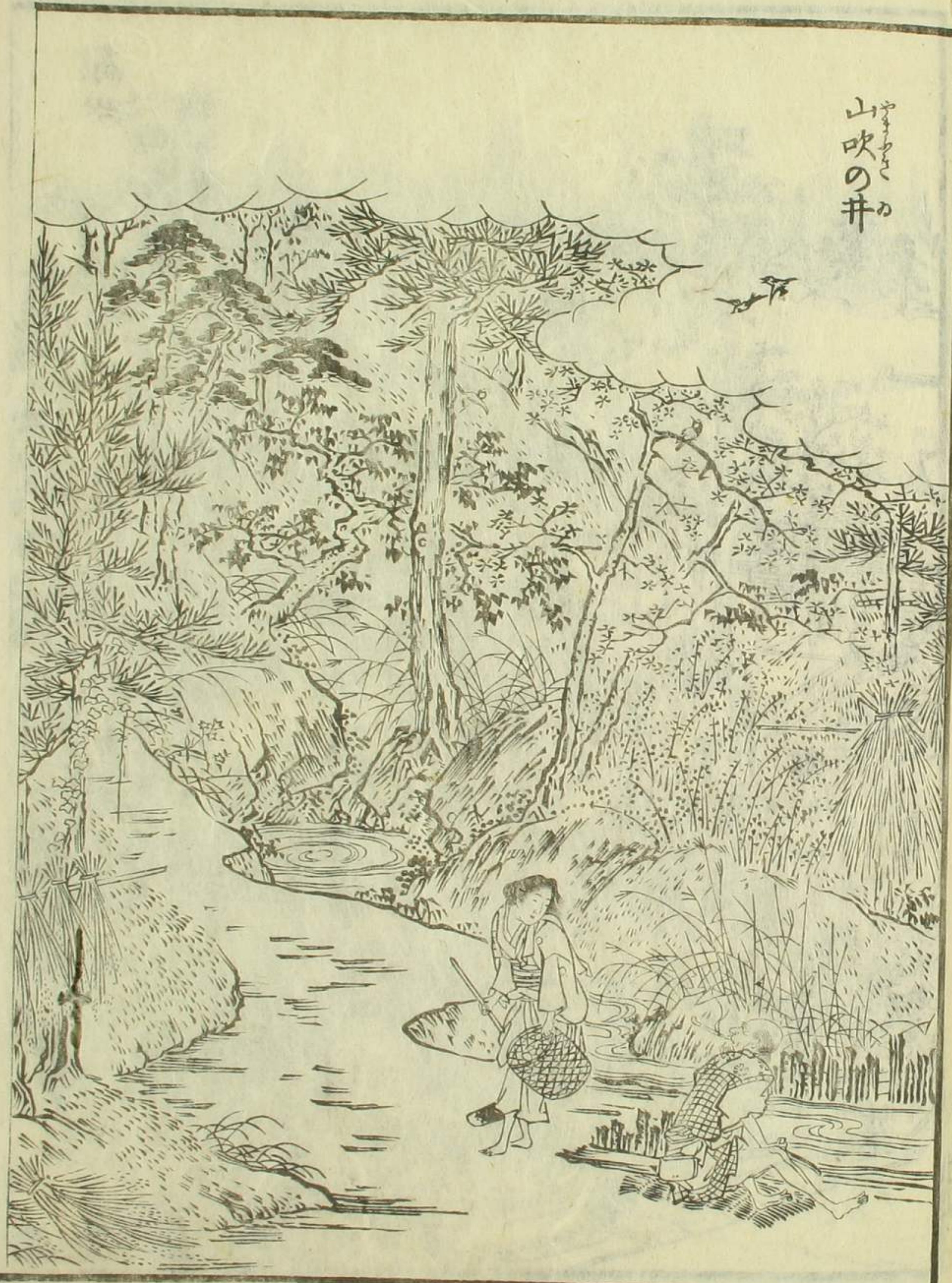
山次の里ハ高田の湯場
 より北の方民家の
 辺をの昔老田持資
 江城あり一日
 此戸家の金川の辺
 放鷹以急雨に遇て
 傍の農家に入り
 簾とあしんると
 もふ時小内より
 小女出て病を
 驚りるる山次の
 花一枝とをく
 持資小捧くあは
 後拾遺集小七す
 八重花さけとも
 山次のあひと
 うふなきそ
 うふなきそ



四八七

ある集の根王
 の和分より
 て春へてあて
 今も其姓と
 賣し世よ
 傳へく
 英澄と
 せり





山吹の井

ありし頃此御神を勧請なりしと云々此山岸より少くもその
 甘泉あり是を山吹の井と号し土人或ハ三島明神の伊手洗又
 頼朝卿の馬の冷し場なりともいひ傳へたり

高田七面堂 同所道より左如意山亮朝院とて日蓮宗の寺ハ

安也 山脚身延 本尊七面大明神の像也 身延山の七面堂と
 同本所作なりと云 當寺開山

日暉師感得ありし靈像なりとの縁起云延山第二十六世日境

上人靈告再三及の後亮朝院日暉師是を授与す依

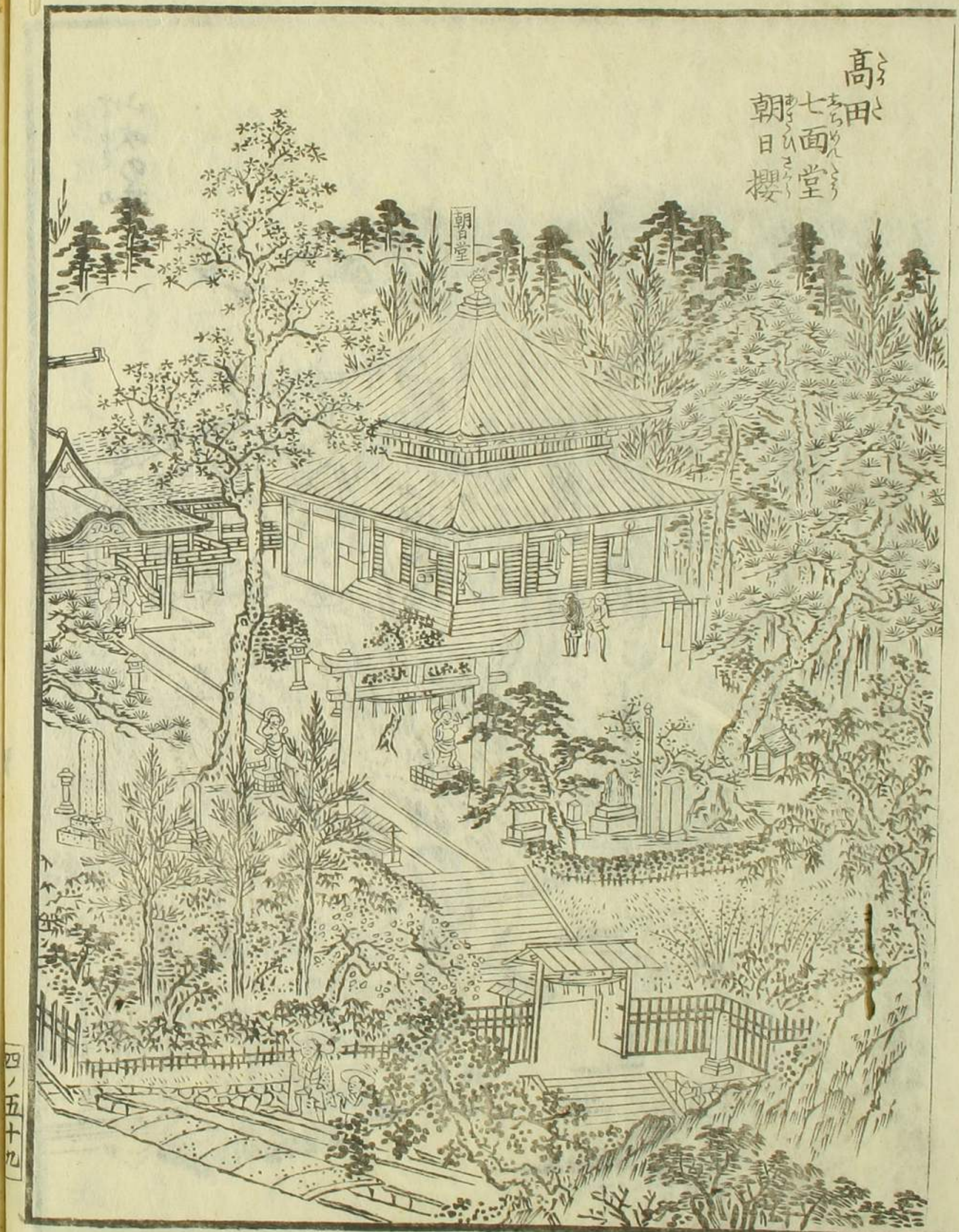
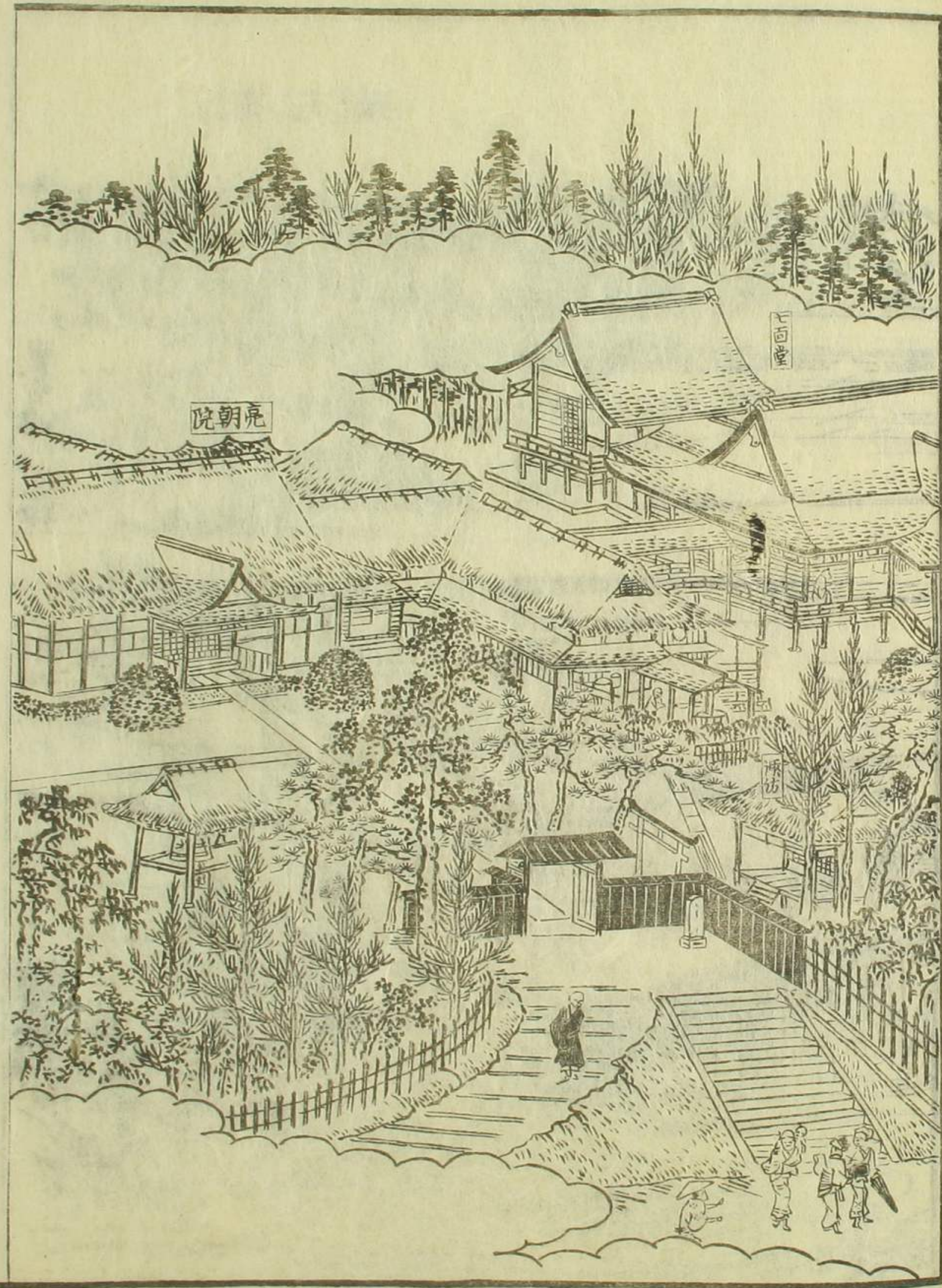
日暉師此地五明村に草庵を結び此本を安を然る小

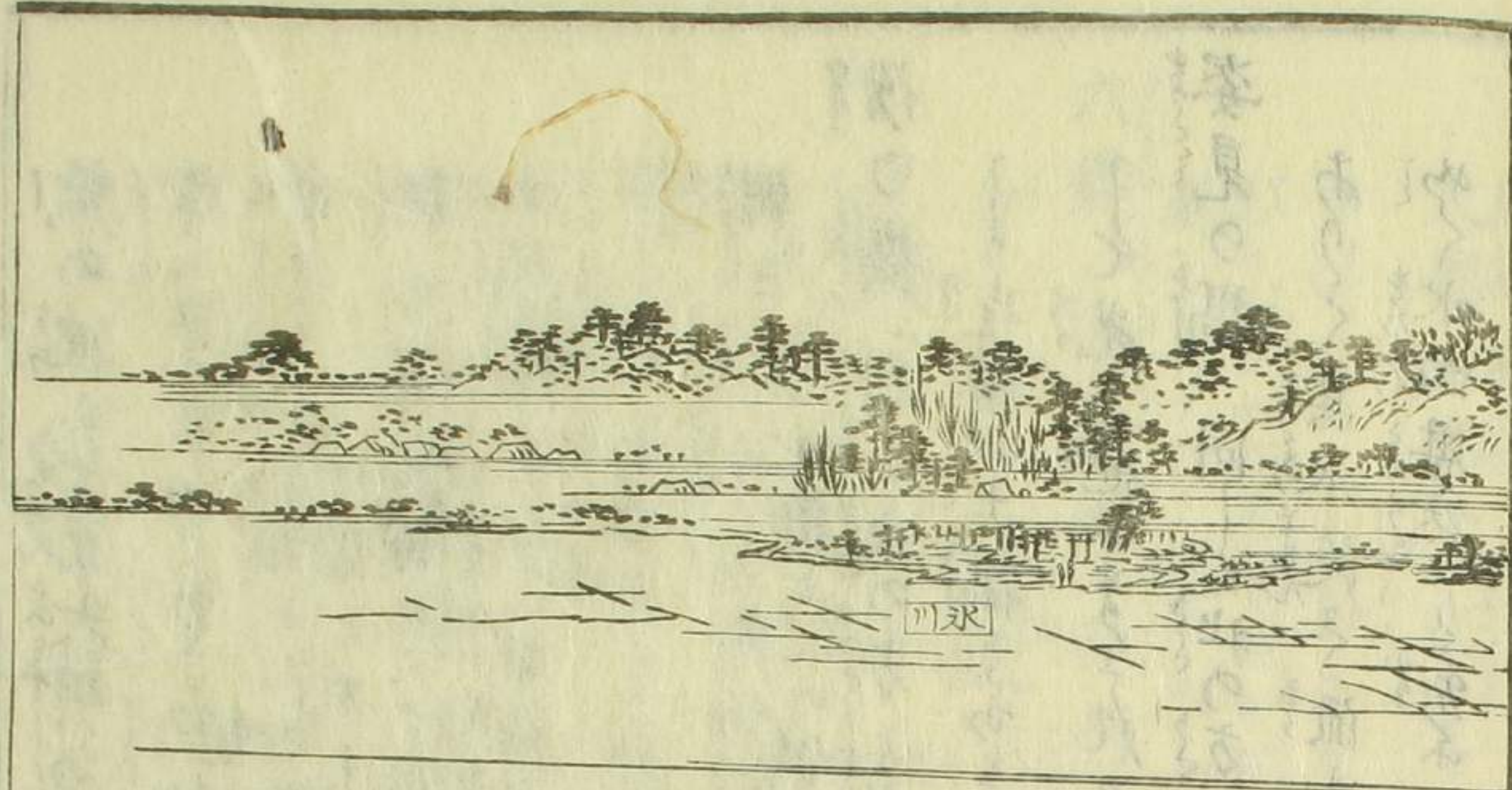
慶安元年の春荒藪山に於て社地を賜ひ七面堂を造營せ

し御武運長久國家安全の伊祈禱所小命せし 寛文十二

山の地ハ尾陽公の山莊とたり 同二年日光御社参ありしと云々

伊獲りしと云々一部一巻の法華經を献し其時伊守乃
 題目の七字とて彫し其の伊歸城の後泰く伊經の表



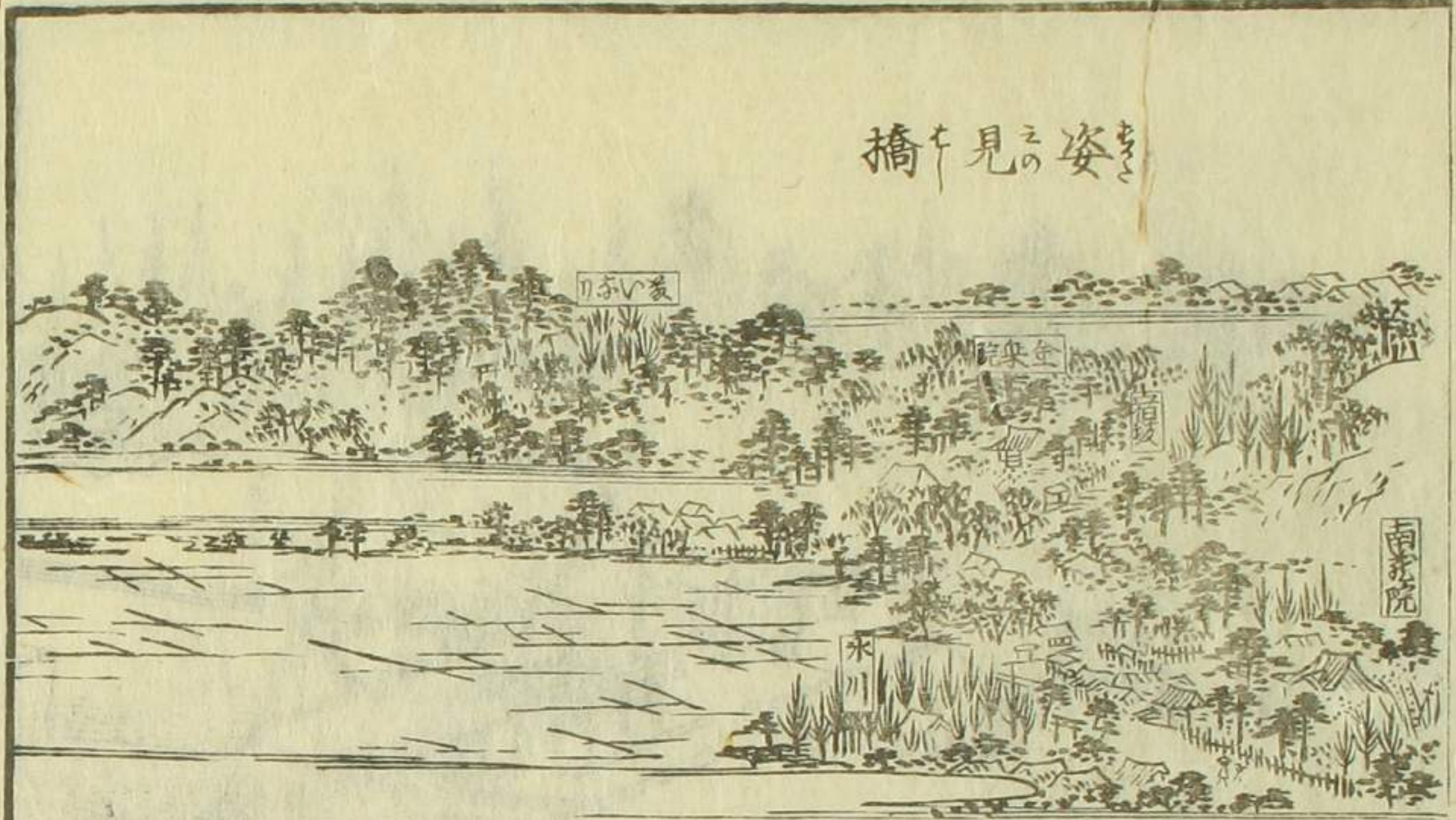


川水

しとの傍

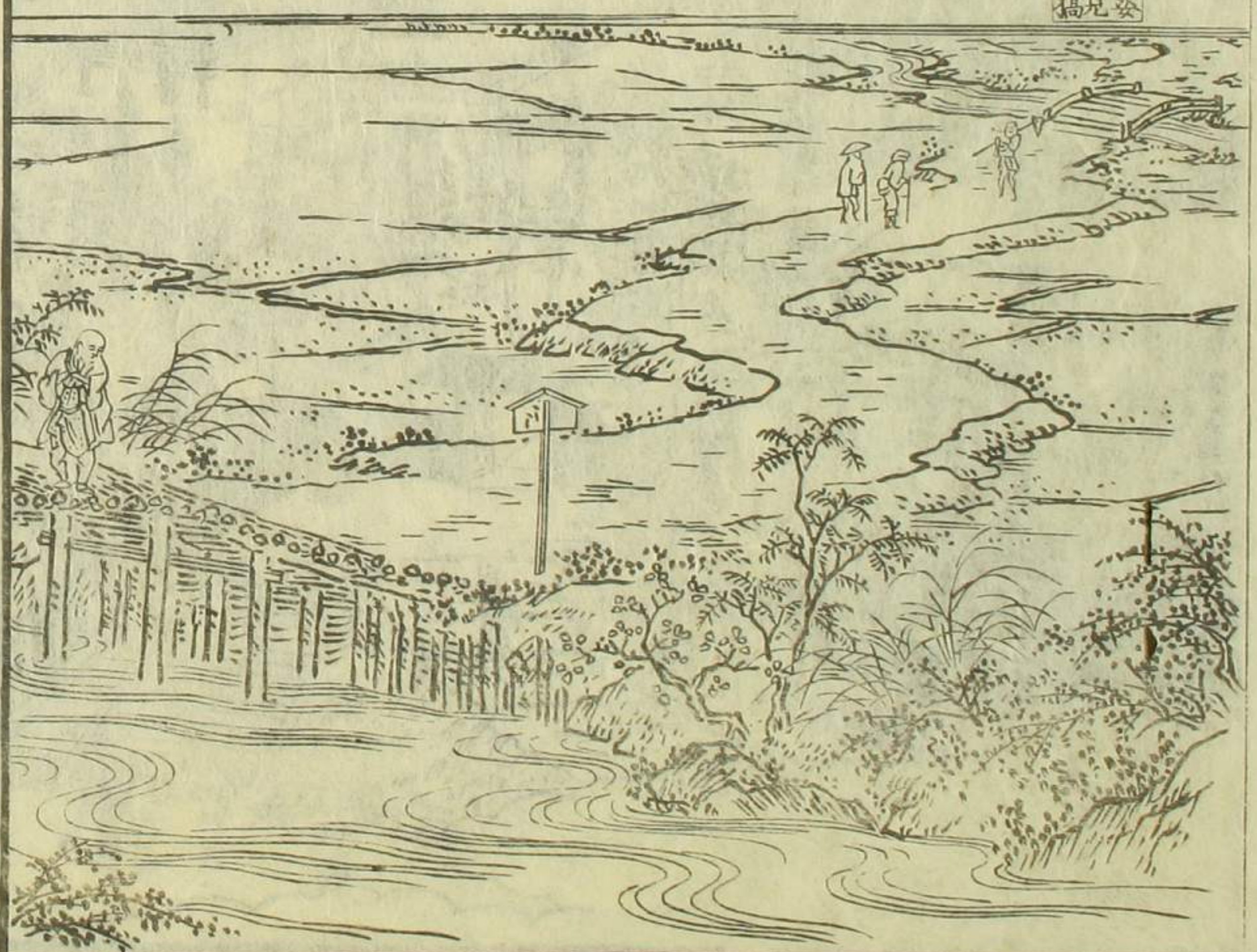


橋を見の姿



川水

橋見姿



紙の裡に七面大明神と沙深筆ありて沙諱とて書添られ

當寺小ありてあり今猶ほかく當寺三種の

世尊堂堂内小秋巡如來

朝日堂朝上人の像を安せ此堂内小於修行も亦の常題目法善院

衆院朝上人常眼病を患ひて日朝上人の寄願し平愈せり

朝日櫻朝上人の愛樹ありと云り

傍の橋同北の方上水川小架を長十二間余あり昔ハ板橋あり

近頃ハ土橋とあり此橋を姿見の橋と思ふ此辺の強ハ形大

光り他光り他小ありと云り

姿見の橋同北の方上水川小架を長十二間余あり昔ハ板橋あり

ありて其水ありて其水流る故に行人視これハ鏡の面小相對せり

水面湛然水面湛然と云ふ名と云り或ハ寛永の頃

大樹此地ハ故鷹の時鷹翦りて此橋の辺ありて見出

命命ありて此名を唱せられ此里彦小云信人

大鏡山南蔵院秋利場村あり真言宗中々大塚の護國

寺屬を當寺を大鏡山と号す昔此寺前小大あり池あり鏡

佛佛ハ聖德太子の作ありて立像三尺四寸あり此靈像ハ秀衡の

念持佛念持佛なりと云り養和年間頃迄ハ奥州平泉ありて

圓衆圓衆比丘諸國遊化の時靈夢を感じ彼地の農家に

是を得是を得て此地に安置せり本堂外陣は掲げ

藥師堂藥師堂三大字の額ハ蓮華光院大僧正道怒の

總門總門の額小大鏡山と書せり同筆あり當寺某師堂の

大鏡山南蔵院秋利場村あり真言宗中々大塚の護國

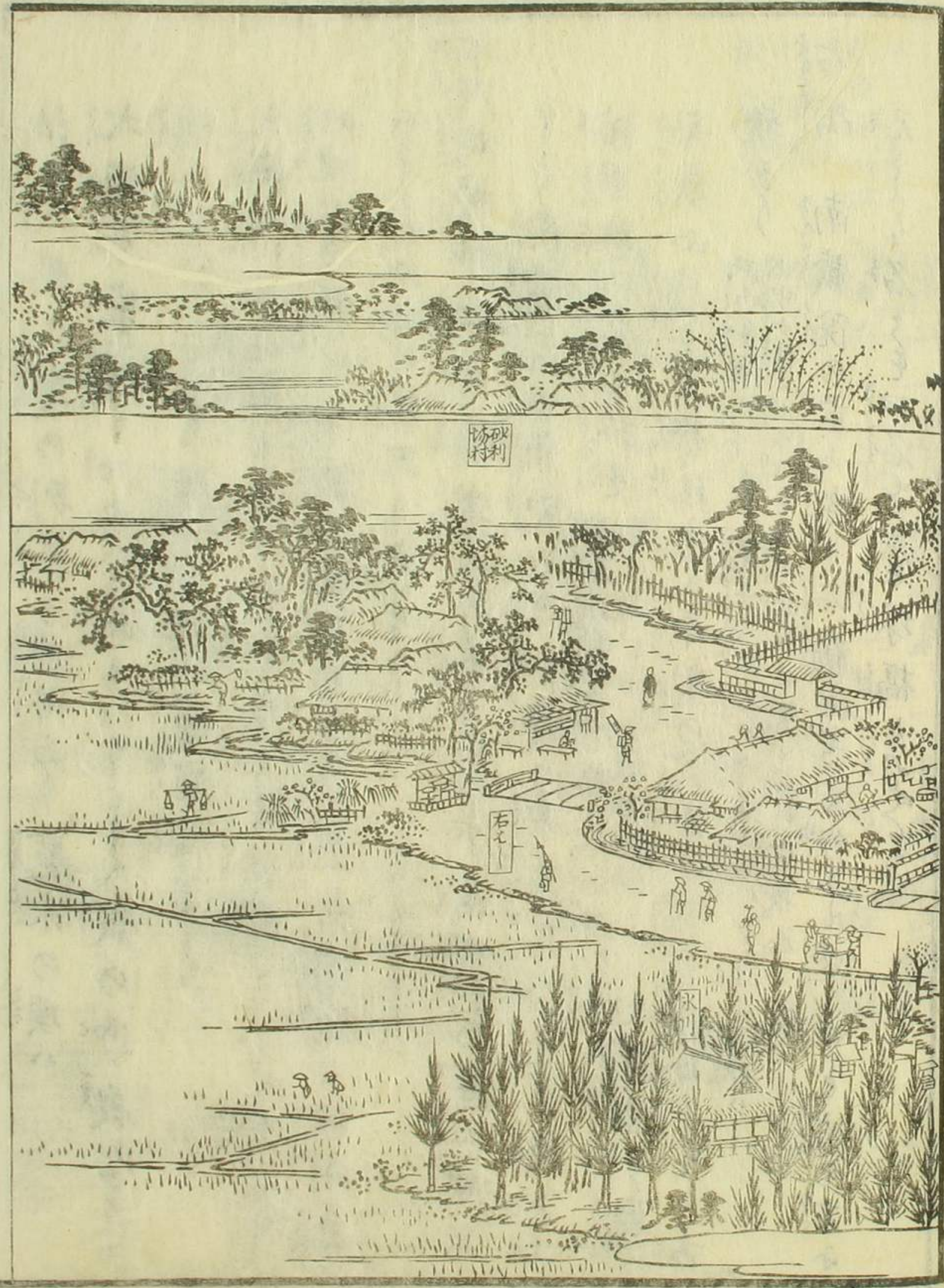
寺屬を當寺を大鏡山と号す昔此寺前小大あり池あり鏡

佛佛ハ聖德太子の作ありて立像三尺四寸あり此靈像ハ秀衡の

念持佛念持佛なりと云り養和年間頃迄ハ奥州平泉ありて

圓衆圓衆比丘諸國遊化の時靈夢を感じ彼地の農家に

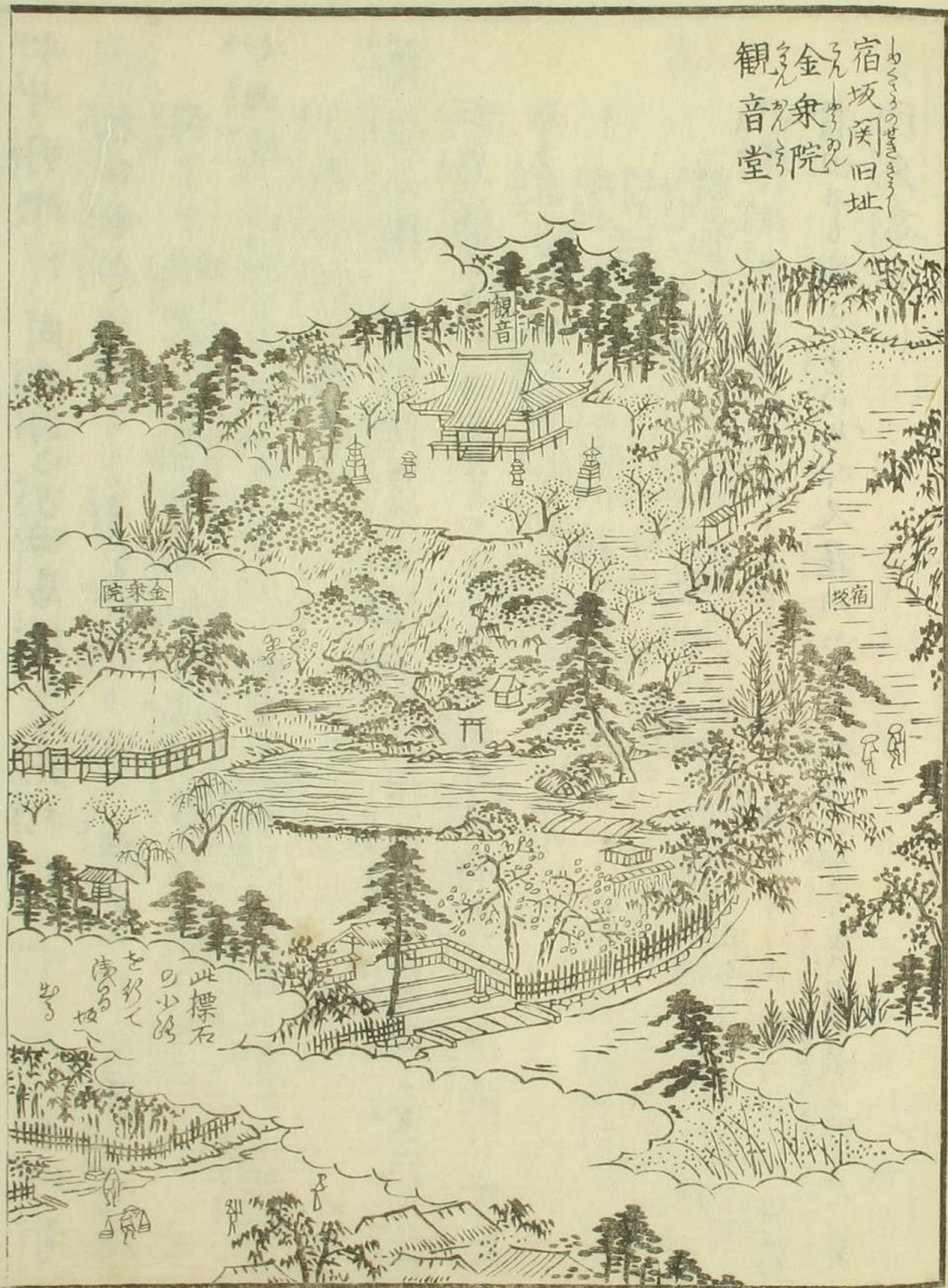
是を得是を得て此地に安置せり本堂外陣は掲げ



高田
南蔵院
鶯宿梅
氷川社
右橋



宿坂関旧址
金衆院
観音堂



後小大橋立慶の別荘の旧跡あり寛永の頃ハ
大將軍家度々此小入らせありしと云々假の沙殿なるも
構へ重れしとあり昔ハ此地小鶯宿梅と云々
大樹沙手自裁あり梅樹ありしと云々後枯りしと云々今ハ
此地ハ昔鎌倉街道の通路なりと云々鎌倉街道の楓樹と号
すとの今その境内ニ存せり

氷川明神社 同寺前道より左ニあり下高田村の産土神ニ
しと云々南藏院の奉祀なり祭神ハ素盞烏命ありて是を土
俗男躰の宮と称す 落合の氷川明神ハ稲田媛を祭れしと云々女
毎歳正月十日祭礼あり奉射の式あり甚質掛ありしと云々古
雅あり 此の南藏院の川より夷子大黒砂と唱ふ所の産を此砂ハ
水中に住る虫の化せる由近江古繁先生の雲根志より
右橋 南藏院の前小架を石橋を号く往中還りしと云々右の方小
名と云々旧名を藁塚橋と云々

水川明神社 同申酉の方田島橋より北杉林の中より祭神奇

稲田姫命一座なり是を女幹の宮と稱せり同所菜王院此

持なり 高田の水川明神の祭神素盞鳴 高田の宮と土俗ありやまの在原業平あり二条後の霊と祀る所の甚非あり

七曲坂 同所より前山の方へ上る坂をのり曲折ある處不名と此辺ハ

下落合村に属せり

落合土橋 同所坤の方上落合より下落合へ移道は架は土人云

田島橋より一町をくぐると上玉川の流と井頭の池の下流と會流

せり此あり此あり不落合の名ありと云

按北条家の不願役帳に奥津加賀守あり太田新六郎不願の中は

江戸落合の名を記し長野六郎又鈴木氏の地を領せりあり神田の

上水あり此水道へ玉川の上水を助水とせしれは尤後世に瀬川

應永の記に然るは不落合の名の発る此西の上水落合の發る附合と知

此地ハ強不名あり形大中より光りも他は勝れり山城の宇治近江の

瀬田より越え玉のめぐ又星のめぐ不亂と記し光景最奇と云夏

月夕涼多し

奥州橋 同寺の乾の隅は架も土橋をいへり往古の奥州海道不

しく水神の社の上通り黒田家の邸園は今も松の列樹ありと

其旧跡なりと云

宿坂関之旧跡 同北の方金乗院と云る密宗の寺前を四谷町此

方へ上る坂口をのり同寺の裏門の辺は終の平地あり土人云

てと云と云へり此地ハ昔の奥州街道中より頃関

門のありと云あり

木花岡耶姫社 同所小坂の中取あり

此坂を清玄坂と云ふ按此は富士浅間宮の祭神ハ木花岡耶姫と云ふ

當社の額木花岡耶姫命の六字ハ水戸黄門光國卿の親筆

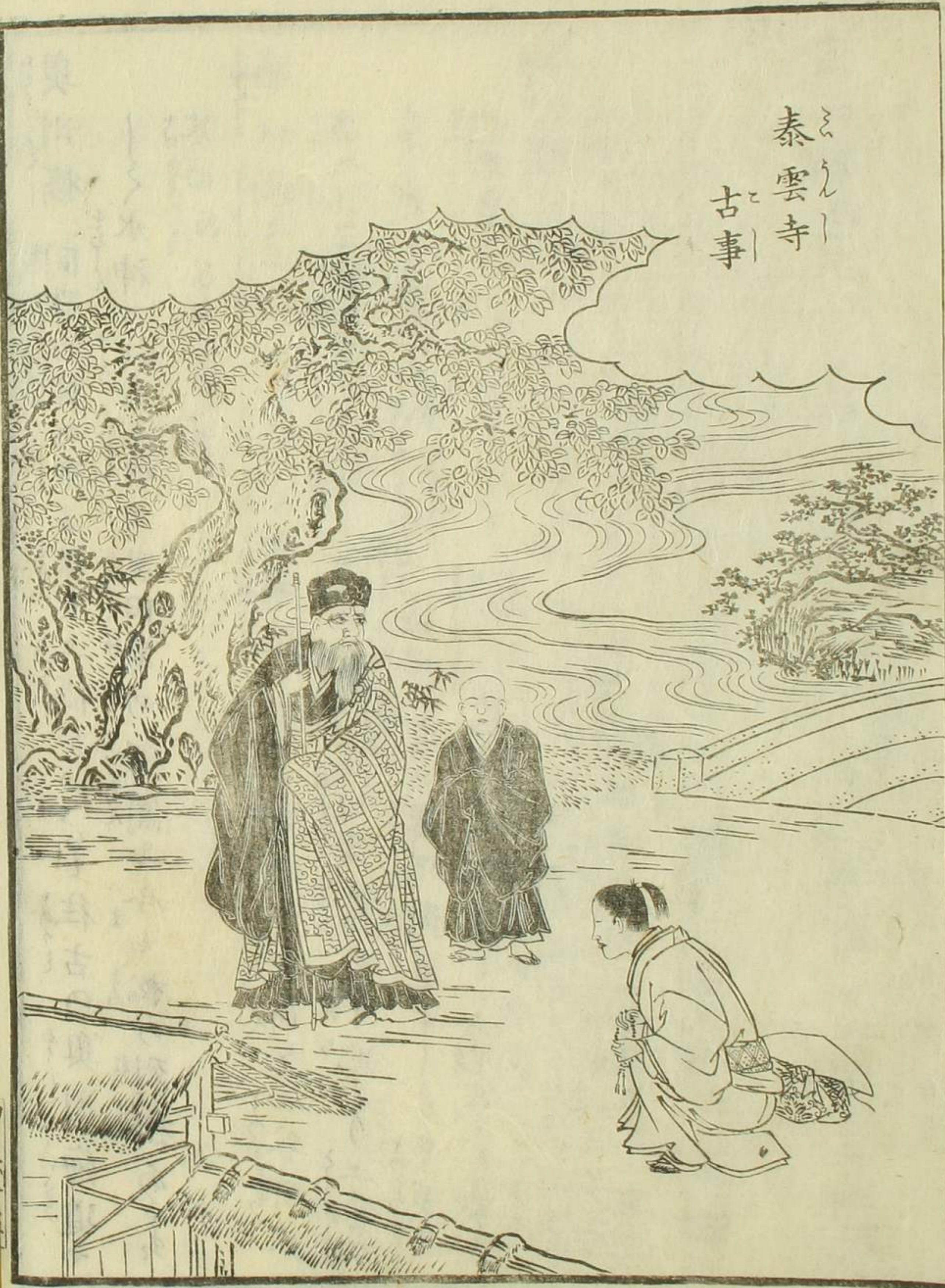
なり今別當金乘院に傳ふ

藤杜稻荷社 同所岡の根は傍より又東山稻荷とも稱せり灵驗

あり今別當金乘院に傳ふ

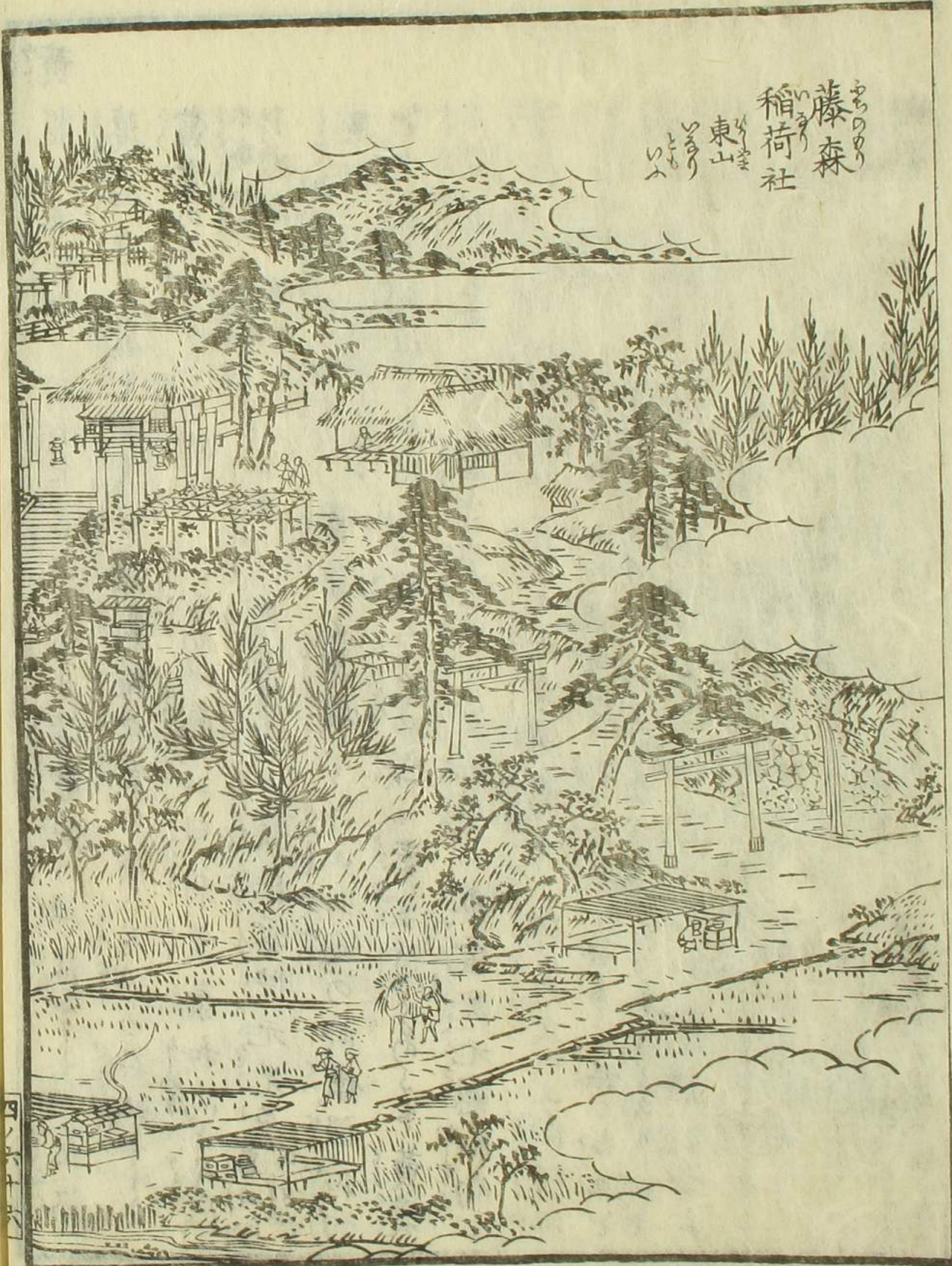
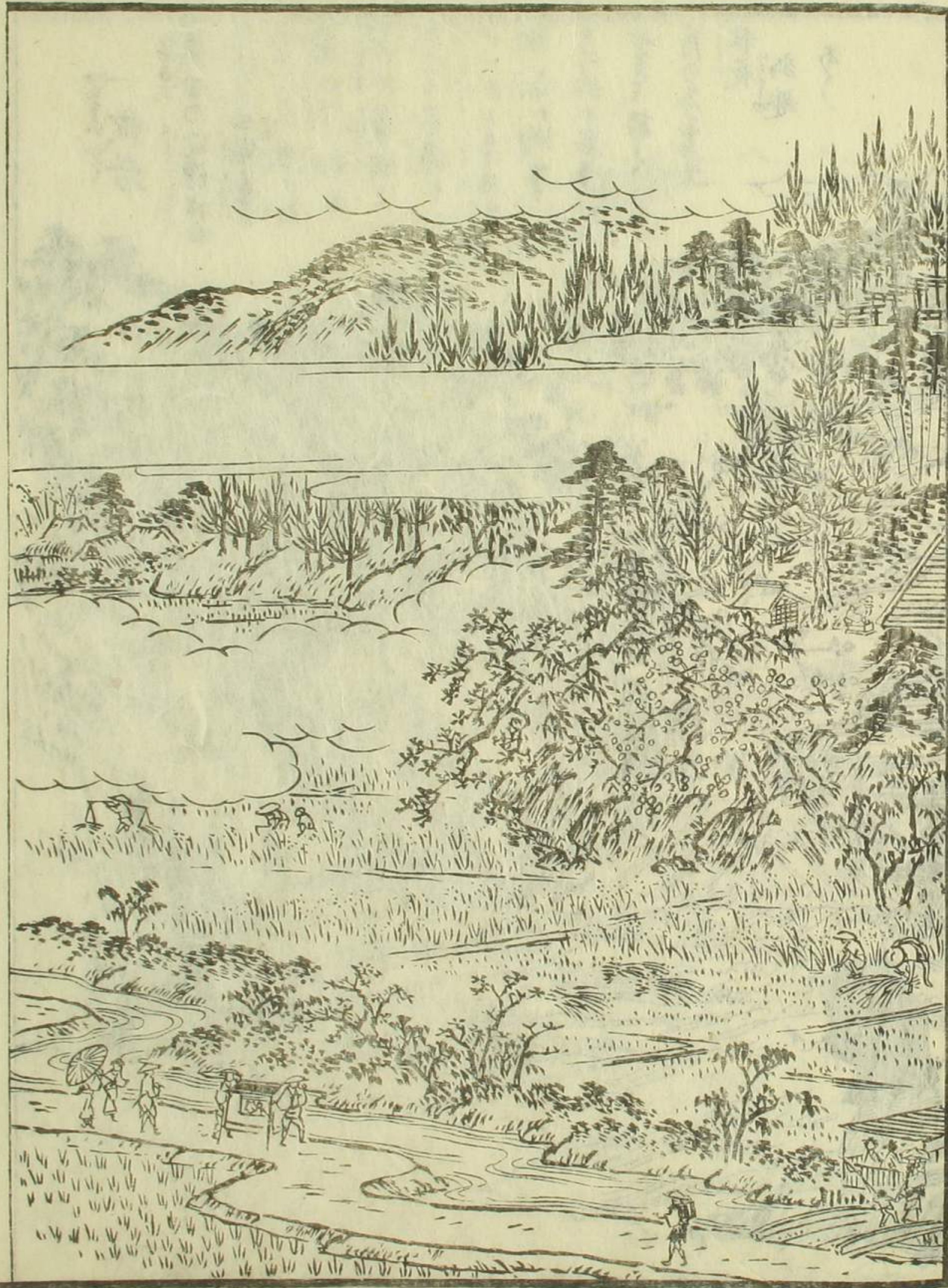
頗る参詣の徒多し落合村の菜王院奉祀也

泰雲寺
古事



黄龍山泰雲寺

同所上落合あり黄檗派の禅林あり花洛
 萬福寺に属せ女孺如意輪觀世音の像天然の石仏あり
 當寺の土中より出現ありとあり荆山白翁道泰和尚と号し
 本庵和尚の法嗣あり二世ハ了然尼あり三後法雲院元光尼
 然尼の師あり當寺を興復し十山和尚の師鐵禪和尚
 鐵禪和尚の法弟あり當寺を興復し十山和尚の師鐵禪和尚
 を中興の開祖とせ徳門小掲く額に泰雲寺とあり黄檗
 本庵老人の書なり當寺第二世了然禪尼ハ泰雲院元徳和尚と
 号し性ハ葛山氏駿州富士の大宮司葛山十郎義久の子同長次郎
 とあり女なり長次郎ハ京師泉涌寺の前住居茶事を好み古画と
 鑑定も項世に画見の長次と称せれり松屋
 叢話小尾張國人とあり又了然ハ植山始大内小仕へ名を寄生とあり
 十庵とあり備臣の母あり可考始大内小仕へ名を寄生とあり
 後仕を辞し家小歸る江戸碓子ハ了然尼ハ東福門院小仕へ
 人あつて婚儀を整へ松田何某とあり醫生の許に嫁せしむ
 江戸碓子小松田男女子三人を生り新著聞集に三十余歳の時男女三人の
 晩翠とあり子を生せしあり長男後小葛山長十郎と





一枚岩

あまの
落合の近傍津田

上水の白堀

あつちの堆の巨

巖水面の彰れ

藍水巖頭

ゆれて飛瀑

此水流小鳥居

淵岸の淵等

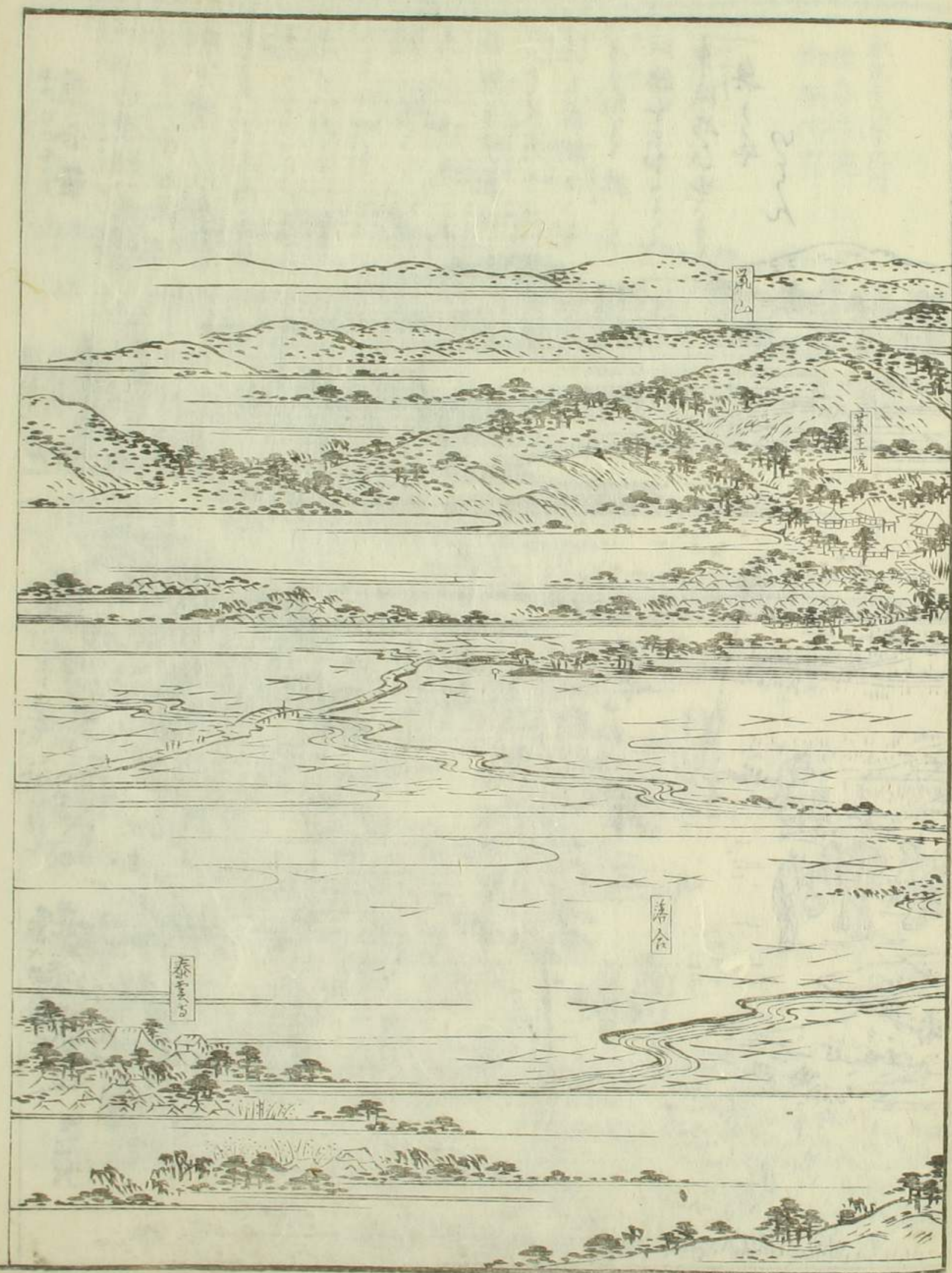
その脇小名多

此を八都

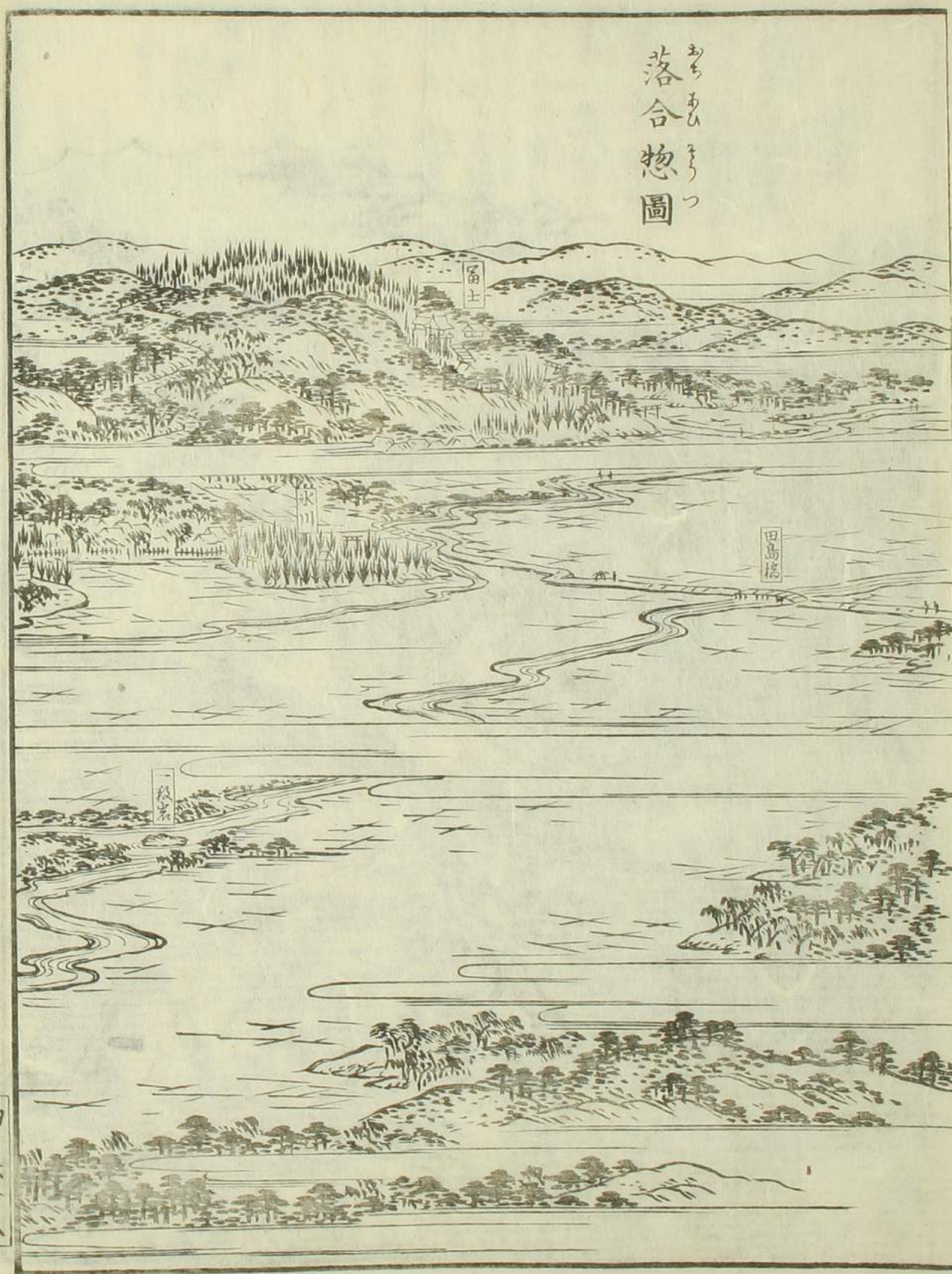
月の名を

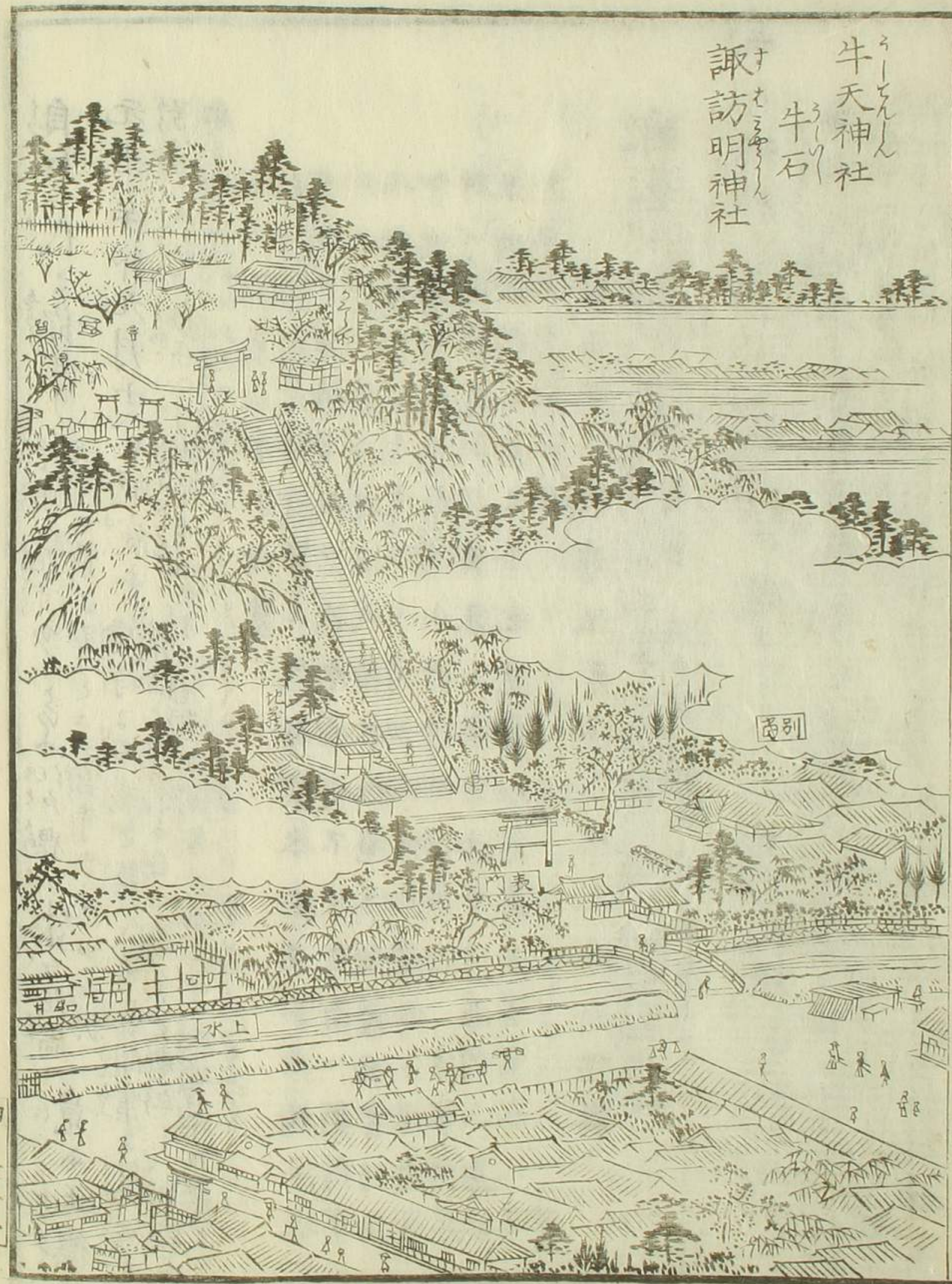
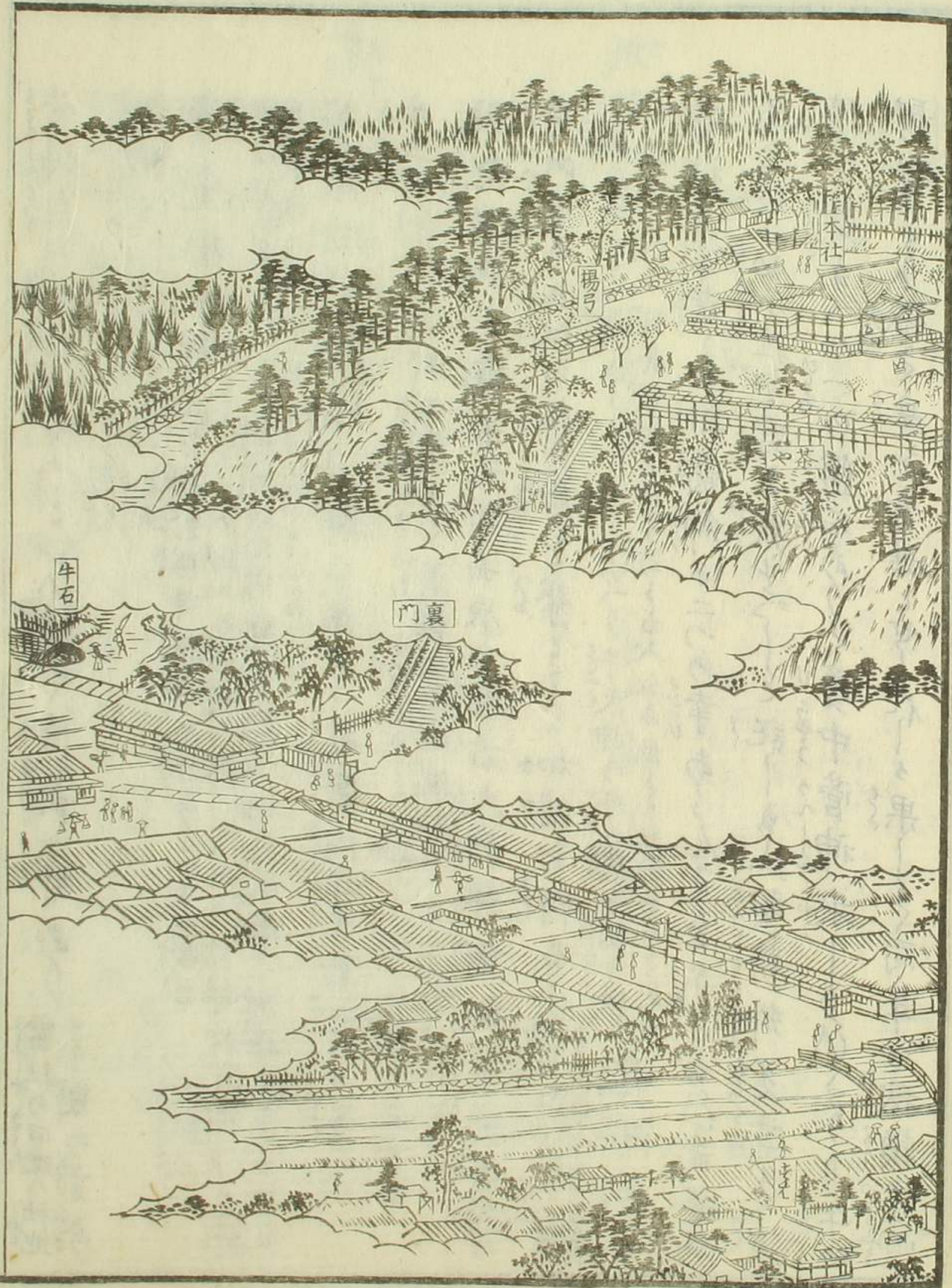
秋夜

出遊



あぢあひ
きりつ
落合惣圖





牛天神社
牛石
諏訪明神社

別

水上

門裏

牛石

菅神自ら周造一のふといひ傳く渉長六寸あり當社の旧地ハ社地より東の於今

水府君の郎中入り神木

降魔狗社壇小収む鎌倉佛師運慶の作ありとのみ往古大猷公

華表鳥居の額ハ額常額天満宮近衛内大臣家熙公筆

牛石裏の境の下の隅の方あり巨石をこきり名つ次の社記の条下

社記云往古壽永元年壬辰の春右大将頼朝卿東國追討の時此所の入江の松小舟を繫ぎて和波を待あり此辺上古ハ入江

菅神牛の衆一頼朝卿ふ二つの幸ありんをふし武運満

足の後ハ必小社を営む報まると託し頼朝卿後覺る後

傍を顧多ハ一の盤石ありく夢中菅神乗し多ハ一牛の

髻鬘より依く是を奇異とせん果く同年の秋頼家卿

誕生あり又翌年癸巳の夏ハ動く平家悉く敗る其報

賽とく元暦元年甲辰此所神を此地ハ勸請ありく神領等

寄附ありと云云又江戸名勝志に草紙北条氏康兵を起

詠訪明神社 同所上水堀より南の方詠訪町あり祭神ハ健御名

方命なり相傳ハ明德元年庚午牛天神の別當梅本坊衆觀

法印靈告ありあり勸請なりと云云土人云此地旧名を忍

ぶの森と云といり梅本坊ハ今の竜門寺是なり祭礼ハ毎歳正月と

慧日山金剛寺 同所上水堀の端あり曹洞派の禪刹也ハ駒込

吉祥寺ハ屬せり昔ハ臨濟宗なり六年己巳曹洞宗ハ改

天目忠峯普應國師中興ハ用山和尚とのみ

鎌倉右府將軍實朝公碑後山の半服あり永正の頃造立

惠日山金剛禪寺者始波多野中務忠経為鎌倉右

府將軍實朝公菩提建長二庚戌年建立相州波多

府將軍實朝公菩提建長二庚戌年建立相州波多

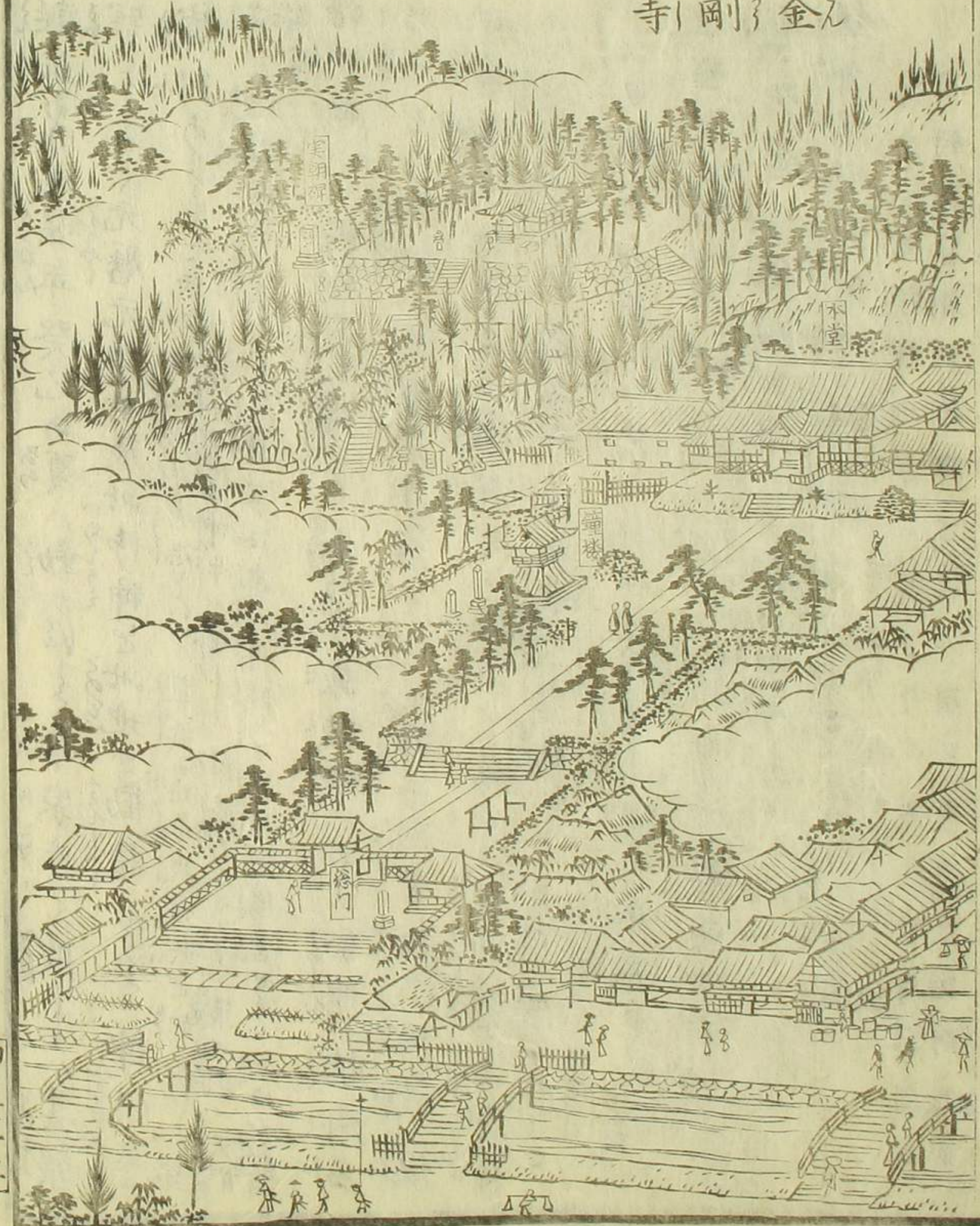
氷川明神社



本寺法寺

此色
林田
上水
あり

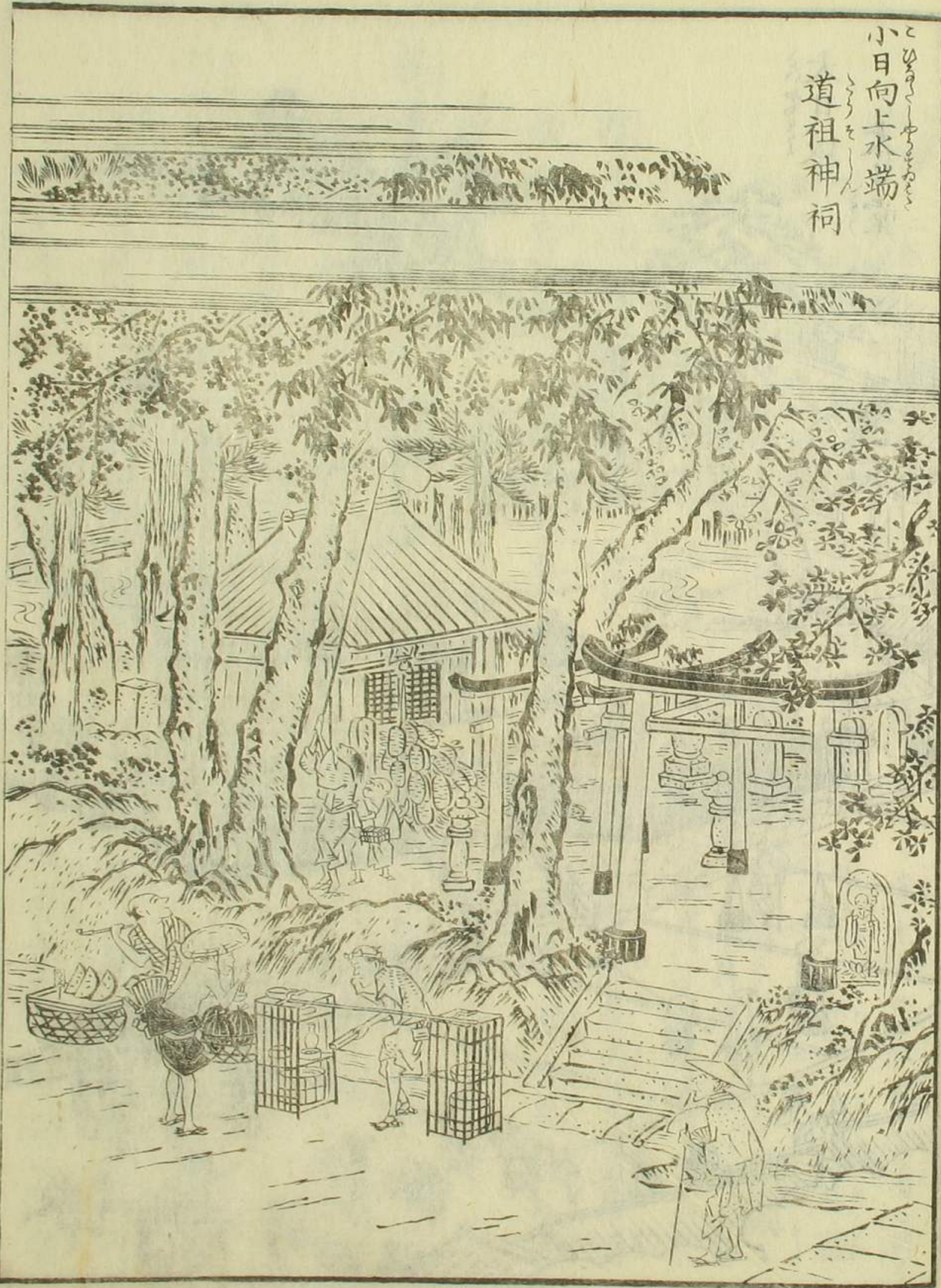
金剛寺



四七十三

寺
門
石

小日向水端
道祖神祠



野莊田原村後江戸下野八道心移寺於武州江
戸莊小日向郷金杉村亦其後文明年中太田左衛
門入道静勝軒春花道灌重興焉肯日者臨濟宗也
其時之開山普應國師二代巨舟和尚中興叔悅禪
師永正六年己巳年改曹洞宗者也維時永正十癸酉
年七月十日金剛現住比丘實山叟記之

金剛寺殿鎌倉右府將軍實朝公大禪定門

地蔵堂 兼久元己卯年正月二十七日
地蔵堂 同山頂あり天竺佛あり頼朝御鎌倉四覺寺此
地より移し置ありと實朝公の時波多野一宇を建立ありと彼

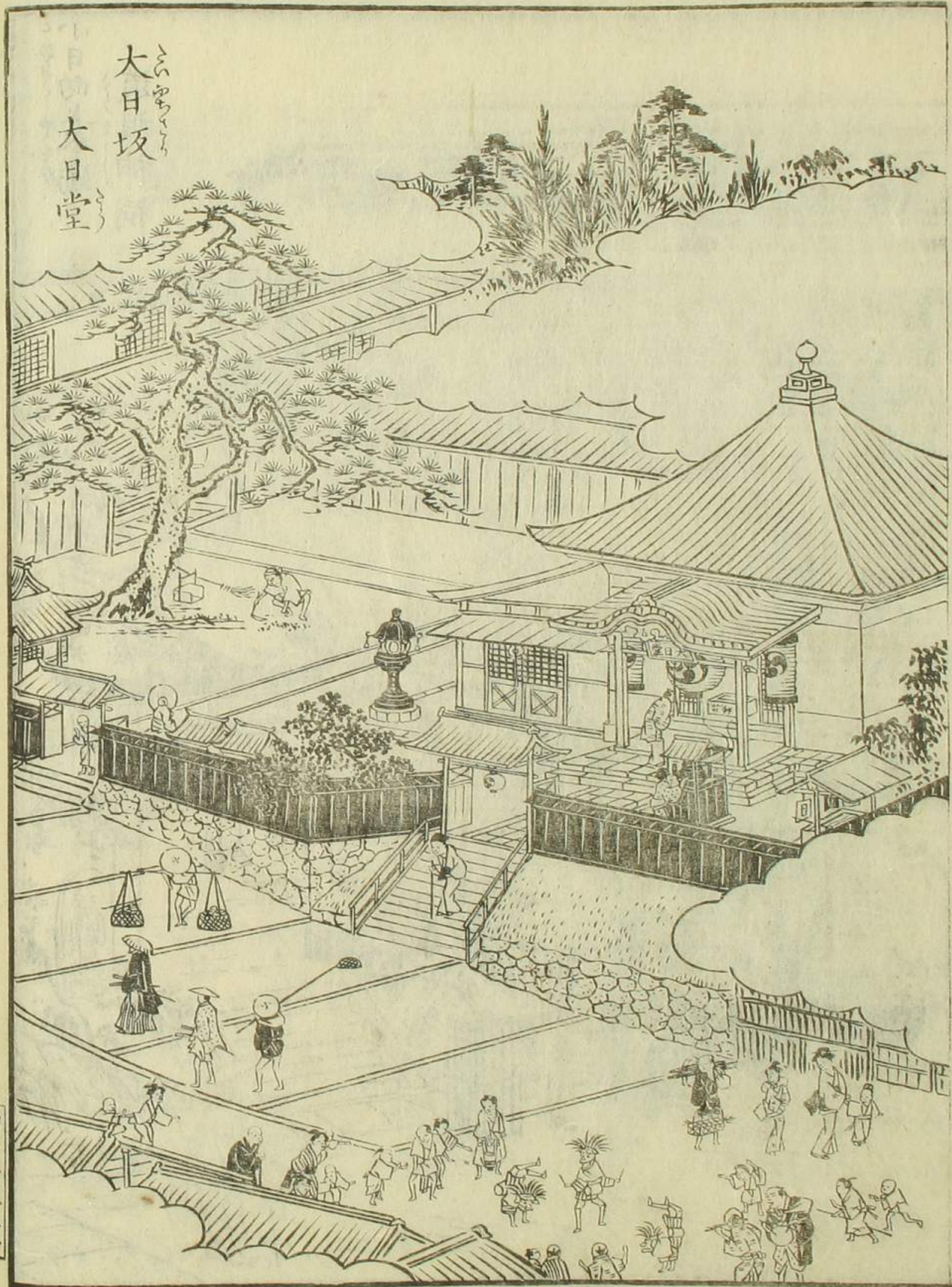
當寺ハ波多野中務忠經 鎌倉中務丞忠經と云名あり諸家系圖不
改心忠經ハ 鎌倉將軍實朝公の菩提を弔ひしつゝ建長二年

庚戌相州波多野莊田原邑に造立せし所の精舎なりと云後江戸

下野入道心佛今の地は遷せしつゝ又文明年間太田道灌當

寺を重修し叔悦禪師を住持とす 梅花無尽蔵傳長
花の注し叔悦禪師

道灌の伯父 故不實朝公及び道灌の靈牌ありし不肖像等と置
ありと云云 徳門の額に慧日山と書せしハ黄檗即非の筆あり
白石先生云く 梅花無尽蔵



大日坂
大日堂

文明十七年己巳東遊の詩の注は芳林院は其の李太白の墨蹟を看る同く
其下は芳林院今金剛寺と号しあり

概は北条家の領限小島津孫四郎北品川小石川及び金曾木内法林院
金剛寺分寄の地を領せしと記す又小田原実記
大永四年正月十三日北条氏綱上杉樗理大夫朝興とたりひ勝江の城よ
うる条下は其項當所芳林院の孤舟和尚来りて萬里居士の江序記を
捧るとまゝ孤舟和尚後ハ金剛院に住まを記せりとも因て考られハ
金剛寺と法林院ハ別なるなり

當寺往古ハ境内廣く寺院巍々として首座主閣侍者沙弥喝
食維那納所行者火番ありて祈禱上堂參禪の式勤り怠
らざる堂塔も壯麗なりとあり

道祖神祠 同上水堀の端金剛寺より二町を西あり明德
年間勸請ありて別當竜門寺は當社勸請の碑と稱
せらるるのあり

永川明神祠 同西の方二丁餘を隔て是も上水堀の端慈照山
日輪寺とて禪林あり祭神ハ當國一宮も同一勸請の始久
しうとありて中古太田道灌の再興ありて小日向の鎮守

かり祭礼ハ五五九月の十七日あり

當社ハ元龜の年号あり
庚申侍供養の古碑あり

大日堂 同西の方大日坂あり天台宗より覺王山妙足院と

号に相傳ふ本より大日如来ハ慈覺大師唐より携来す所の靈像

なり往古ハ叡山の中ハ安置ありしと元龜年間織田信長念門

を襲つて頃堂宇悉く兵火ハ罹りて灰燼とありされと此本

尊ハ火焰を道れ出近江國兵主明神の社頭深林の中に

移すありて後夜々瑞光を放ちありて藤原氏某感

得し其家より移しまゐりて且暮供養せしめり怠りなり

然し此人嗣子ありて憂へし此より祈求し竟一女子を

假く長きふ及んで紀伊亞相頼宣卿に仕へたり後落飾して

法善尼と号し此尼靈夢を感するの後當寺を闢きありに

安置しきりしとあり
大洗堰 目白の涯下あり兼應年間 嚴命より當國

多磨郡牟禮邑井頭の池水を江戸大城の下に通せし

む其頃此地ハ堰を築せしれ上水の餘水を分らし天明

六年丙午の洪水ハ堰崩れしりて於て再び堅固に築せ

られ古より壹尺たり其高さを減せ故ハ水嵩時其上を

越え流れ落し損も患なりしとあり

龍隱庵 同所上水堰の端あり昔ハ真言宗より安樂寺と

号く故ありし元祿十年丁丑黄檗宗に改め洞雲寺の持と

なり洞雲寺ハ音羽町ハ平石和尚住持を本より正觀世音慈覺

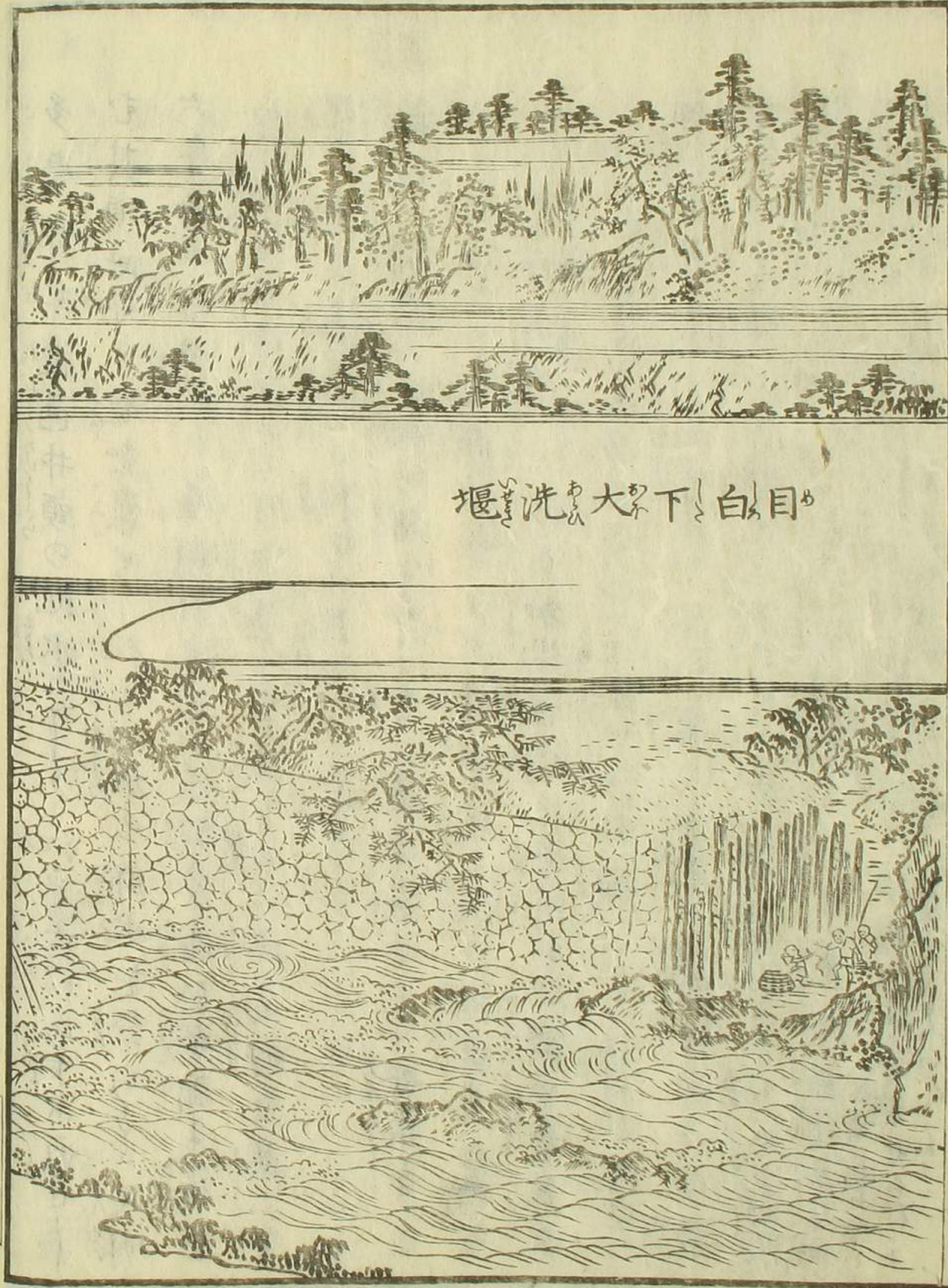
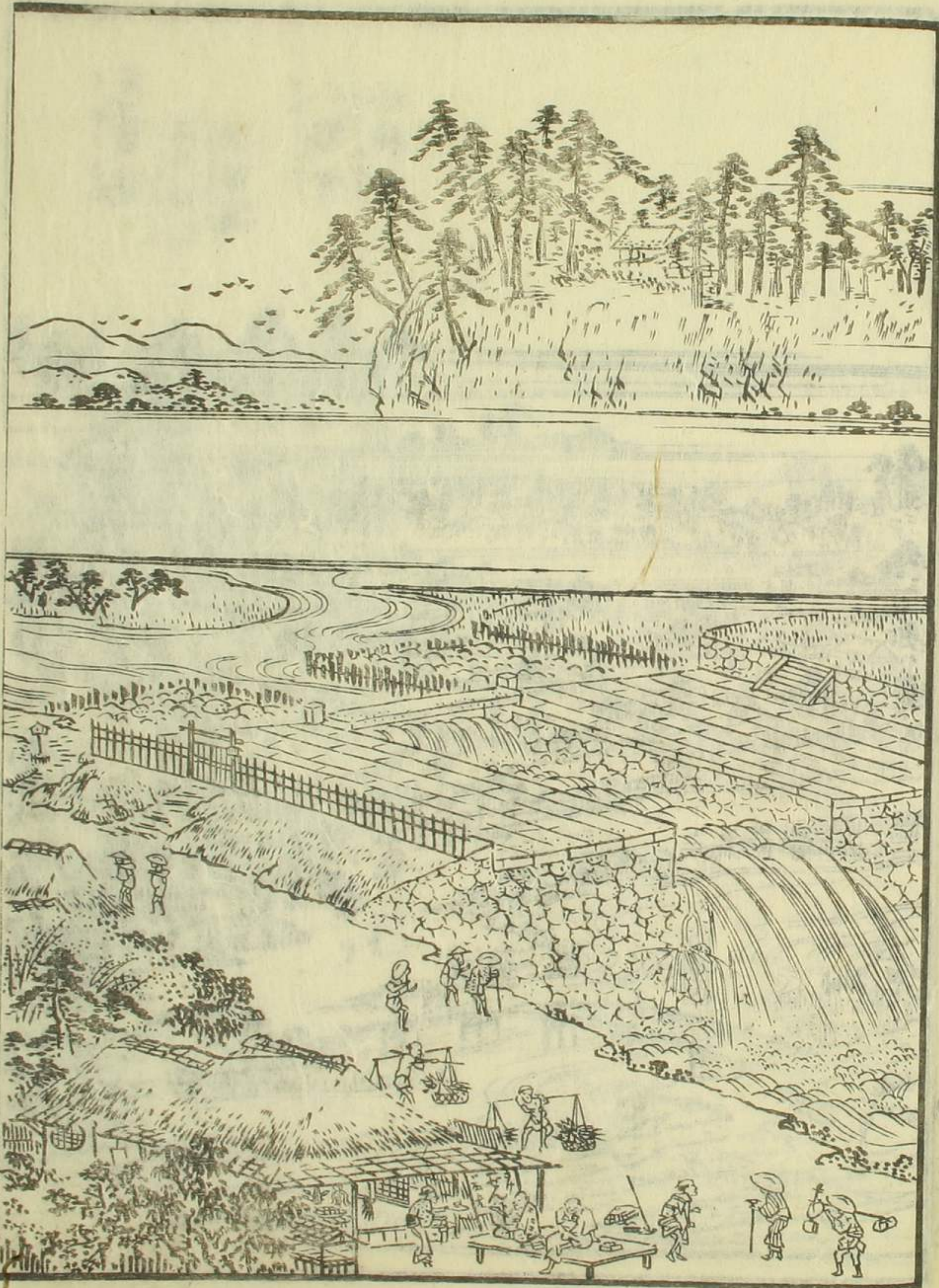
大師の彫造とのハ庵の前ハ上水の流れ横しり南ハ早稲田の

耕田を望み西ハ芙蓉の白峯を顧み東ハ堰口より水音

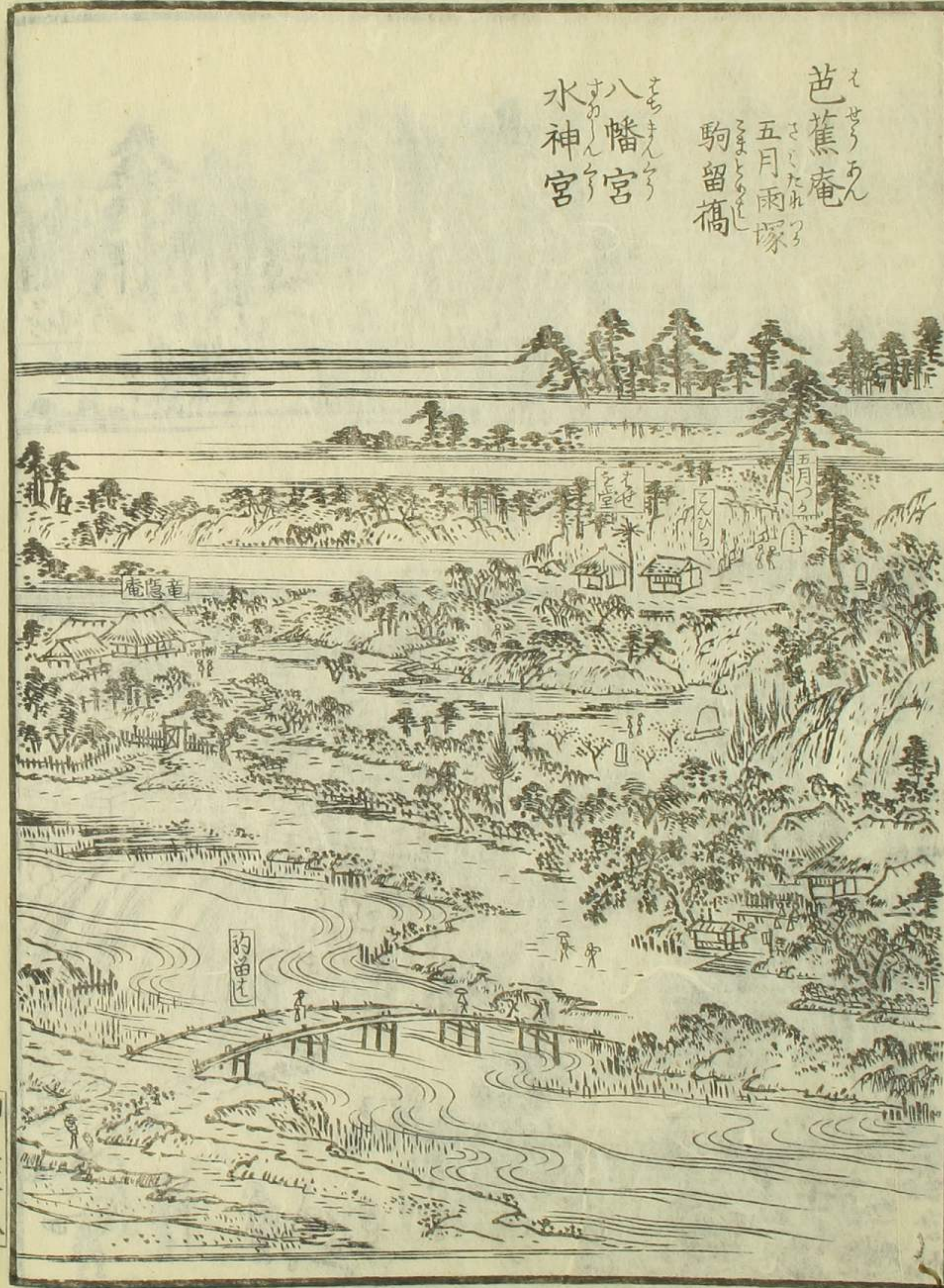
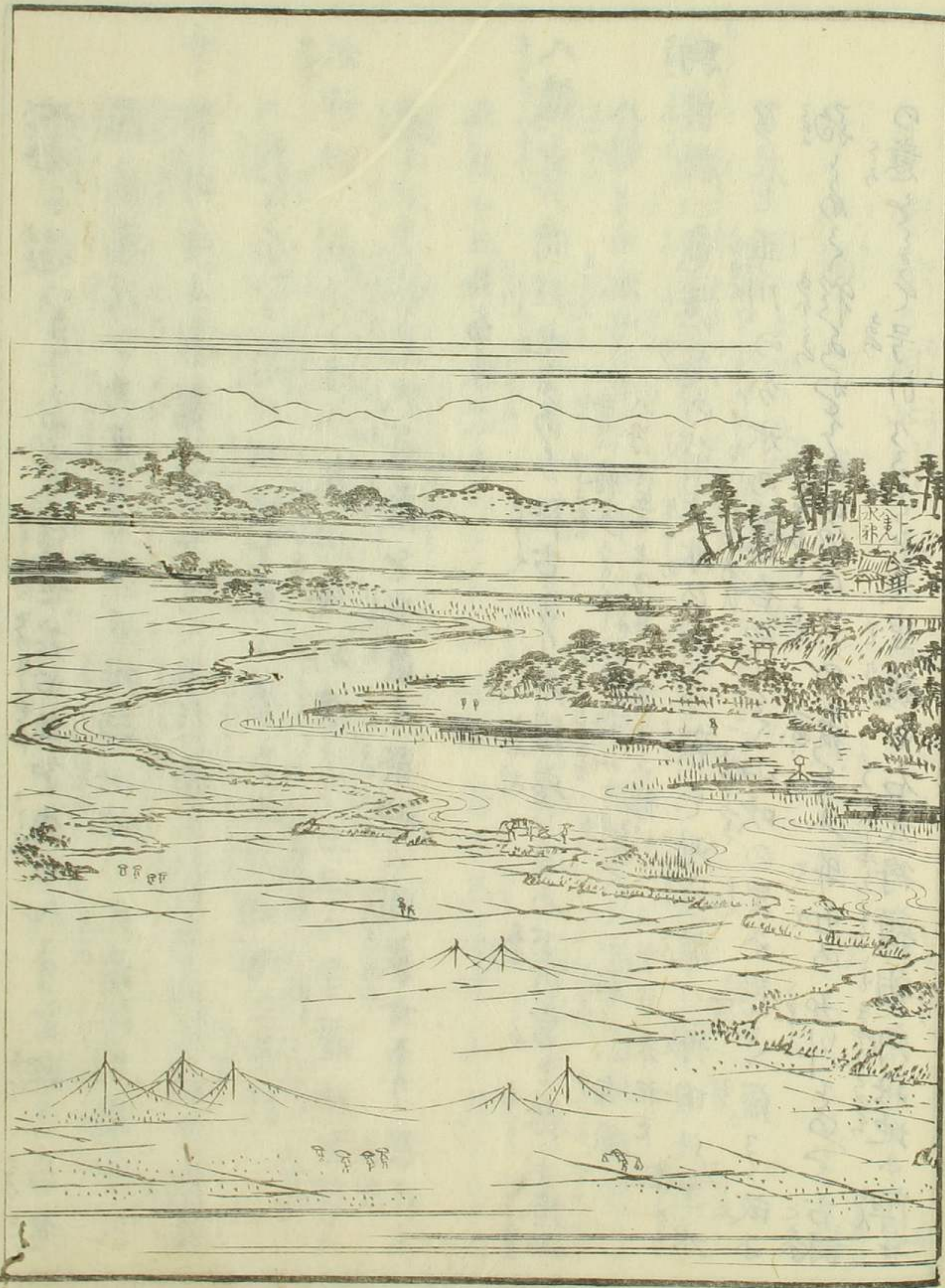
冷々として禪心を澄しめ後ハ目白の臺聳へり月の夕雪此

朝の風光も又佛より昔上水開発の頃芭蕉翁 芭蕉翁通称

甚七郎此の司とあり此上水堰割の時藤堂家へ普請の命せられし



堰洗大界下白目



芭蕉庵
 五月雨塚
 駒留橋
 八幡宮
 水神宮

此地小遊の事一あり後世其旧跡を失ひん事を歎き白鬼
園宗瑞及び馬光なりと云俳師此地の光景江州瀬田此
義仲寺の髻鬘をとりて五月に隠れぬものよ激
の橋と云う翁の短冊を塚に築き五月雨塚と号す
水神社 同所並に龍隠庵別當より上水の守護神を祀る
る北辰妙見大菩薩を安置を祭神ハ罔象女あり祭礼を

五月十五日あり

八幡宮 同社地あり往古ありの鎮座と云ふ下の宮と称し椿山

八幡とも称せり 昔ハ椿多かり友ハ椿山と号す云祭礼ハ毎歳
八月十五上の宮と隔年ハ修修を洞雲寺奉祀を

駒留橋 竜隠庵の前上水の流架を此水流ハ神田此上水

なれと玉川の分水の落合や山吹の里ハ傍り流る故小
駒とありやあかせん山吹のの流るや井吹の玉川と云古詠
の意をとり号けりとそ又里諺ハ右大将頼朝卿此地小陣せ

られ頃雪の朝此川伝ひを駒小打乗りと眺望ありと奥

尽く此橋の辺より歸るあり駒留橋と号すとも詳

な 同所幸神の社記ハ駒留橋のあり
此橋を云なり 猶其奈下を

拾穂軒北村李吟翁別荘旧地 同所目白の臺松平大炊侯の庭中此

ありと云ふ山の井と称するもの今ハ埋むる名のを存せり
俳書ハ増山の井と云あり 此翁此地ハ閑居ありと著述
ありと云ふ故ハ此名ありと云此辺時鳥の名ありと外よりと

早 接ハ別荘の名を
此ハ別荘と云ふ 早 此ハ別荘を求めと云

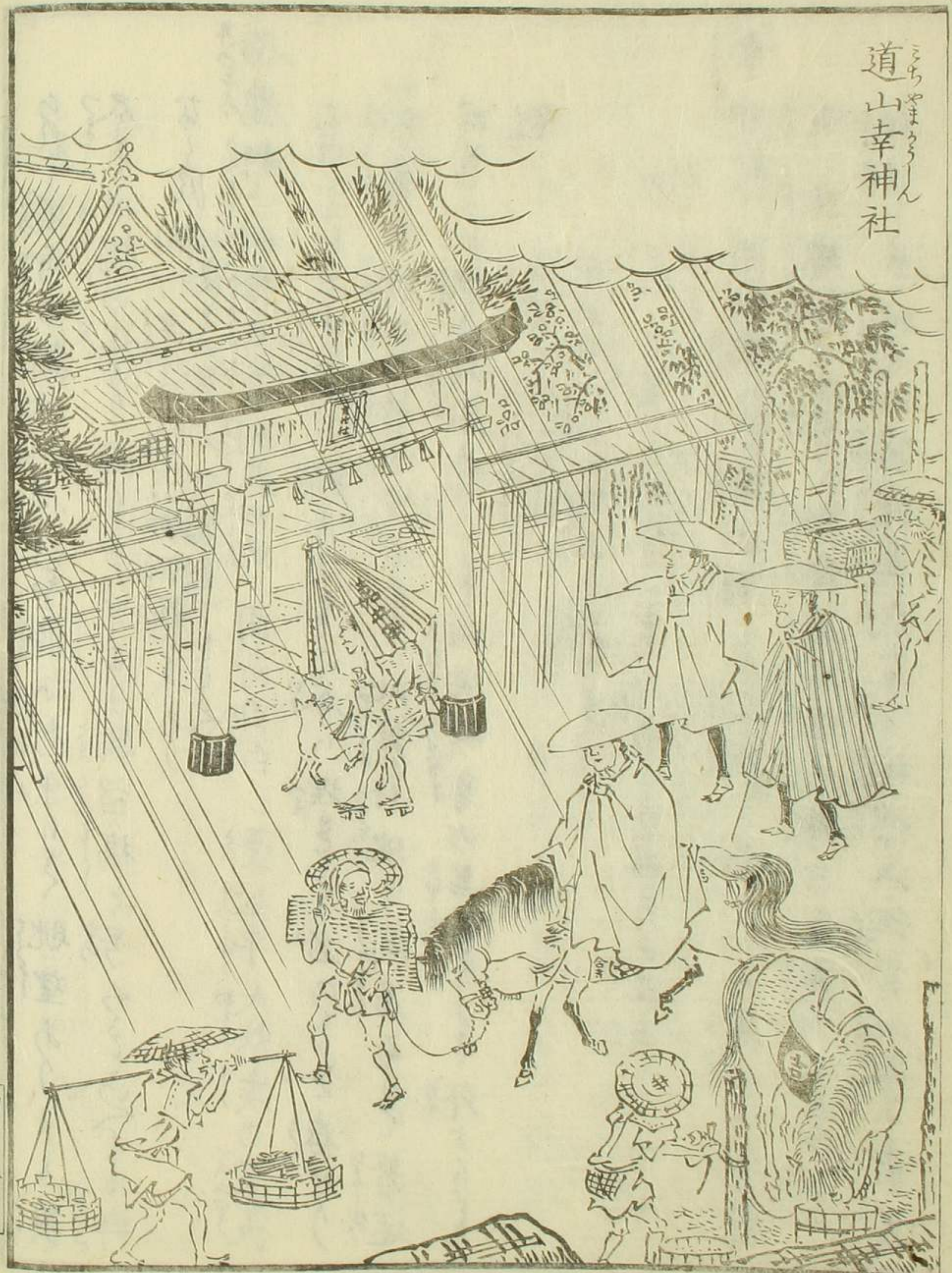
佐 此ハ別荘を求めと云 佐 此ハ別荘を求めと云 李吟

幸神祠 同所東の方道を隔て右側あり一小道山の幸神

或ハ駒塚社とも号く祭神猿田彦大神なり庚申の日を以て

縁日と云社司ハ宮城島氏なり相傳ハ往昔此雨ハ豪民

道山幸神社



あり 者の廟と云 金の駒と塚つみ小築こぢ篋せき榎えのき樹きを栽まくかとふ幸神を
 勸請す 當社の神体ハ昔此麓入江なり 項其水中あり 古へ此辺鎌倉
出現あり故道山の号ありとそ中古大小荒廢くわいしと神木の榎

海道なり 故道山の号ありとそ中古大小荒廢くわいしと神木の榎
 の下小徳の叢祠のそ存せしと項の神主政泰なる者今のやと祠を

宮と建るとのい里諺云延宝の項金の駒の精ありと此辺の田畑をあひ
 谷と唱ふ又橋の上う其駒の形方をまり 追々時ハ山谷小隠る其谷を駒う

目白不動堂 同所東の方ありと堰口の涯小臨む真言宗ゆと

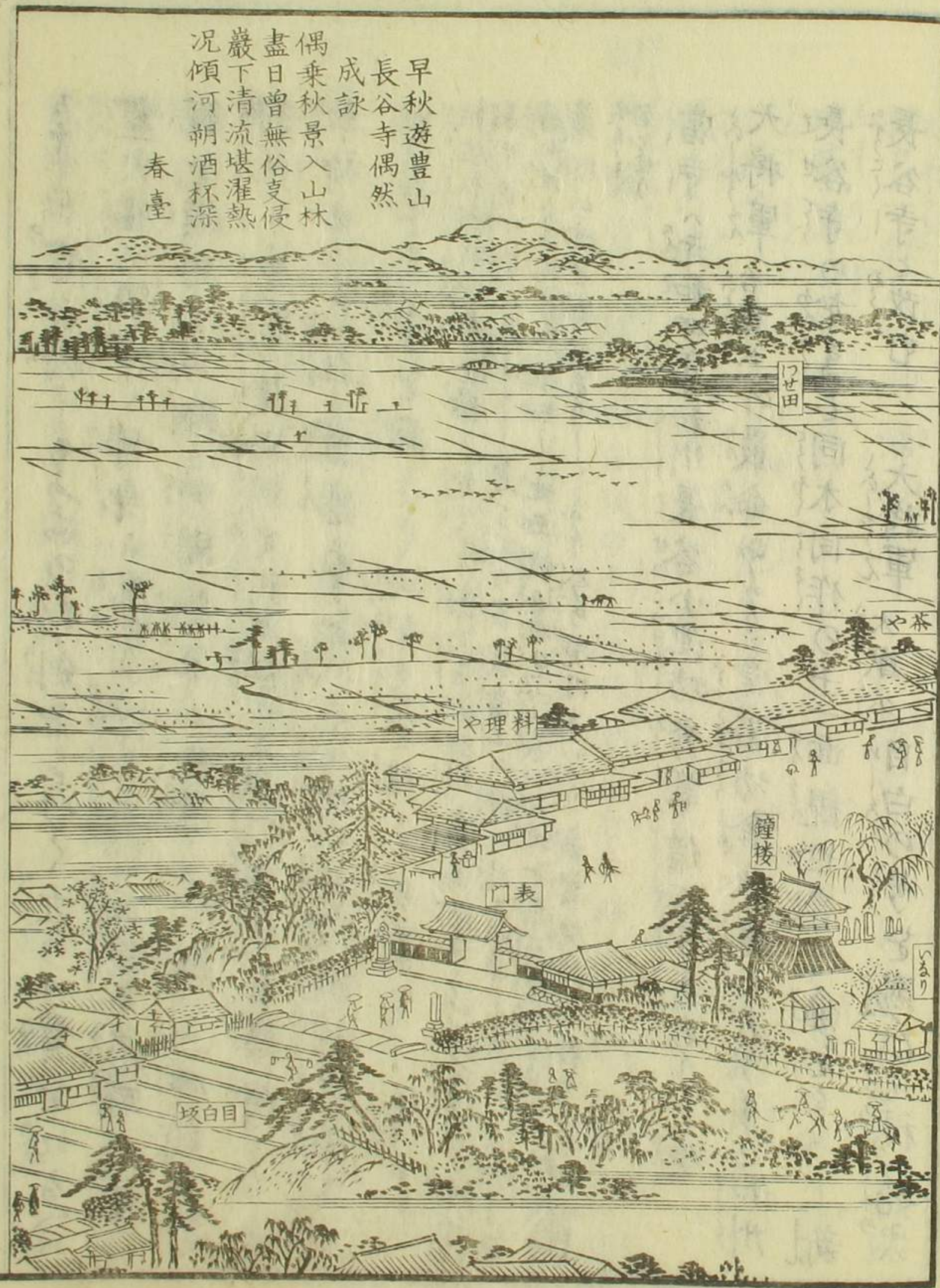
東豊山新長谷寺と号に 長谷小池坊の本もと不動明王の靈像を

縁起云弘法大師唐より帰朝の後羽州湯殿山ゆだんにま恭こう篋あり

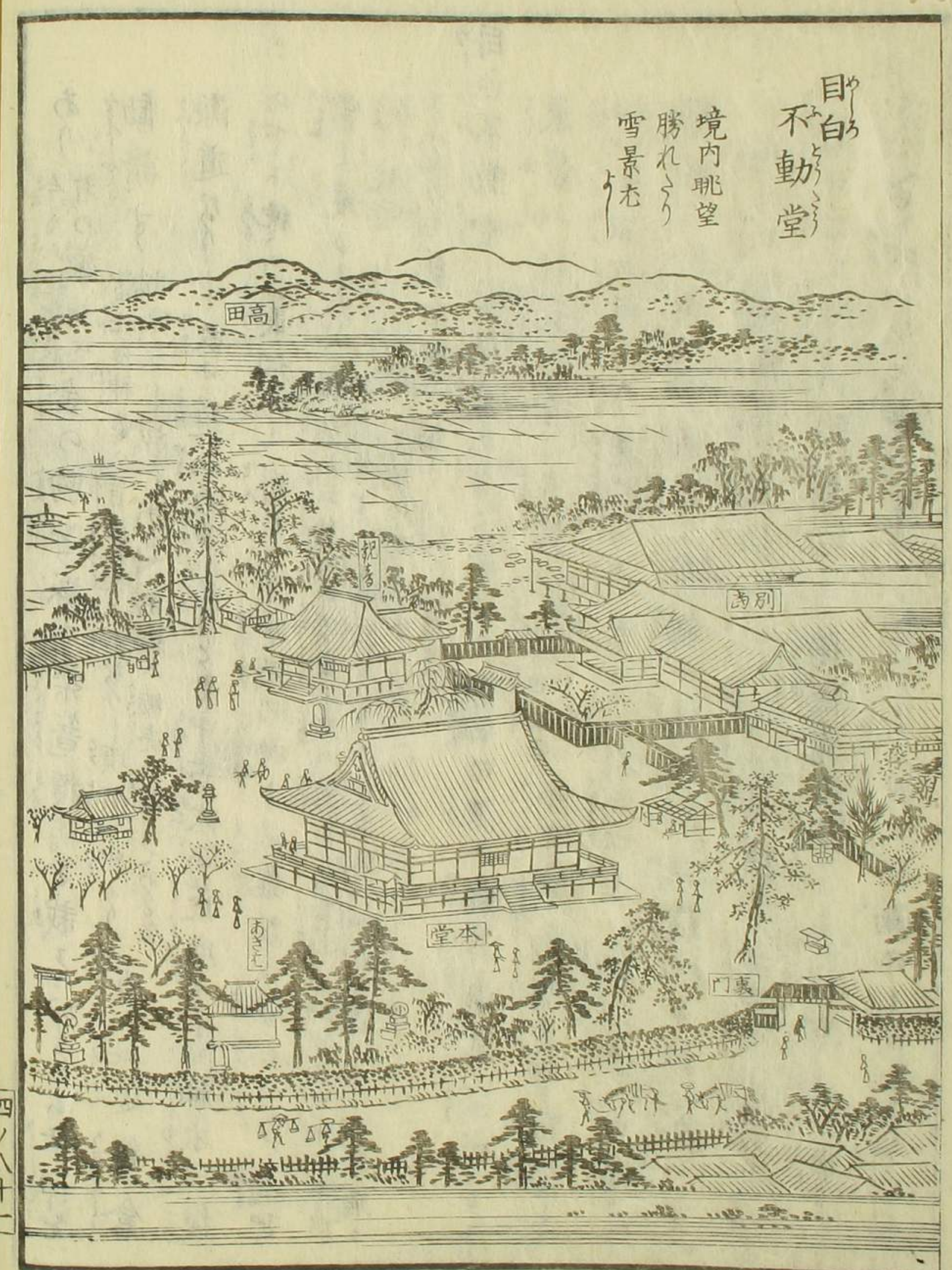
時大日如来忽然と不動明王の姿すがたにま変現しま滝の下もと現れまひ

大師おほし告つて云く此地ハ諸佛内證秘密の浄土じやうとあれハ有為うゐの穢け火くわを
よ故ゆ小凡夫登山おんふとしとりかと今汝いま無漏むろうの上う火くわをあと

早秋遊豊山
 長谷寺偶然
 成詠
 偶乘秋景入山林
 盡日曾無俗吏侵
 巖下清流堪濯熱
 况傾河朔酒杯深
 春臺



即
 不動堂
 境内眺望
 勝れり
 雪景尤



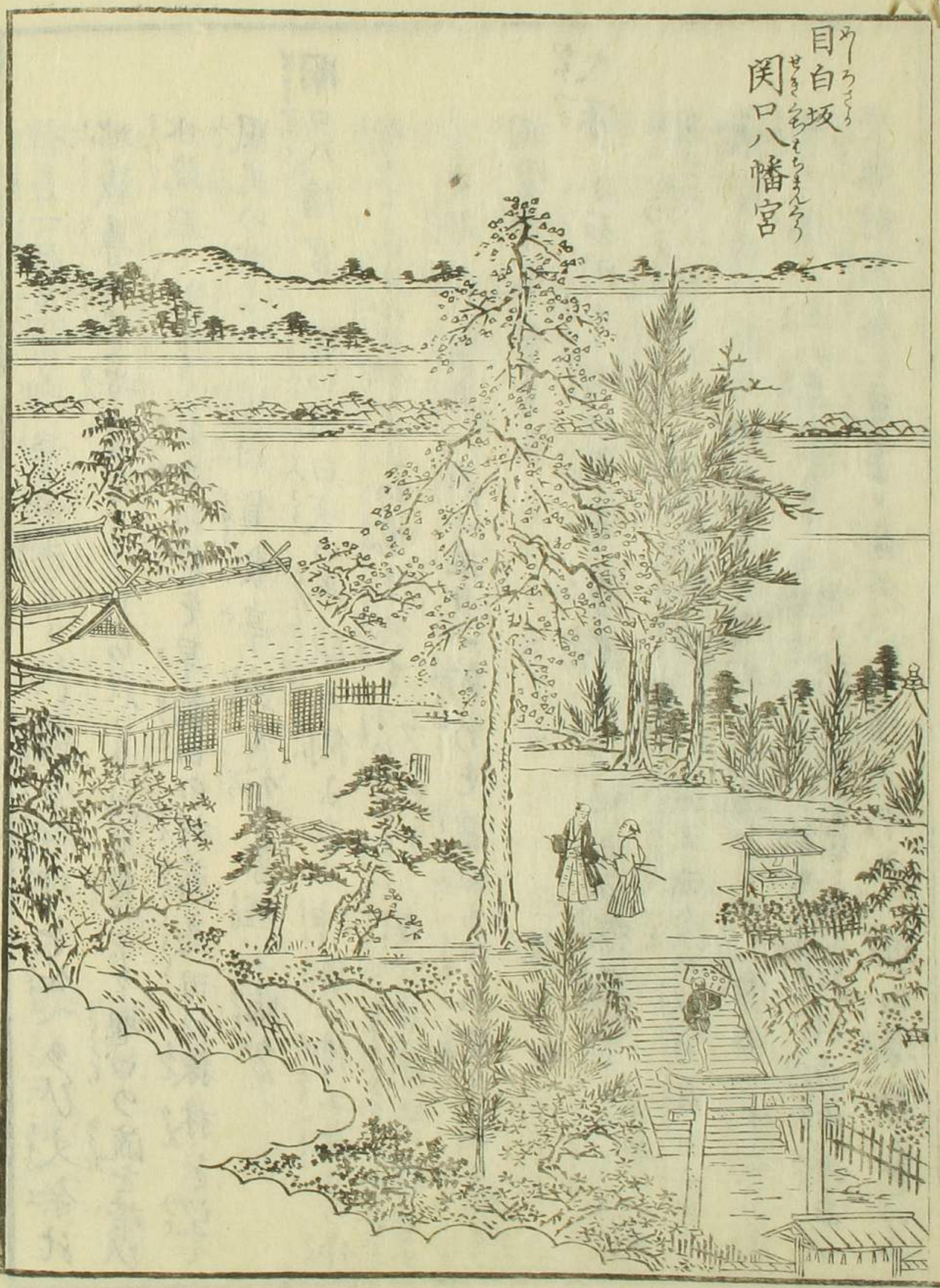
る一と宣ひ持しあふ所の利剣をとりて左の右臂を切りハ
靈火盛小燃ゆく佛身も充てり依り大師面前出現の像二
軀を摸刻し一躰ハ同國荒澤小安置し一躰ハ大師自ら獲
持なりあふ後野州足利小住せる沙門某是を感得し
奉持せし一年靈感あるを以て此地の住人松村氏某小を
かり竟し一字を闢き此本を移し安置なり
往古松村氏其夢を感し不動明王を野州より此地小つり
某途中山のぬきあつたの袈裟當山の榎の枝小かりありし
縁の地を推知し地主渡邊石見守某へ此地を乞ひ石見守
藩邸の地を寄附ありしとあり今の境内是なり袈裟掛榎と稱
名とせり

當寺ハ元和四年和州長谷小池坊秀筆僧正中興ありし頃
大將軍 台徳公の嚴命ゆかり堂塔坊舎造建立ありし和州
長谷寺の本と同一木同作の十一面觀世音の像をうつし新
長谷寺と改む
大將軍 大猷公 目白の号を賜ひ元禄の始ハ

桂昌一位尼公御帰依浅き諸堂修理を加へし丈余此
地藏尊等と安置なるしゆられし此地麓中を堰口の流を帯ひ
水流深きと日夜絶せ早稲田の村落高田の森林を望み
風光の地なり境内貧食亭多く何れも涯小臨り
関口八幡宮 堰口目白坂の半服左側小あり神躰ハ佛工春日の作
なりとの小當社を上の宮と稱せ下の宮ハ先ハ関口水道町鎮守小
祭礼ハ隔年八月十五日小修繕也當社も下の宮も同一く
洞雲寺奉祀し

大塚 小石川原町の辺より護國寺の辺迄の惣名なり
西小分つ甚廣莫の地なりしあり難声 或人云今の水戸大塚の地東
窟の辺も東大塚あり此辺西大塚と稱せし
藩邸古の奥州街道あり榎木の大樹ありハ平項の一里塚あり
則大塚と云ハ是なりと
本傳寺日蓮大士塚起り云く又南向亭云く
大塚の地昔ハ富士見塚と稱せし
安藤對馬侯の東の方森川氏の構の中ハ一堆の塚ありし

目白坂
関口八幡宮

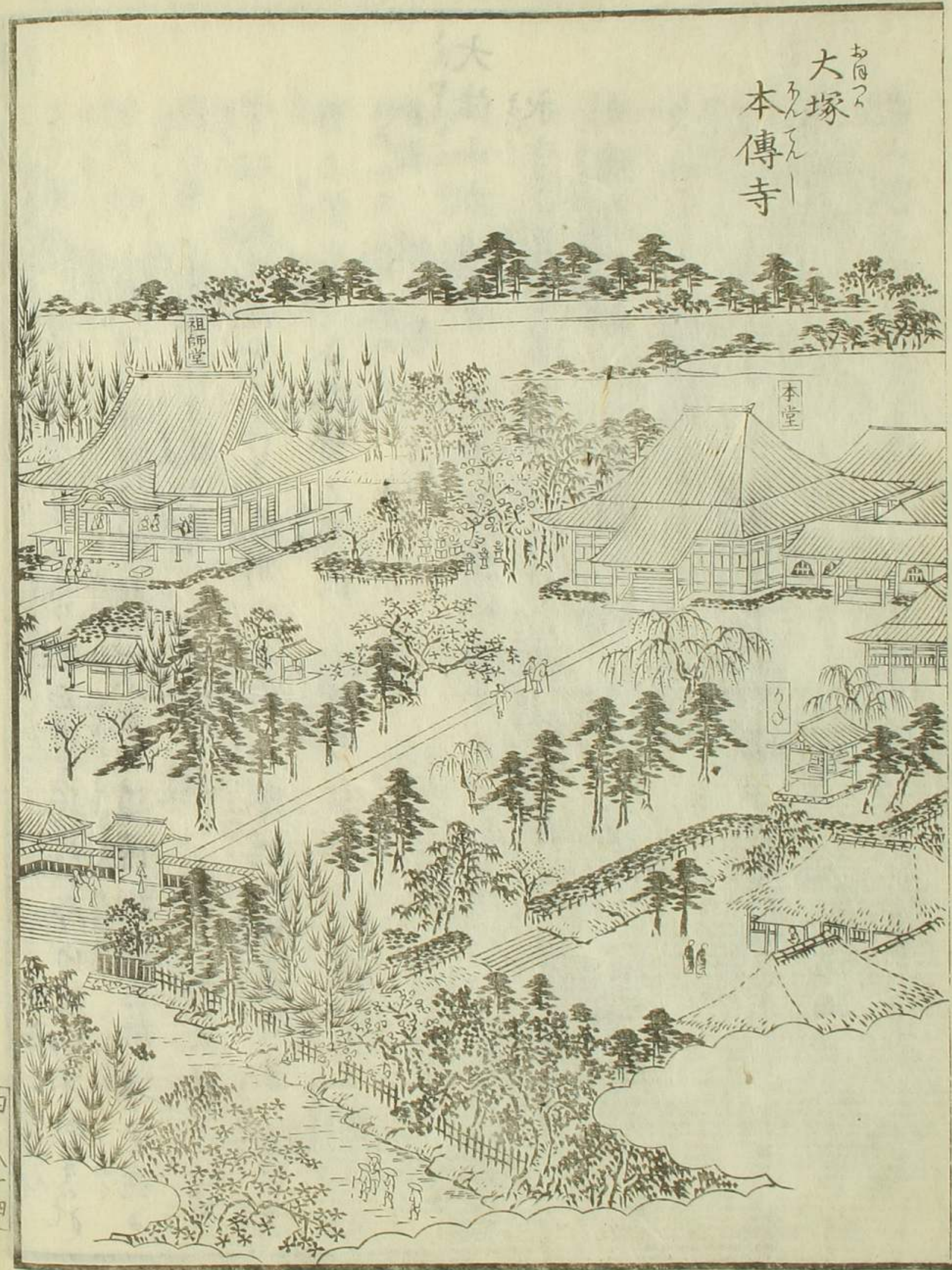
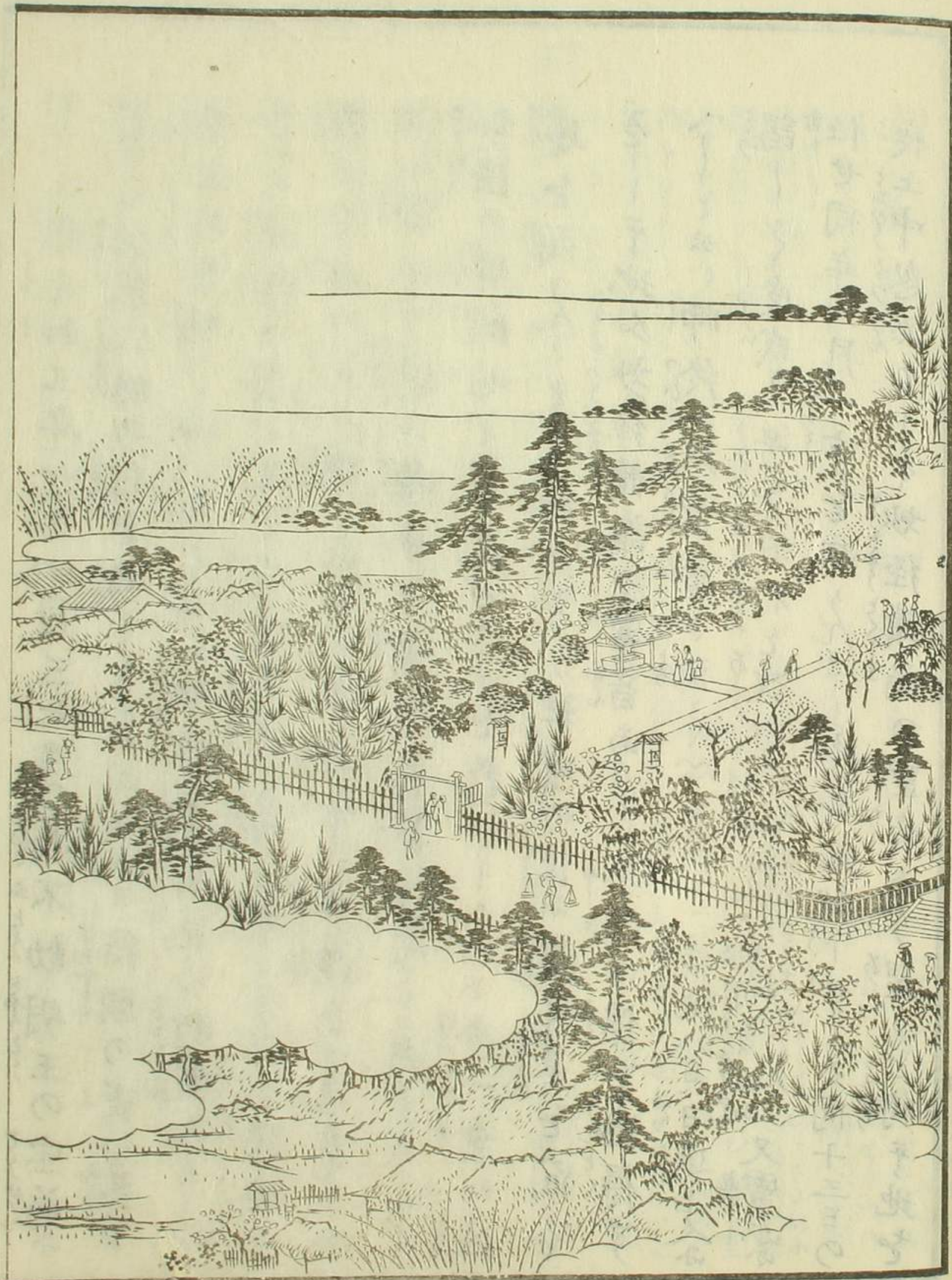


とも紫の一本は塚の上は不動堂ありと河内ハ今の波切不動を此
 地大塚と称する旧跡也や相傳ふ太田道灌相國の狼煙を揚る
 料小築とも塚なり故小昔ハ太田塚と唱へんと或ハ又鎌倉將軍
 守邦親王乱とせけ武州比企郡大塚村小逝去也其廟を王
 塚と稱せり小大塚と号する此類なりんとて詳あり

大法山本傳寺 大塚町横小路より日蓮宗中々駿州蓮

永寺に属す昔ハ禅宗中々重光山善性寺と号く元和年
 間瑞應禪師今の宗風を概し自の名を法仙院日行と改め
 寺号をも本傳寺とす

經讀日蓮大士 縁起云く往古當寺中興開山日行上人始
 瑞應禪師と稱せり項蓮師の宗義を鑑み覺悟の要路ハ法
 花小限るを發明し宗風を指せんとせんともさるふ心決し



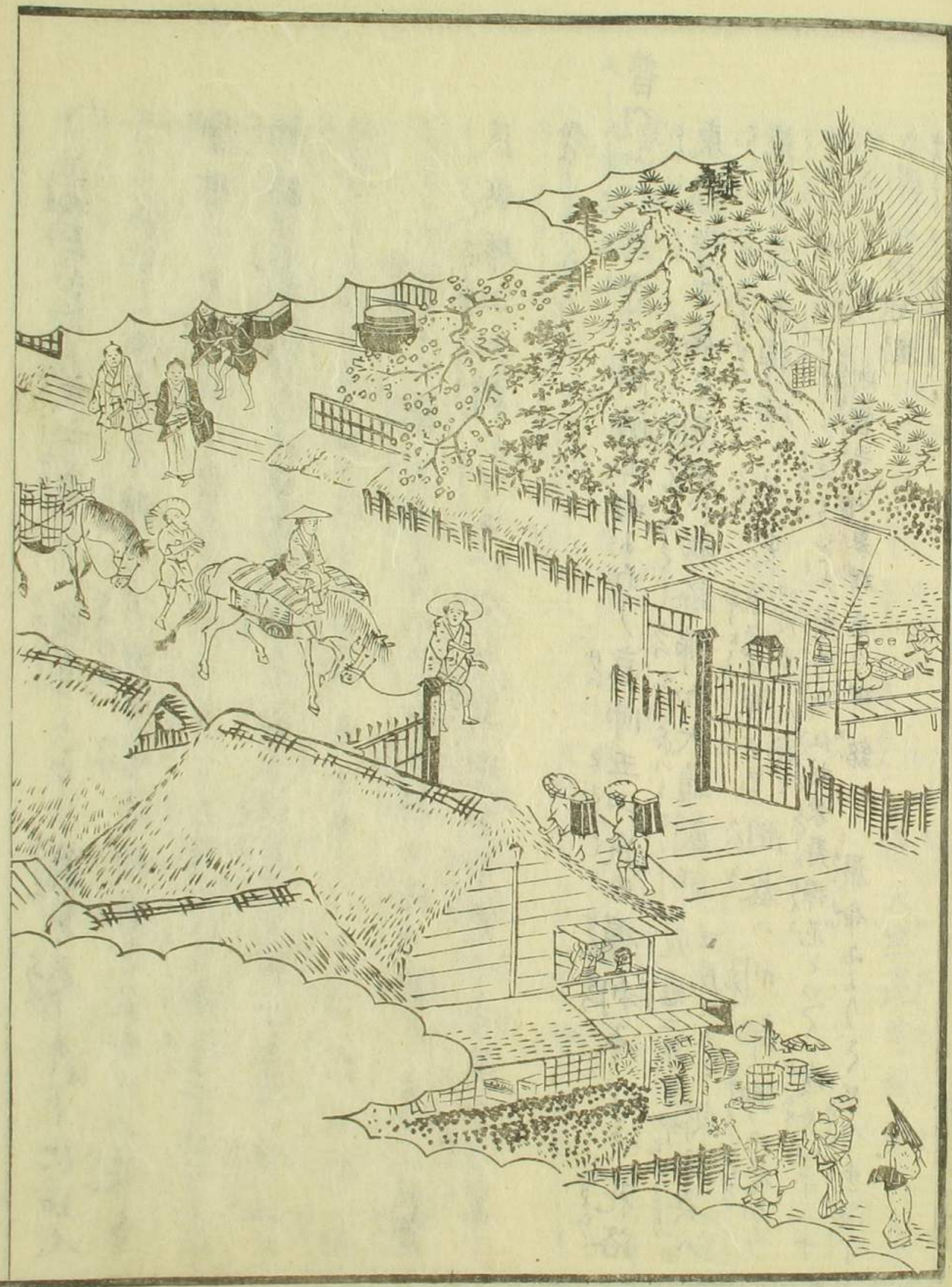
大塚
本傳寺

祖師堂

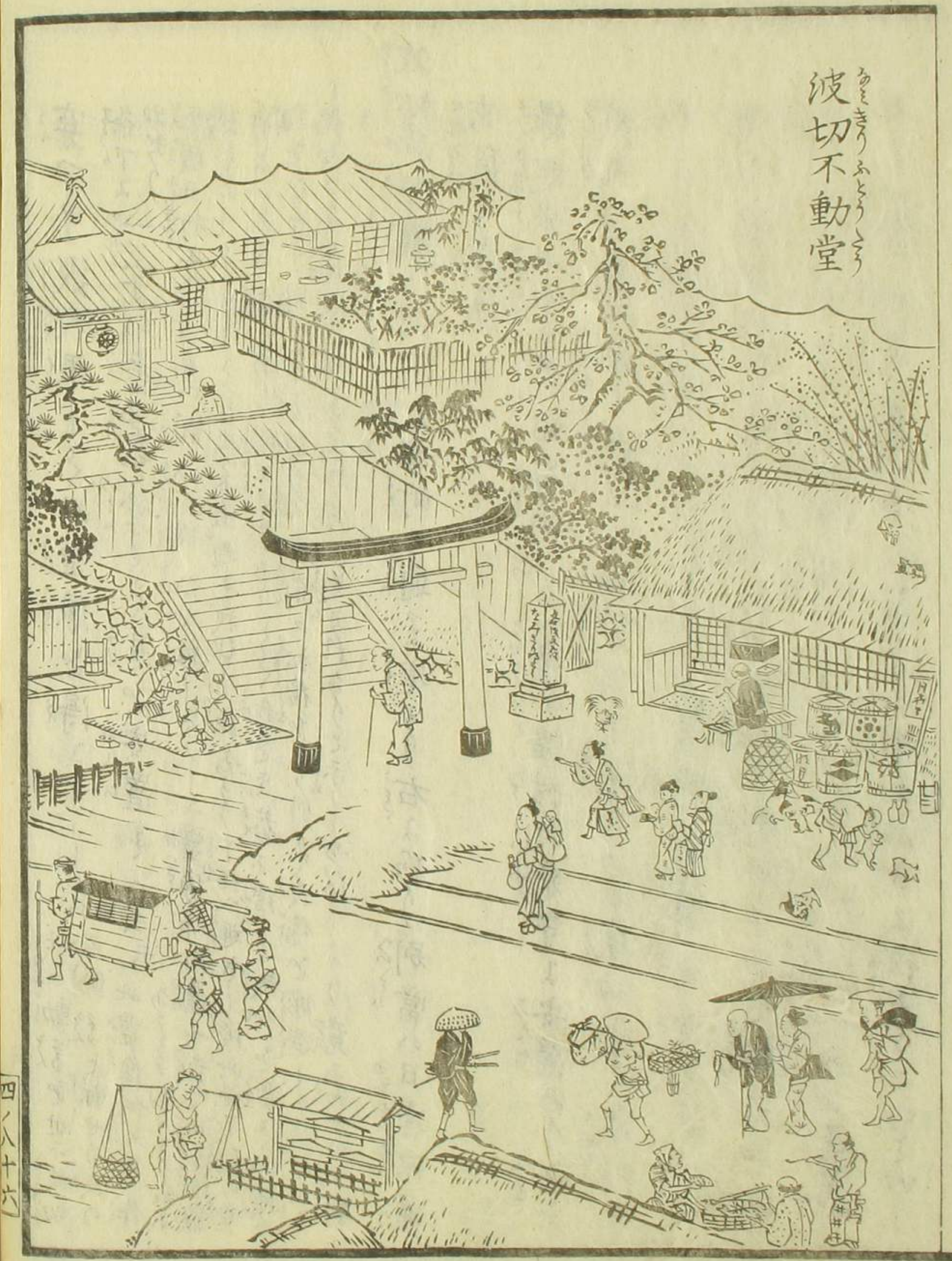
本堂

かゝり依元和三年丁巳四月三七日の間不動明王の宝前小
おつゝ法花三昧の行を修し同廿五日結願の夜の夢よ
明王姿を現し師小告く云く汝前生ハ法花の行者たり
臨終の期は至り唯空永滅の念を起し
因り空無の見小墮とて今宿世の妙種ありしを本
心より歸り速に権宗を捨て実教に入し我も久しく
妙法の醍醐味をあんせんを致し正小今一乘の法
蓮を開くとするの時至り社壇の良小當り基を開く
へしと云く師終小此靈夢よ依り心を決し同廿八日日遠上人小
謁し受戒し号を日行と改む日遠上人 駿州貞松山 又靈宗小
心性院の寺主なり
任せ同年六月一字を開くとし其地をトせし同十三日の
夜土中忽然とて妙経讀誦の靈音あり翌を待り地を

穿つる数尺果し此靈像を得し不動明王と稱せり此の
條下よ一字の香堂を營し是を安置せしと云云此靈像何人此作
項日行上人一百日の間法花懺法を修し靈像師の夢告て曰く汝宿
縁む一人の信士あり明王の告あり我を菴に清く教化を受く師檀の
約をなせり別と云ふ臨むの時堂前の松樹をとり我像と彫造し彼信士は
授与せり汝も感得するの徳を則これありと示し我も大士の手刻
波切不動尊 同所大塚町の通り道より右より別當八日蓮宗通
玄院と号す
縁起云此本まは始勢州一志郡小幡村大乘寺に安置あり然も
建長五年の春日蓮上人伊勢路を過る所霖雨あけ宮川の
水まうりり渡るる時一老翁来り云く
師川を渡らんとあり我れ水を切の術ありとて則師を誘
引しきたるを水土を渡しまたり大士是を奇
と翁の住所を尋るる所小幡の山寺に住まるとの事



波切不動堂



へく失去より大士夫より彼寺より翁を召れに知人
僧此寺を不審より依り寺僧より其故を告ぐ彼西を立出り後寺
佛躰水小濡る依大驚き直小明王を負ひたり宗祖の
跡をあらひ多しせられとも其方をおくは後於東國小趣
民其塚上松樹の下小一字の草堂を營建し是を安置し

普門山大慈寺 同所工田あり京師五山派の禪刹也花洛

東福寺は属を閑山ハ勅謚佛知大通國師 觀應二年辛卯中興ハ

萬古昔大禪師と号す 兼應二年癸巳 閑基ハ刑部卿の局あり

天寿院殿の侍女中法号を大慈寺殿山林榮壽禪尼とす慶長四年八十

餘歳あり遊遊則當寺に墓碑あり碑銘ハ 嚴命ふりく岳川東海寺

本尊葵正觀世音菩薩 座像中々長 南天竺毘首竭磨又唐の

替文會替首勲の作なりとのみ 鎮守日吉豊國兩社 社内茂氏奉祀す

造酒地藏寺 寺境見耕庵の本中々天竺佛より 寺記云此靈

原北条家の項品川の海底より出現あり 佛當家あり淨信教厚く當寺

大瀧部禪師住持寺の項葵正觀世音火防守護の爲見耕庵を淨建ありてこふ

ありとあり其頃或夜佛告曰く 種々威靈のあり

正法千歳在佛在世像法千歳遊龍宮海 未法中救此界衆生今世後世令離苦惱

ゆめ又造酒の二字を淨額ふかこめれ當寺小淨を納ありとあり今も

縁起云葵正觀世音菩薩ハ昔時行教律師天竺より携来し

靈像なり 欽明天皇己未結くく右大將頼朝卿及び足利

家より傳り夫より後代々の將軍家崇信厚くありとあり中古

日向國志布施の龍與山大慈寺あり其後又花洛東福寺の

日向國志布施の龍與山大慈寺あり其後又花洛東福寺の

日向國志布施の龍與山大慈寺あり其後又花洛東福寺の

日向國志布施の龍與山大慈寺あり其後又花洛東福寺の

支院三好山長慶寺の本をとりて

東照大神君を崇敬まじりて、竟に江戸の大城へ遷座なり。あひ

毎月十八日天下泰平に祈禱し、観音職法を修せしめ

らば殊更葵の一字をも附し、あひ天壽院殿も、浄信心浅く

より、あひ慶安二年當寺を創し、あひ刑部卿の局を閉

基とあらされ、此本を當寺に移し、あひあり

と引く創基なり、あひあり山号と下され、又天壽院殿、浄菩提のる、淨祠堂料を

附せしめしなり

鳩巢室先生之墓 同所坂下町の北の裏少し、此田の上よりあり、傍に

息男忠三郎洪謨の墓もあり

先生姓、室氏諱、直清字、師禮、鳩巢と号す。通称、新助、命を命し、静儉

と号す。其先、熊谷直実の裔なり。備中國英賀郡小出村、考、諱、玄、撰、草庵と号す。

此、平野氏萬治元年戊戌、江戸谷中邑小産す。異質あり、睿敏人、絶、草庵と号す。

室、業を木下順庵先生の門下を受け、京師小客たり。討論の暇、大学新疏を著し、以て

章句の蘊を發し、徳元年東臺の徴、應、來、江府、就、往、復、贈、答、の、什、積、て

邦、國、治、平、の、盛、を、聲、其、風、海、表、播、是、を、無、窮、小、宣、不、足、以、稱、

有、徳、公、統、を、述、後、特、小、先生、を、撰、宮、中、侍、講、を、授、此、職、の、設、蓋、此、先生、小

始、嘗て、欽、旨、を、奉、五、倫、五、常、の、名、義、を、疏、記、し、國、字、を、以、書、成、

中庸及、易、經、廣、義、を、著、考、訂、及、是、を、錄、め、天下、に、布、是、を、先、論、孟

感、重、極、痛、を、屬、し、及、先、災、不、罹、終、以、愈、疾、を、陳

病、間、數、推、詰、を、著、す、旨、あり、是、を、徴、を、因、以、て、獻、也、又、大、極、圖、述、を、著、し

編、を、成、瀛、海、千、載、の、秘、を、弘、傳、後、學、を、來、世、俟、此、乃、先生、の、絶、也、享、保

十九年甲寅八月十二日、駿臺の賜、弟、小、卒、年、七、十、八、州、の、豊、島、郡、大、塚、里、に、葬、す

以上鳩巢文集前編伊東貞薫林の叙より、其要を摘く記す

筑波山護持院 音羽町の北あり、真言宗なり、和州長谷の

一派なり、寺領千有五百石を附せり

本堂本尊不動明王 作不詳、往古ハ本尊ハ

歡喜天 觀音の池、庭前の池、當寺建立あり、此地の名とせり、と

権現山 安園、小岳、東照大神君、正真の寺、像と

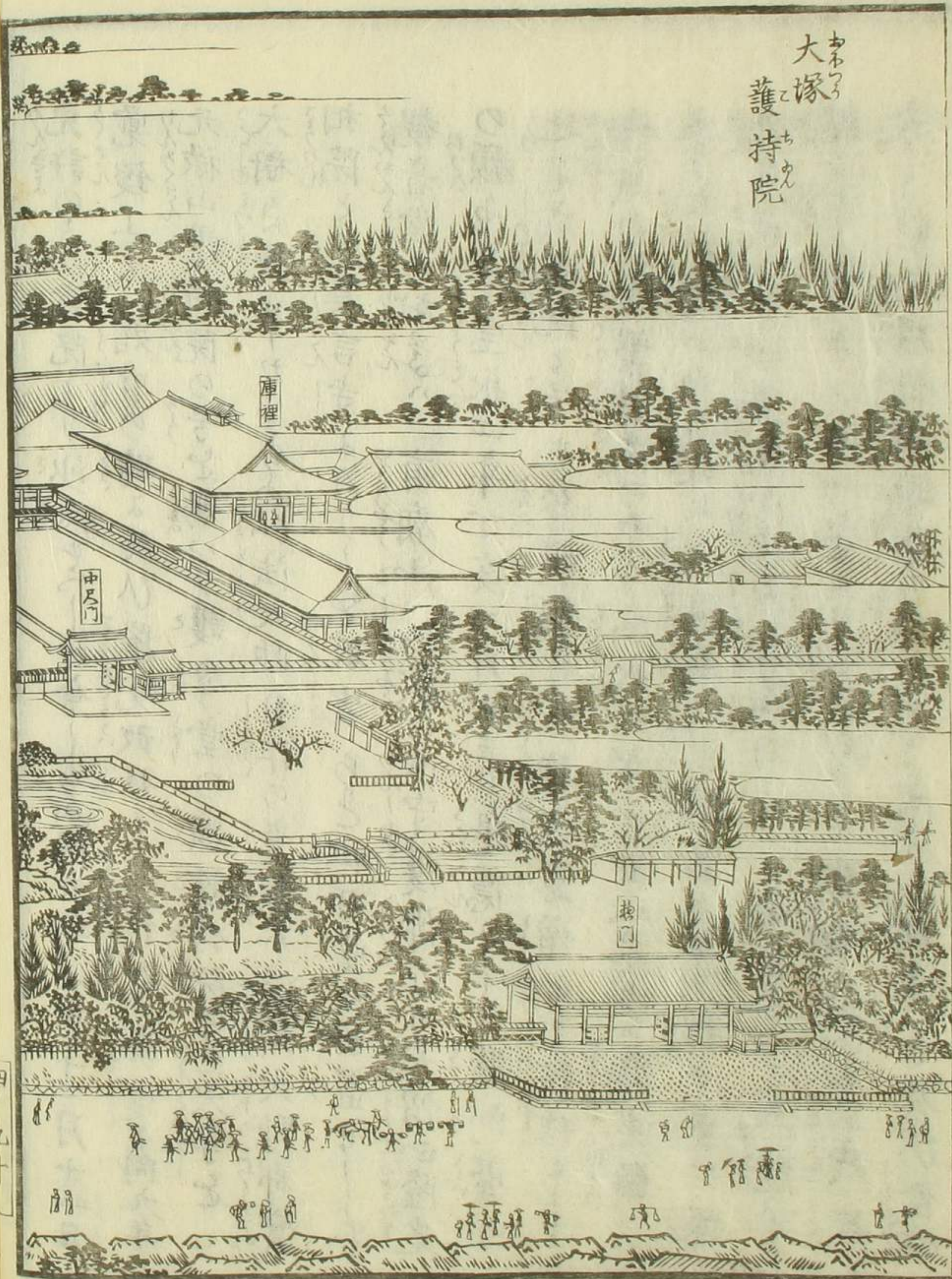
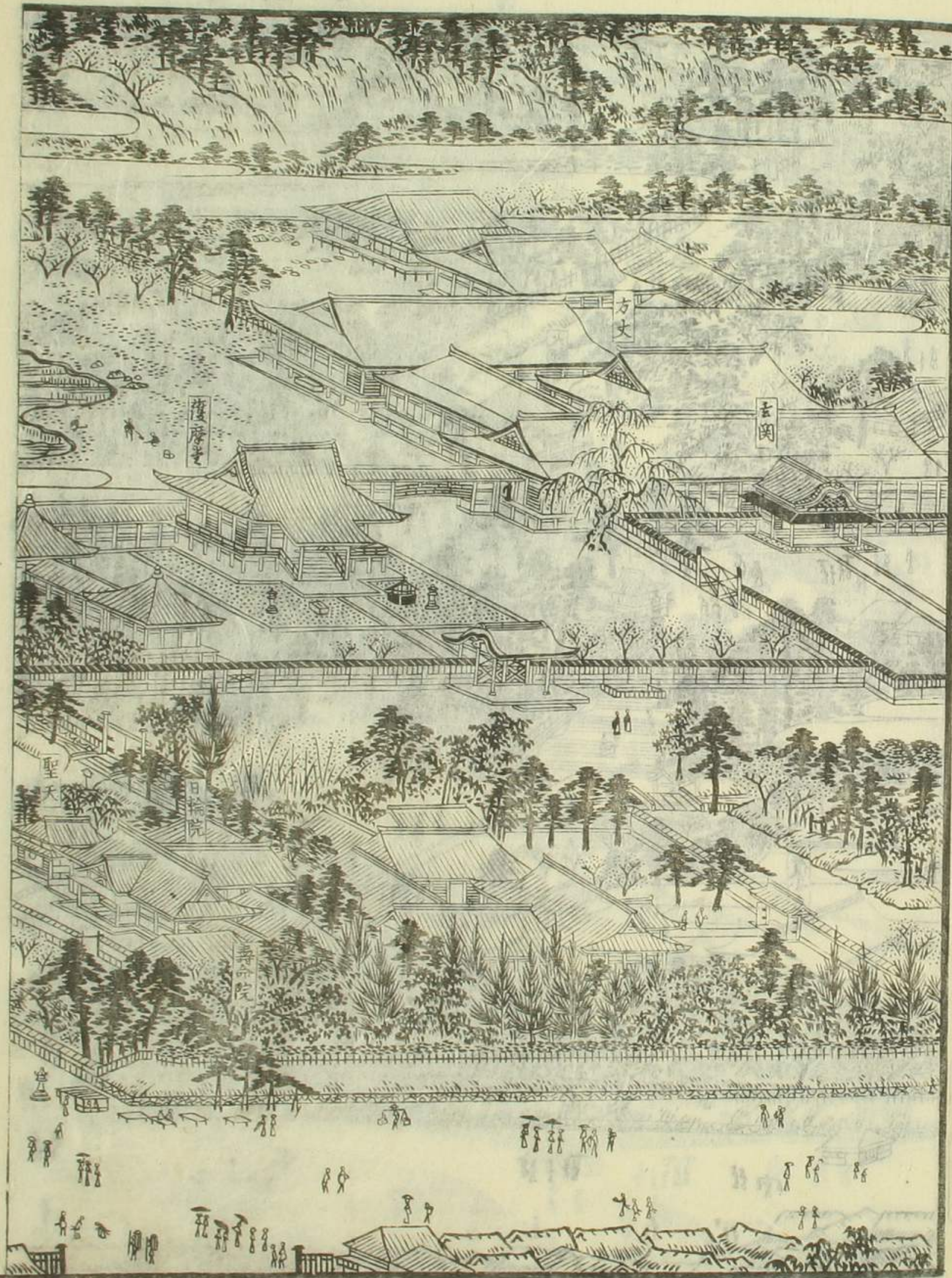
當寺副祖權僧正光譽ハ和州初瀬寺の西藏院ニ住職あり

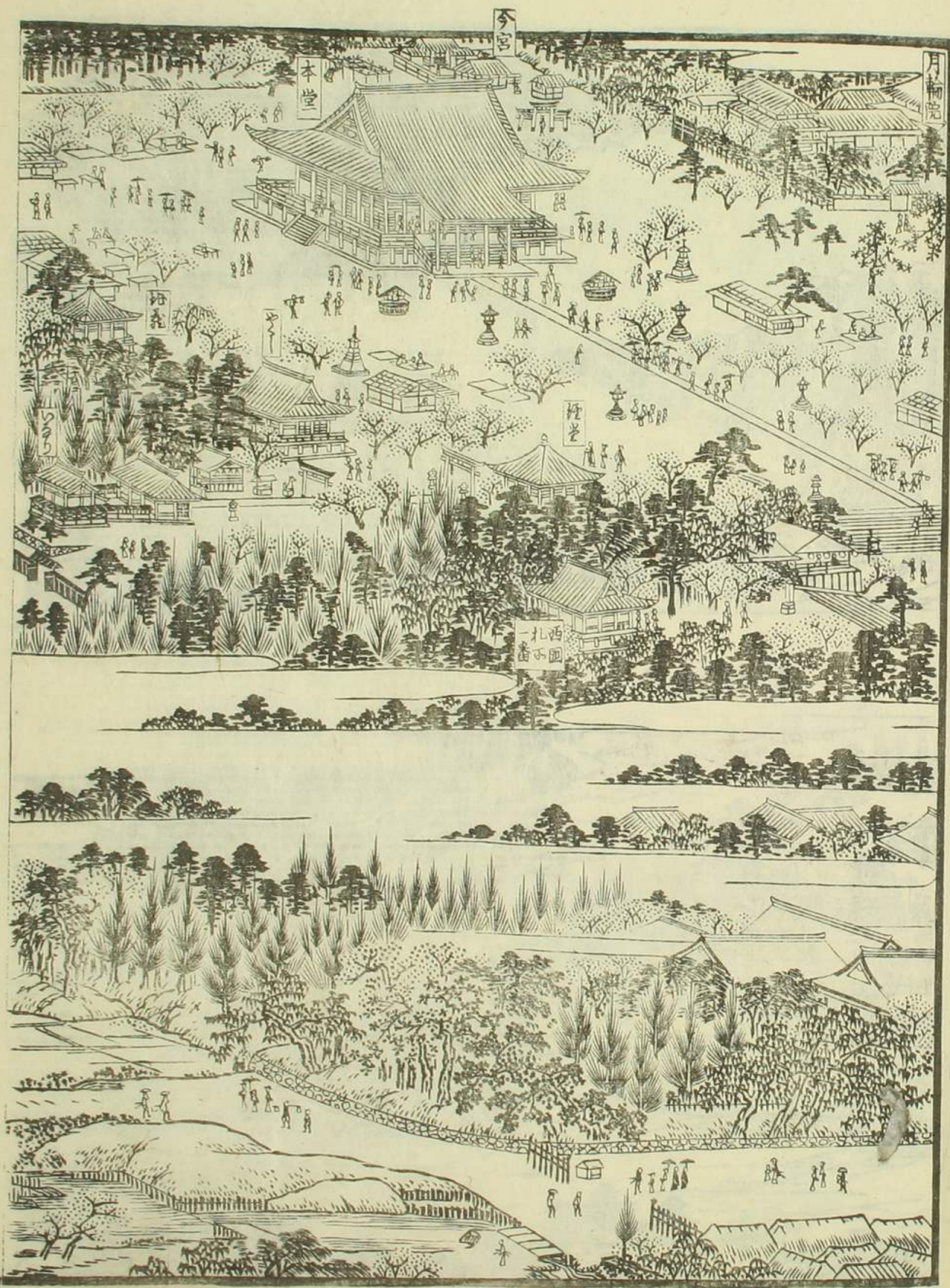
一に浄帰依、浅く、江府、小召、常州、筑波山の宿寺を下し

、則、知、足、院、其、始、知、足、院、宿、俊、下、野、國、筑、波、山、中、善、寺、を、兼

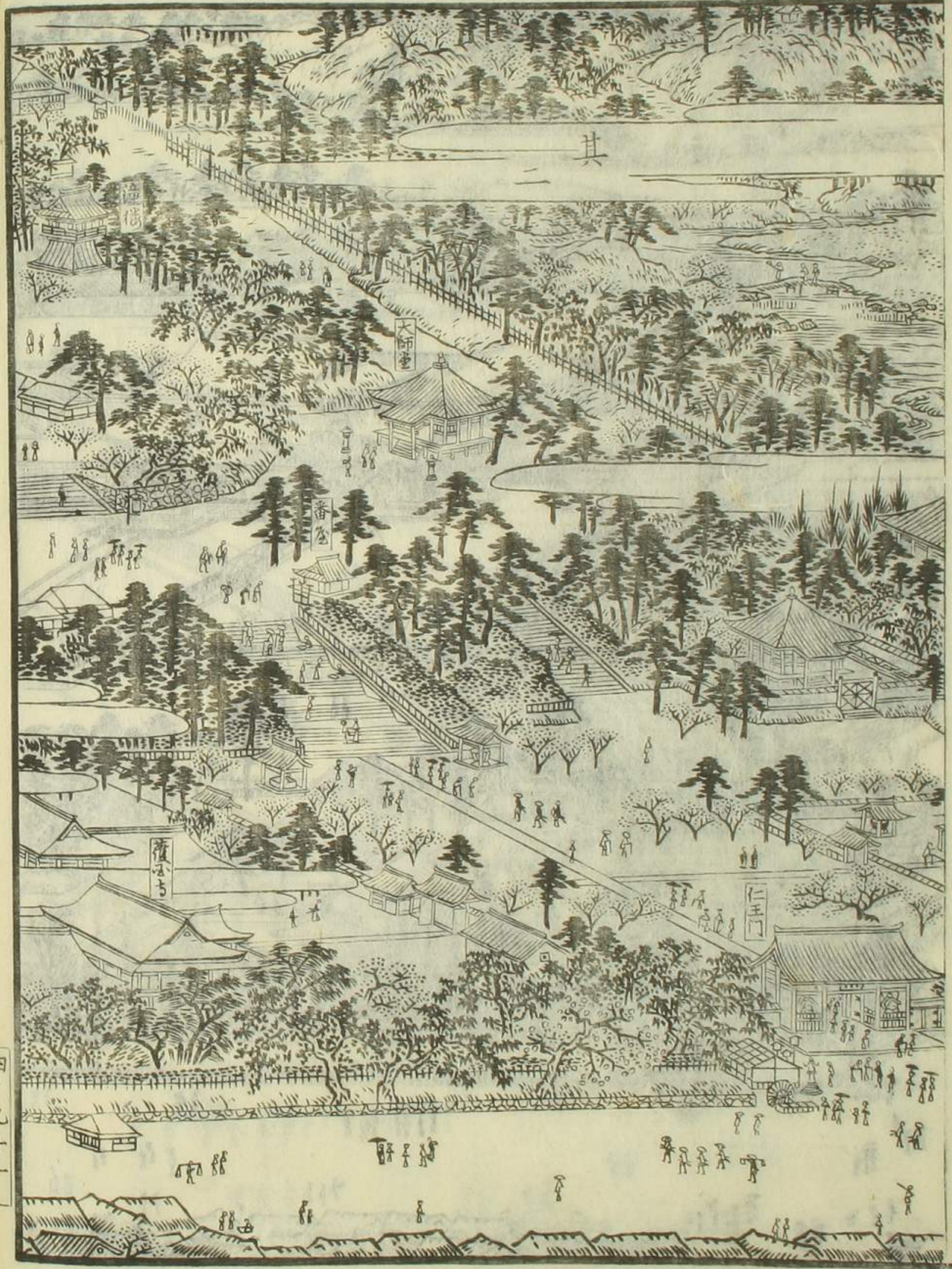
帯一真言新義四箇寺の支配より慶長の始 大神君の
嚴命を蒙り江城の護持所と定まされ同庚戌の年江戸
銀町小寺院をあり其地未考依光譽知足院を過し宮建を同
癸亥年大坂御陣の頃も光譽命を受く御陣中お於る祈
禱を其後寛永三年丙寅 大猷公諸伽藍御建立あり
延宝二甲寅年 有廟御再修ありし天和五年壬戌十二月
火災お罹るより貞享元年甲子湯島切通お移りし今
根生院の 憲廟御清浄依浅く元禄任元の年神田橋外
地なり 武士屋敷の地お移され松平若狭守仙石越前守お命せられ
護摩堂祖師堂觀音堂徑堂灌頂堂鐘樓堂二天門坊舎お
至迄金銀をとりしめあり隆光を閑山と推僧正お任せし又
護持堂お建立あり釋迦佛を安せし同四年八月寺領千五
百石を附し院家お列し關東新義惣録とせし色衣

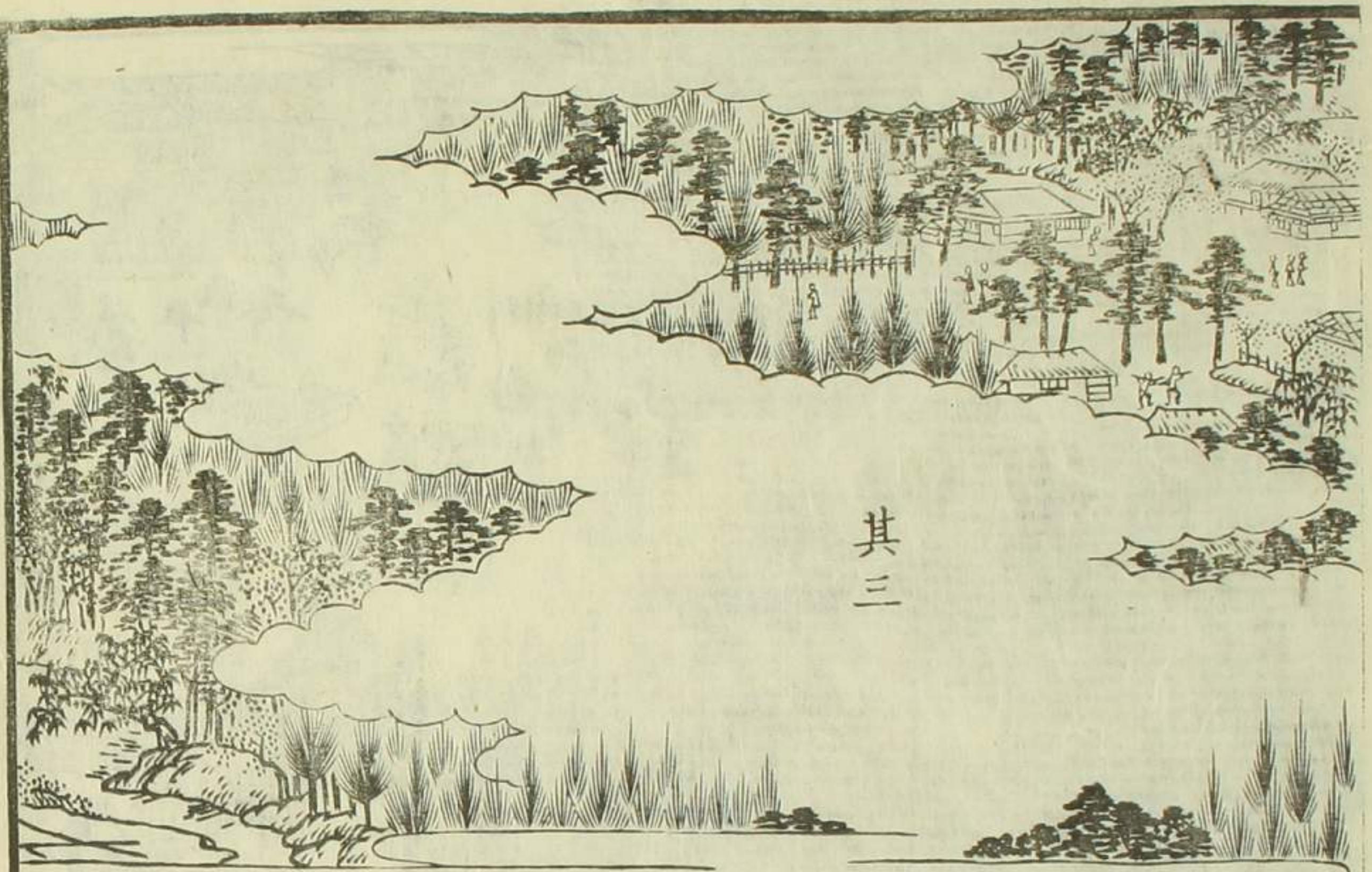
免許のより當院あり沙汰ししと命しし同五年壬申十二月十二日
覺錢上人贈官の時及ひ隆光改任し大僧正お昇進し同九年
元禄山護持院の号を賜り護摩堂の額護持院の三大字を
大樹自灑筆なり弘法大師自作の真像ハ濃州大野郡實
相院と云真言寺ありしを取寄らせ祖師堂お安置せしむ
觀音堂のなきハ 有廟御信敬の由守護佛なり大僧正隆光
の願あり宝永四年丁亥二月廿五日退隱し駿河臺よ
遷り成満院と号を依護國寺住持快意僧正を後住とし
御成ありし繁昌先のあり宝永六年己丑八月六日隆光願に
より大和國お移る故お成満院の跡快意おありし仍し爰に隱
居し後住ハ知積院小池房住職たりし命ありし入院す
然し享保二年丁酉正月廿二日火災ありし堂塔一字も不残焼
失しこれハ寺項住持退隱の願より夫より後寺号及ひ食禄





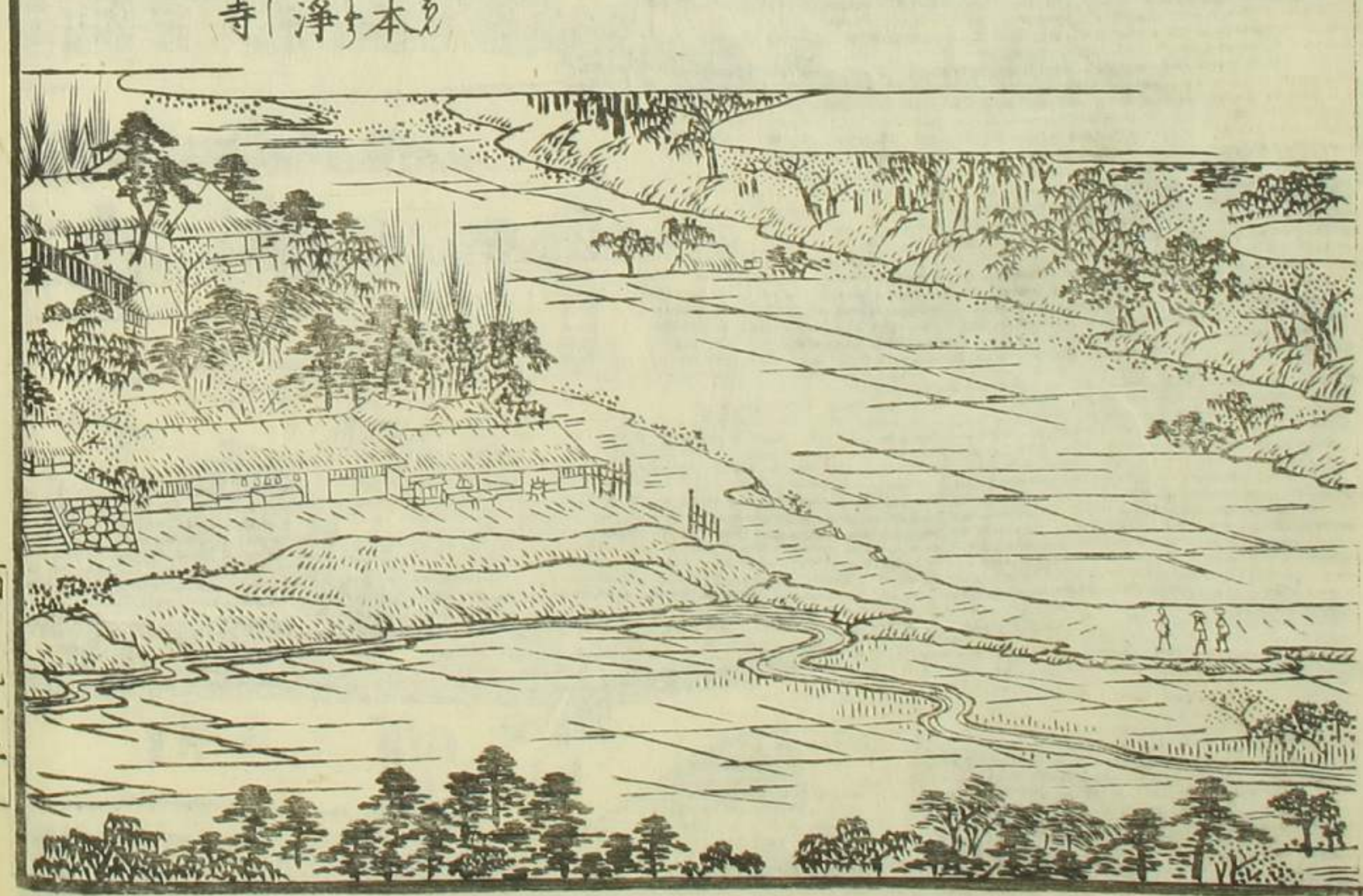
護國寺

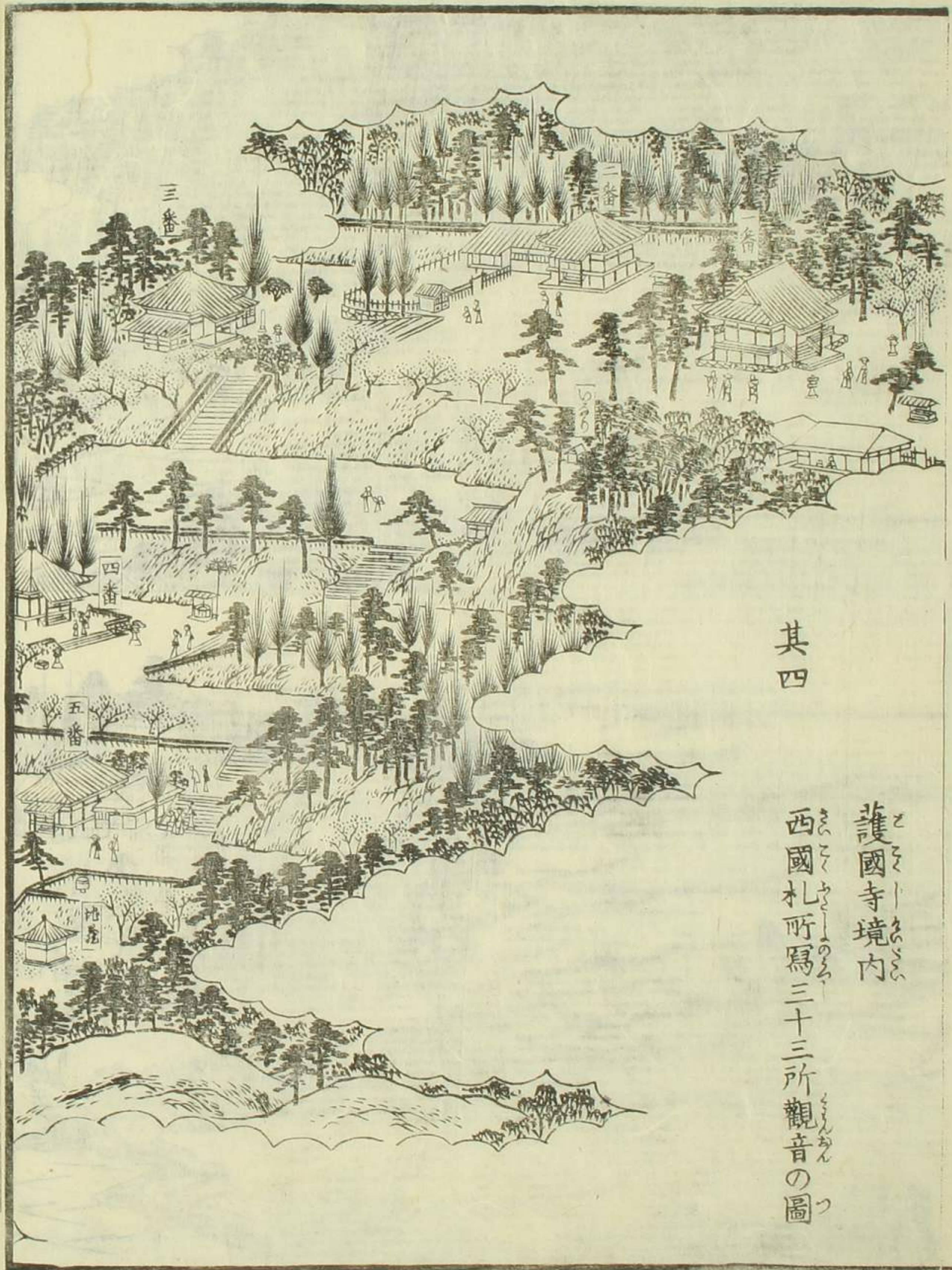




其三

寺淨本

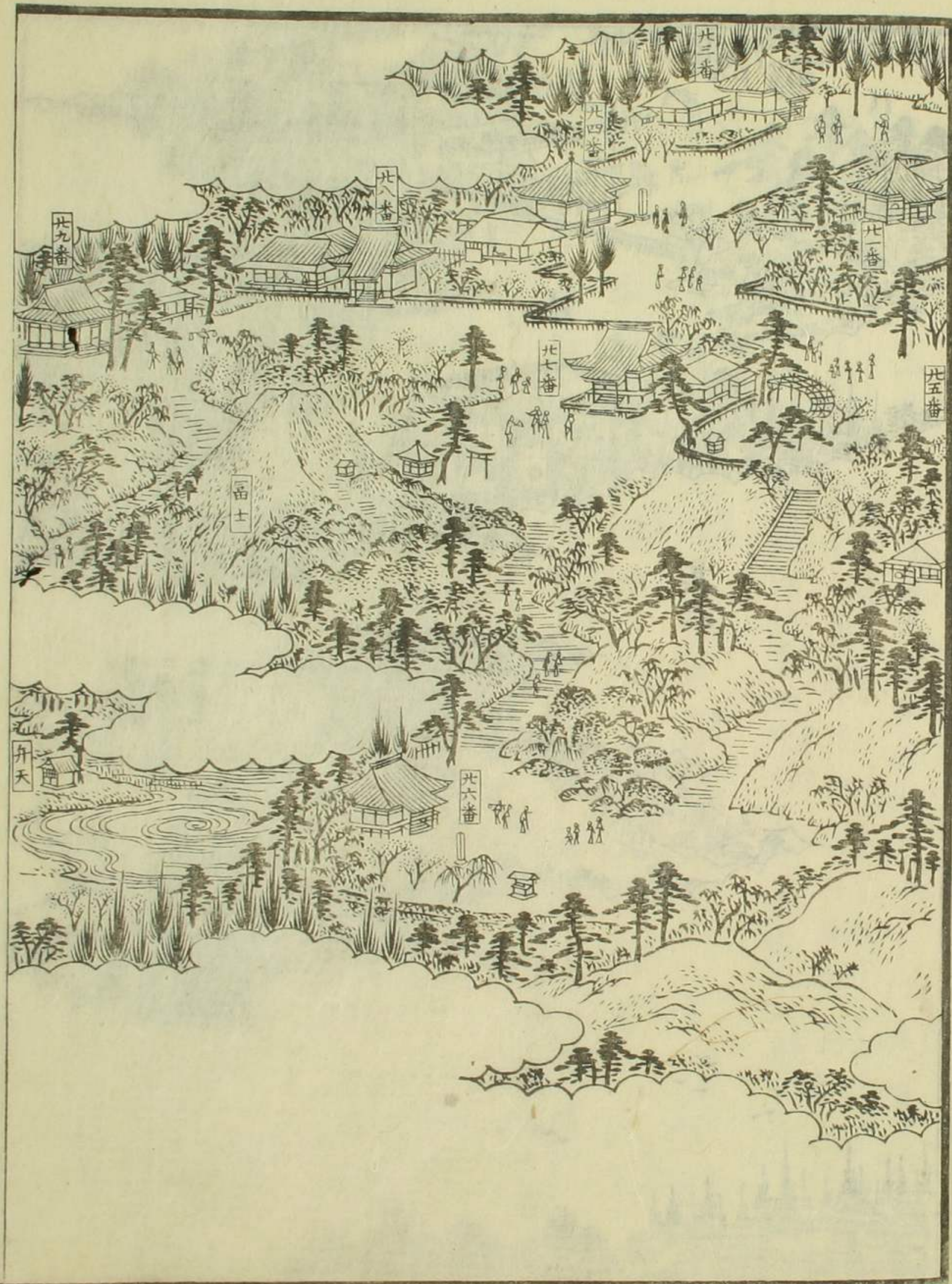




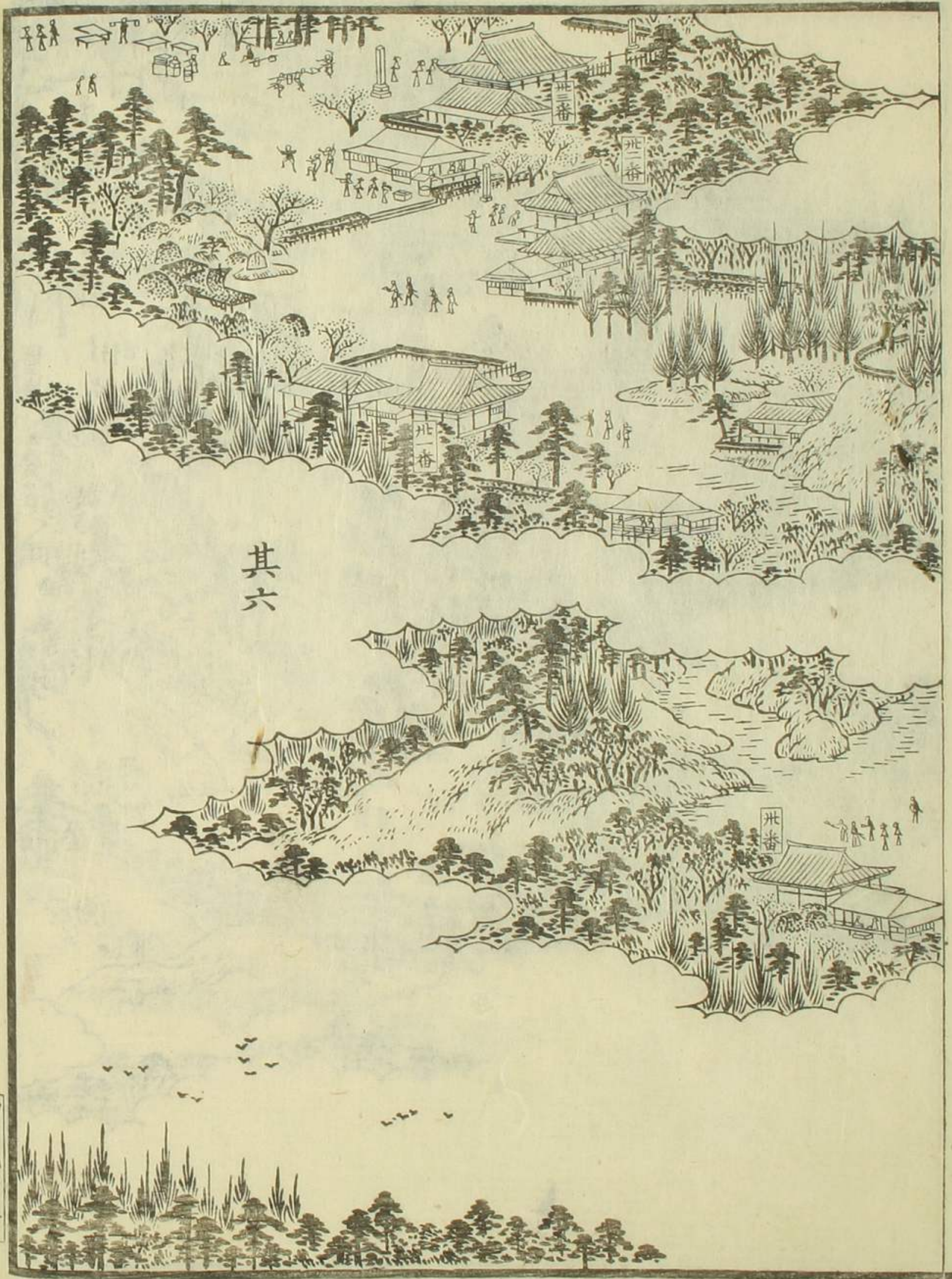
其四

護國寺境内

西國札所寫三十三所觀音の圖



其五



其六

護國寺あり大塚護國寺の内よ近江城護持の法行
 願所となごりめ筑波山兼帯の坊舎日輪院月輪院と云
 山開 毎年三月廿日弘法大師の淨影供修行あり此日諸人小庭中の
 林泉をいんま

神叢山護國寺 悉地院と号し音羽町の北よあり新義の真言
 宗より和州長谷小池坊よ属す閑山を亮賢僧正と号し公より
 寺領千二百石を附せられ盛大の地なり
 古鹿子云寺領三百石
 大猷公守御本寺馬腦石觀音
 像開基

本堂本尊如意輪觀世音 前撫石を天然のものあり元禄半の頃
 持し本尊と黄葉隱元老師の弟子黒滝の潮音前川氏と師弟の縁あり
 音は授与すそ後故あつて掛昌一位尼公崇敬あり由事監合あり本堂
 の柱を檜柱と云ふ木理檜の面は等
 藥師堂 本堂左あり本寺薬師仏昔當寺草創の時此地蟹ヶ池あり出現あり
 西國三十三番順禮札所写 開き谷其地繁不因く像を摸り四時草木の松徳を
 諸人の眼をよるこし
 歡喜天 境内壽命院に安んず掛昌一位尼公の年をなるとそ永代不退轉なり
 知り安全の浴油の法を授せられ寺産をなす

七面大明神 神跡を身延縣形の名像といふ往古本山貫首日悦上人紫衣
是と謝せんる宝蔵に収る所の七面を大野氏に授け今一部朝臣吉田兼連
書する所の額あり九月十八日祭祀あり前夜より参詣あり
大黒天 日蓮上人安房の清澄は在り真虚空蔵の尊前より智恵を授け讀經教品
及ひ青梁香を焚く事あり其形を集め私安三年大黒天の像を造り
るより則背面より死を記し日蓮上人の真筆なりとあり

此經尊日蓮日讀以青龍凍之五百滅後流布 是生印

此靈像を日親上人感得あり證書を添らる後横井氏某當寺に収めんと
是生と日蓮大士清澄寺の道善を師と落飾法衣の後道善命をその名なり
御嶽山清立院 護國寺の裏門より雜司ヶ谷鬼子母神へ仍道の右

側小坂より傍より雜司ヶ谷本竜寺の持とす 常唱

堂不安きその宗祖上人の靈像日法上人の真作なりとの相傳ふ
正嘉年間關東疫疾流行し項行脚の沙門此草堂に投宿の間

此地の人此病患を救ひ又別れ臨むの時此靈像を止り置とり

り 此靈像威靈あり後世新別像を造り日法上人影堂常唱堂
上人作の像とバこの新像の胎中におわるとあり 日親上人影堂常唱堂
の前より元和年間當寺の住僧日意師と 請雨松 堂前より千餘の年八農氏
の請雨感得せし影像なりとあり 此の所集り請雨を當寺の

日蓮上人の影像ハ乞雨又靈驗ありと御人大小信敬せり此樹下は存する所の石
像ハ日意師の影像なり 雜司ヶ谷鬼子母神出現所 本淨寺より南あり此地を清土といふ

蒼林の中小社あり則雜司ヶ谷鬼子母神出現の地なり同神を

鎮より社前ふありの井泉を星の清水と号く往古鬼子母神出現

の項此井の星の影を顕現せしありか不名つとあり 其井の形三

接あり土俗三角 井とも守せり

不動山宝城寺 清立院の西の小坂を隔てあり豆州玉澤の法華

寺に屬す當寺安置の日蓮大士の影像ハ大覺大僧正の作なりと

り諸人結縁の爲正五九月の十三日内拜あり又毎年十月八日より

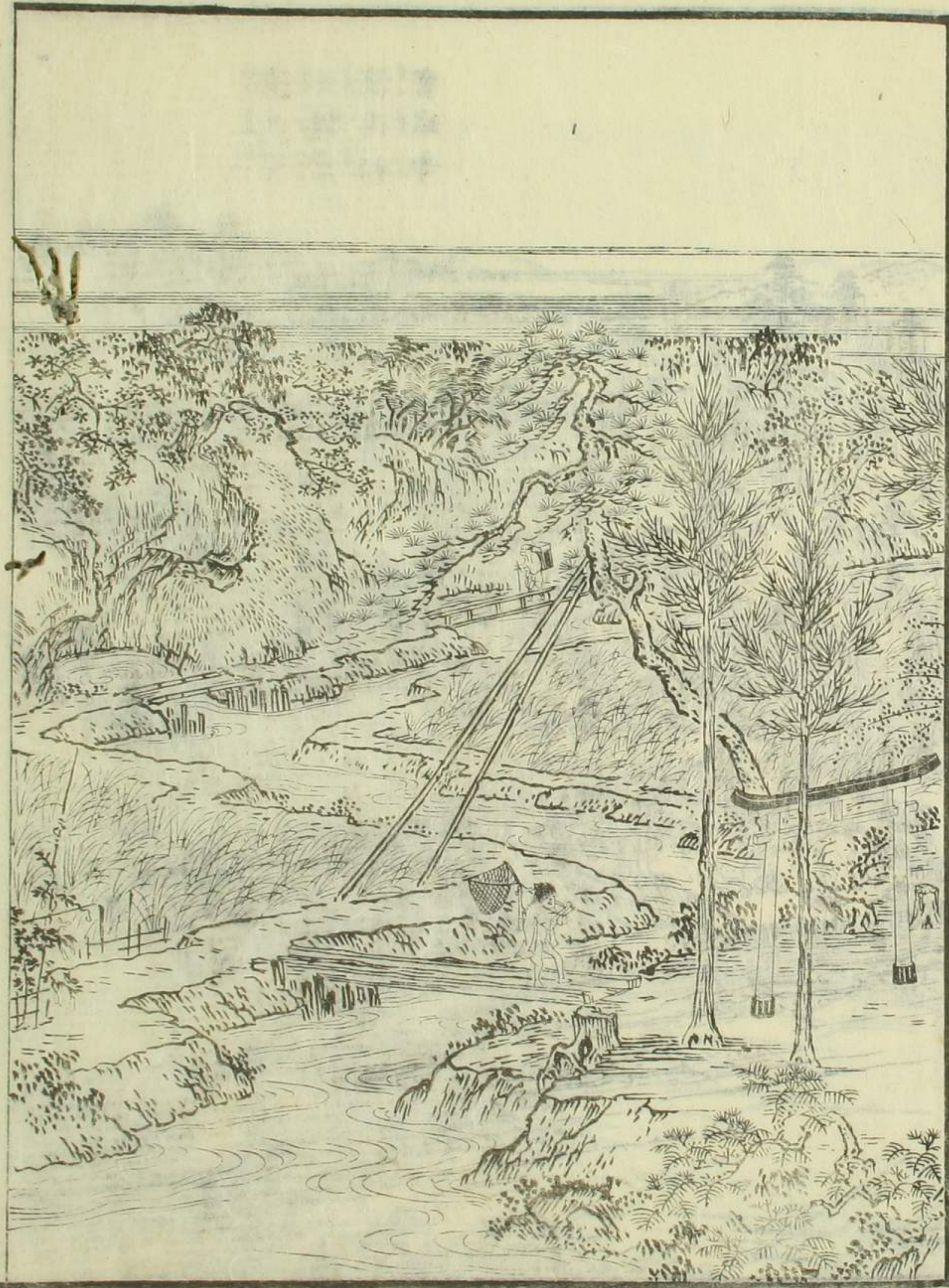
十八日迄法華經讀誦千部修行あり

妙永山本納寺 鬼子母神の堂前東の方此小路左の側にあり

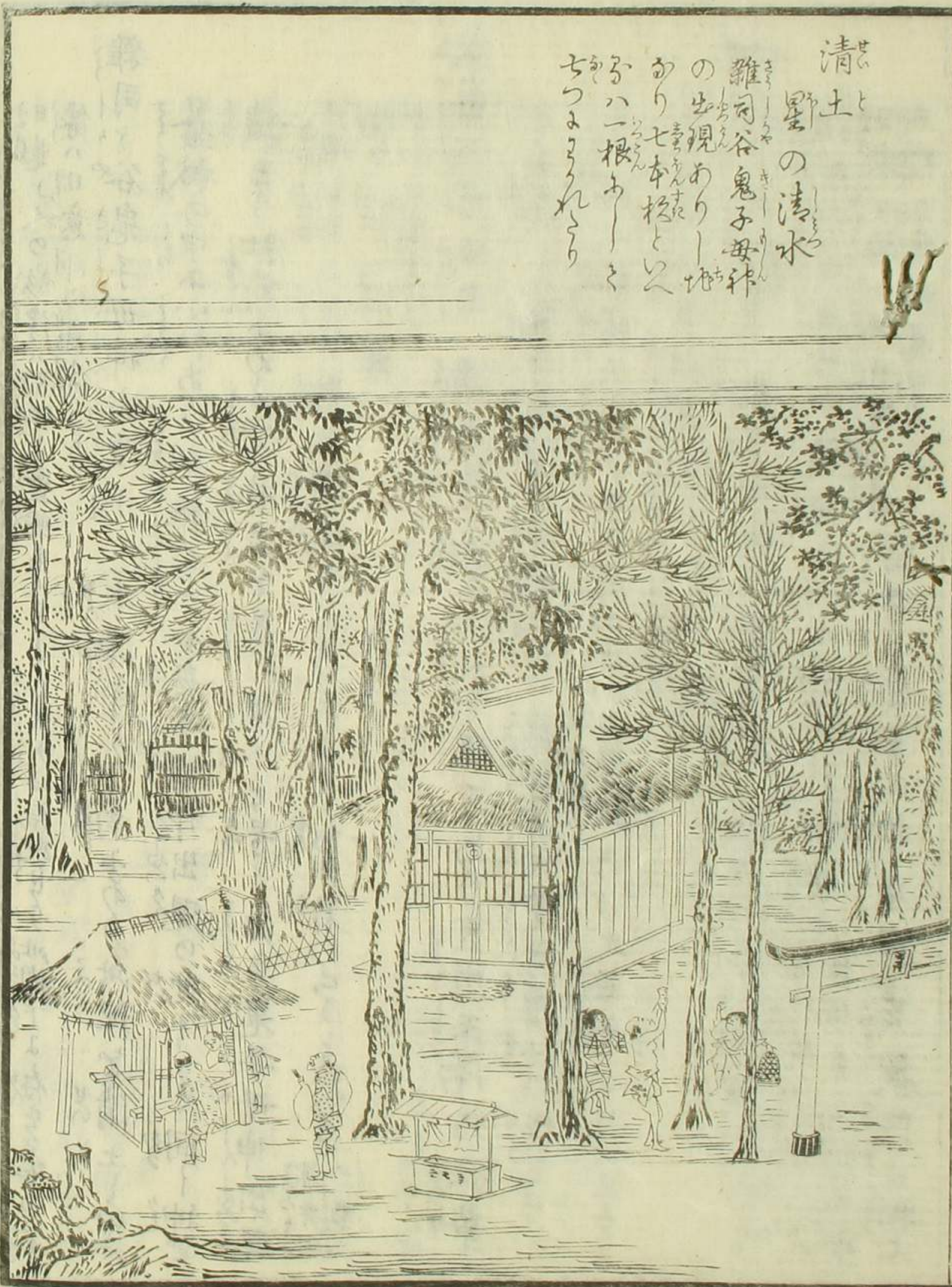
法明寺に屬せり當寺に九老僧の像を安んず 徒衆より所謂日印

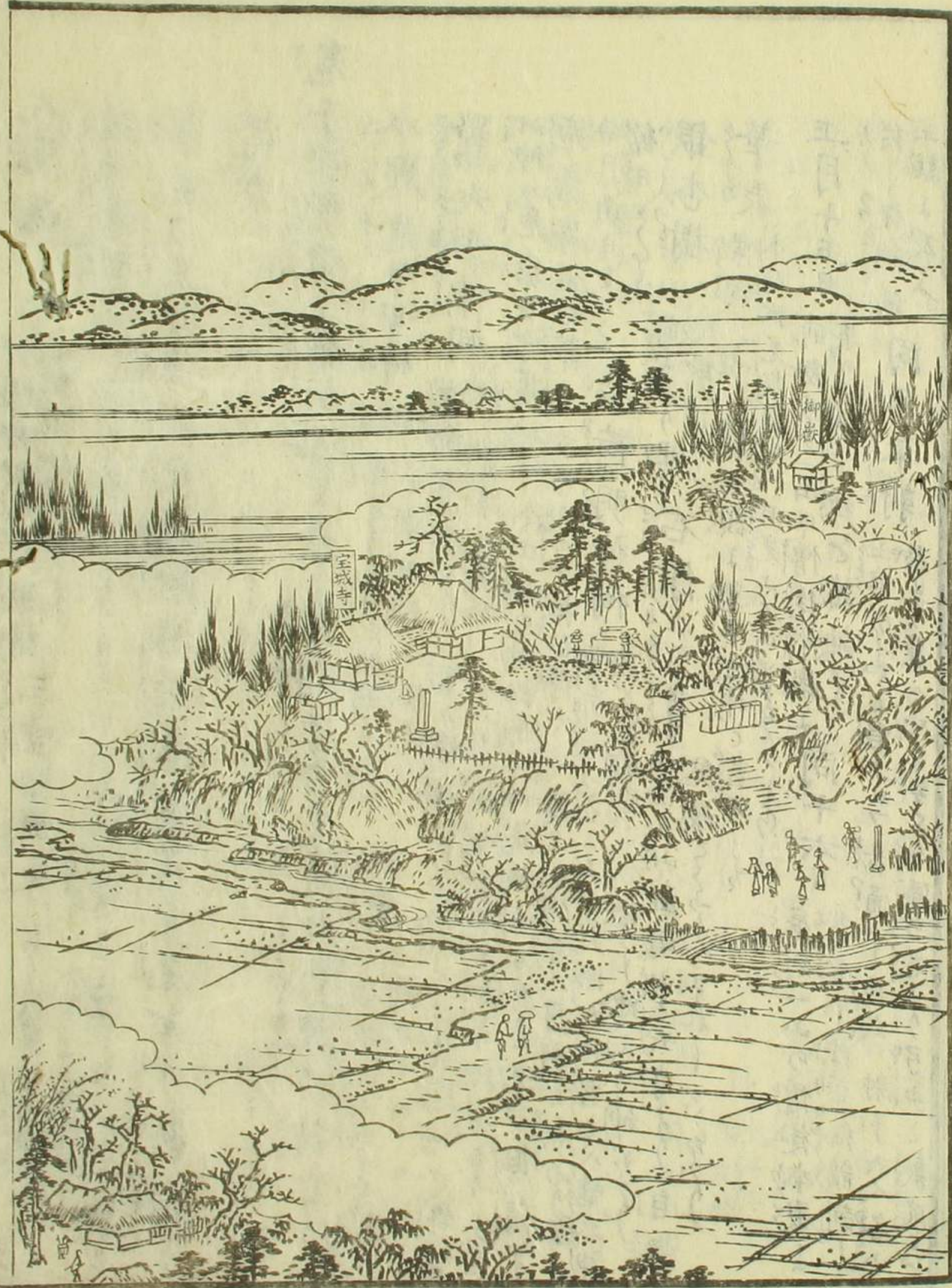
日像日輪日典日澄日善 當寺へ慶安三年庚寅實藏院日相上

日行日載日慶日善なり



清土
野の清水
雞司谷鬼子母作
の出現ありし地
あり七本松とい
ふハ一松ありと
七つよころれり





清立院
日親堂
請雨松
寶城寺



人開基

天神地祇人鬼勸請 三宝の諸多ありひふ日月星の三

光天を安を毎月十七日の夕より廿三日の曉より三光同時に昇天の旦を待終夜誦経唱題怠慢なり是を十夜待と

と

鬼子母神堂

雜司谷より法明寺の支院大行院の持なり

本殿鬼子母神

銅像なり鬼子母神一名を相殿 同満具足天鬼子母神の是

鷲大明神祠

堂前左の方より祭す神詳あり或云出雲國神戸郡鷲

此神ハ疱瘡の守護神

正徳の頃松平利州侯神告は依り是を勧請す

毎月初日を以て

稻荷明神祠 堂前右の方より祭す天照太神宮と八幡太神

銀杏樹

社前あり世より石像二王尊 初田戸山盛南山と云寺より自證

華表

本阿弥光悦の門人日光上人の書せしもの

正月十五日

前夜より一山の僧徒本殿より同十六日 辰刻一山の僧徒本殿より

終り祝詞酒

同日奉射 土俗ひやと唱へテ音通す其式ハ射手六人各小

清取の洞式あり後射手壺人あり矢六筋と放つ都て三拾六筋あり日記付

此間一山の僧侶又氏子の輩集會し酒五献あて終り此式天正文祿の頃よりハ

同十八日 尼修陀羅 四月八日 五月十八日 尼修陀羅 六月十五日

此地の農夫集會し社頭の 七月十五日 草角カと真行せり 九月十八日

草卷陀羅 十月八日 是と會式詣と云近世ハ廿三日まで恭詣群集す 追難

僧徒内陣小候一陀羅尼品と誦す十三巻終り昔前の供豆瓜打出を群集

縁起云此本尊ハ永祿四年辛酉五月十六日此地山本氏田口氏あり者

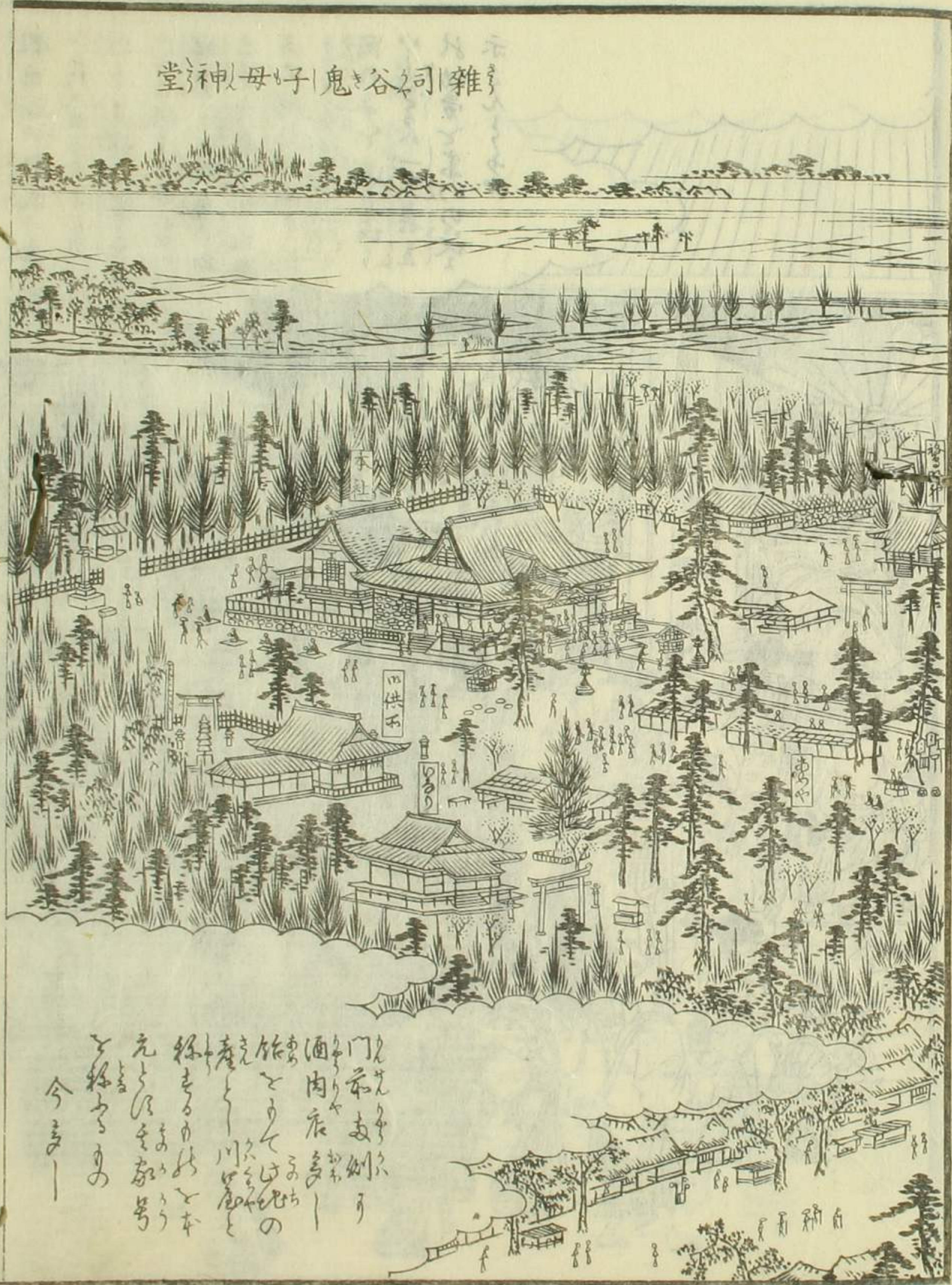
連綿たり 池水小星の現ををんく後平地を穿ち鉄下は是張

得たりあり 今護國寺の西に其出現の 依東陽坊第五世日性師

贈 東陽坊ハ今の乃佛殿は安しを多く十有余年を歴り然り安房

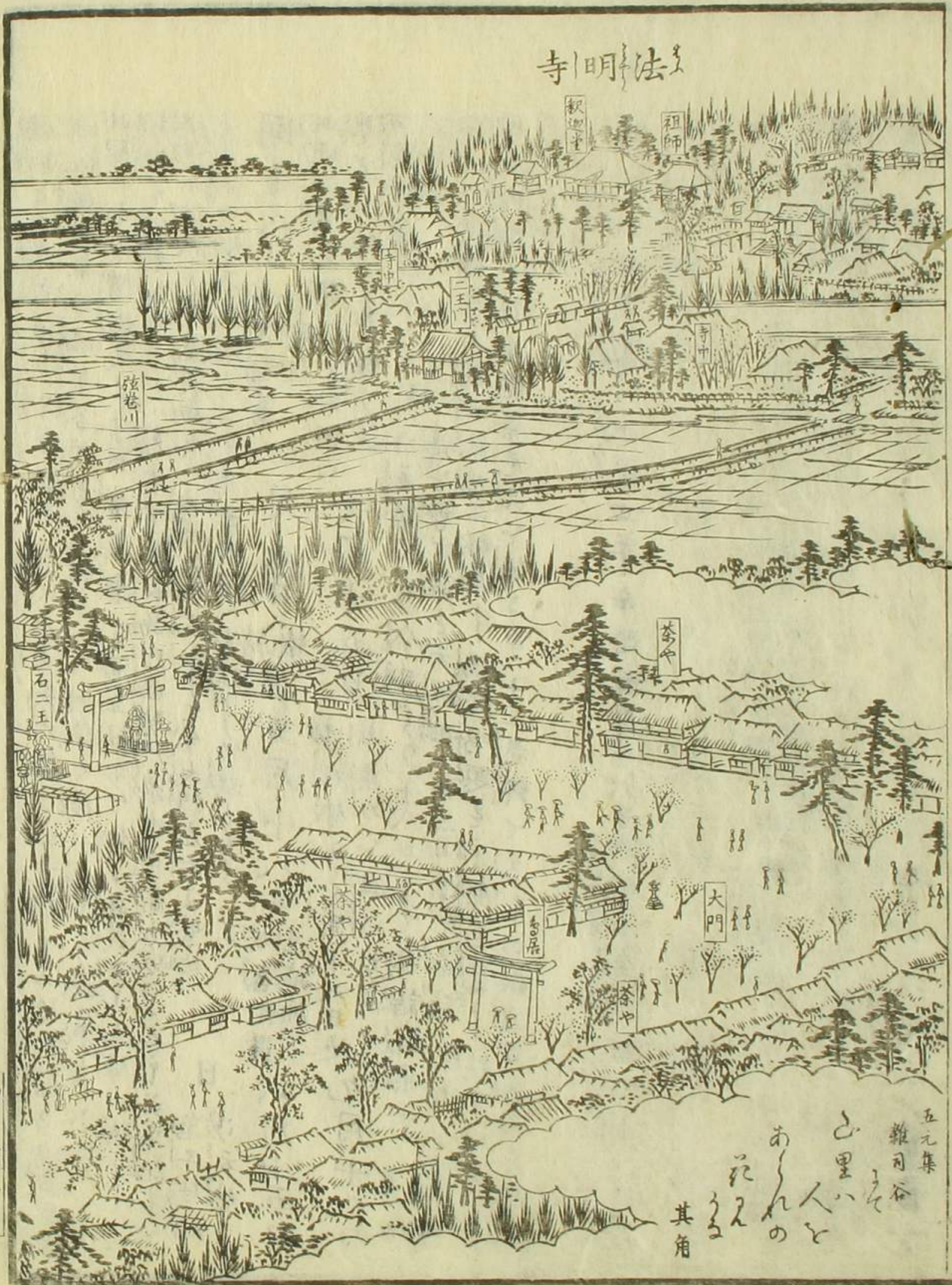
國の沙門某 名知 日性師は仕へるつふ思ひん密小此靈像を

堂神母子鬼谷司雜

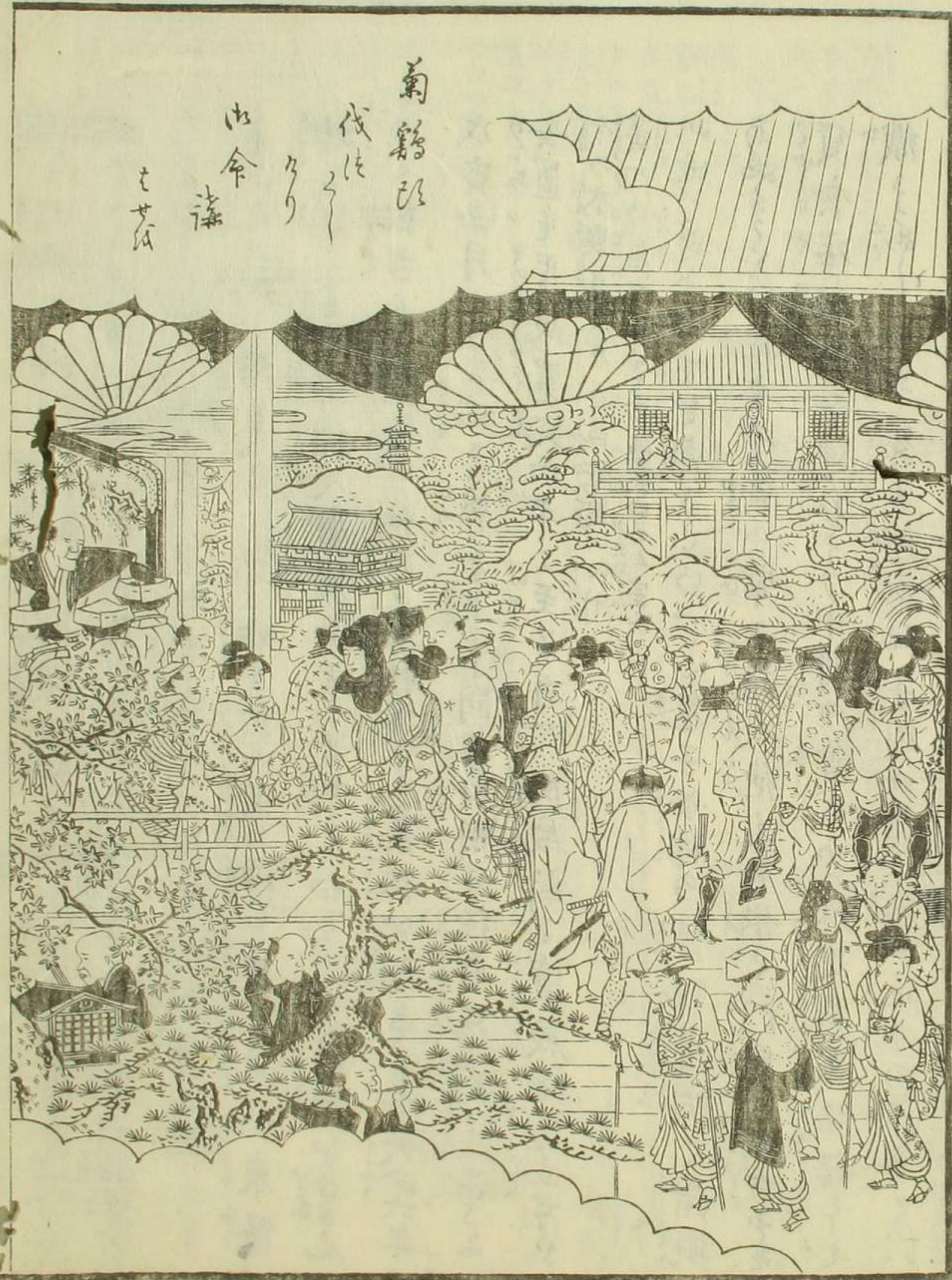


門前
 酒肉
 依り
 川
 今ま

寺明法



五元集
 雜司谷
 其角



菊鷲頭

代は

り

出命

海

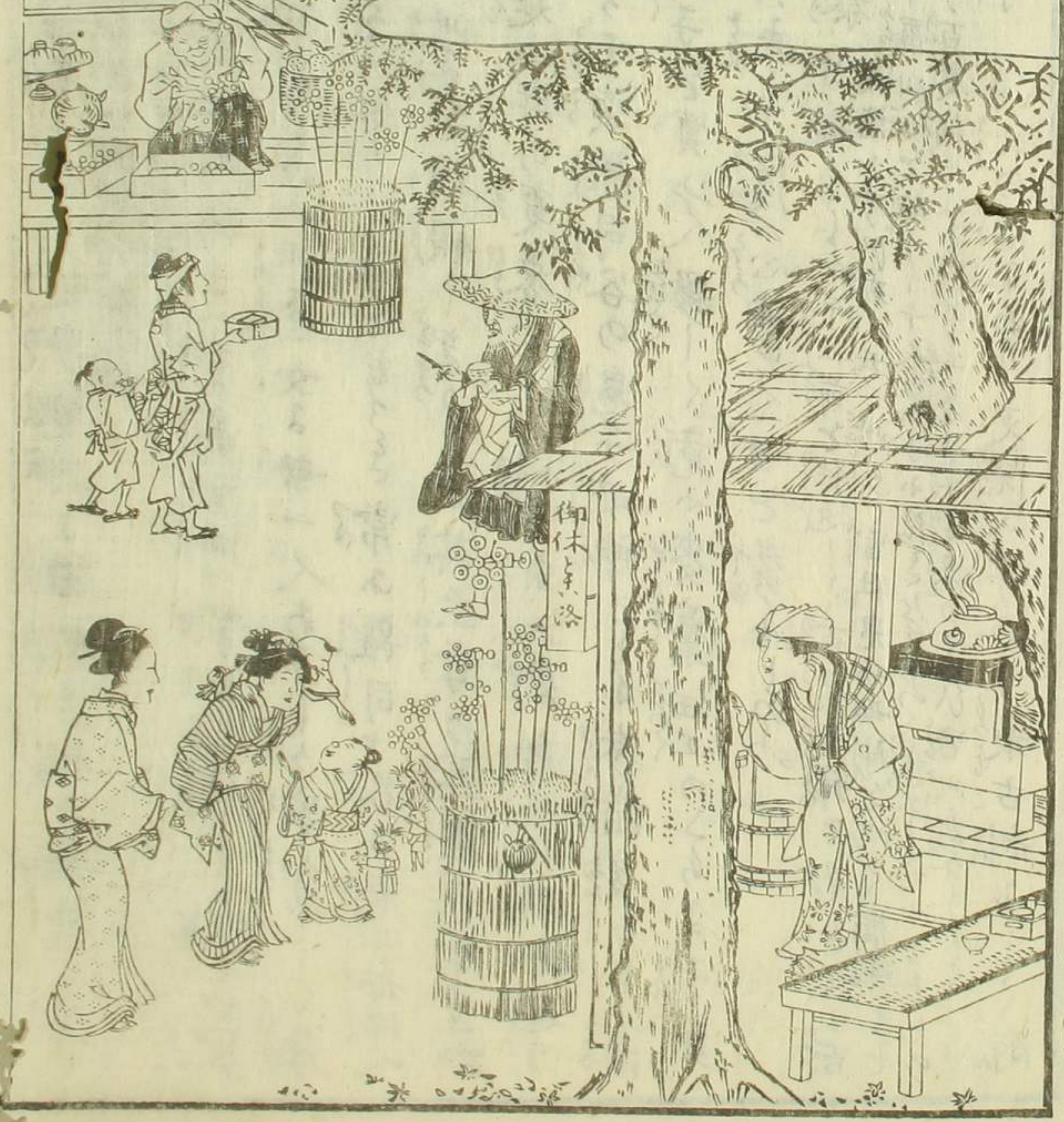
とせは

雑司谷の會式ハ毎歲
 十月八日より十三日迄修
 仍も宗法の弊を同く
 六日の以より廿二日の以
 群集して指麻の如
 ち中六者撒開本偶
 亦の飾物と傲々
 まも宗法上人一代の
 間のみと造り何
 ハ一宗無
 此功勞と宗門の徒
 示さんとかや



盗之故郷に帰る其年天正五年あり 忽病を發し一日自口をくちりて
 我ハ元武州雜司谷あり彼地の衆生機縁既ニ熟正小済度を
 在る時をぬき泥土より出現せしごとく移まらぬ我意ありて
 直小元の地ニ歸りて一とあり時ニ村人大ニ怖と畏ニ再ハ東陽
 坊ニ迂まり仍諸人靈威ありてを知りて川の草堂を營ん
 とく往古より稻荷の社跡と云傳へる叢林を闢き竟天正六年
 戊寅四月十日始々斧を下り同五月朔日経営落成ありて
 安置せし後寛文六年に至り自證院殿新ニ寶殿を造立せし
 今の本殿是なり自昌院殿ハ加州
 黄門の息女中々安藝守の令室
 此地ハ遙小都下を離るること鬼子女神の靈驗著明く諸願
 あらゆる協ありて常小詣人絶えを依り門前の左右を
 貨食店軒端を連ねり十月の會式ハ殊更群集絡繹とて
 織ことり風車麥葉細工の獅子川口屋の船を此地の名産とレ

此地にて製す所の
 麥葉細工の角
 獅子昔田原家町
 小作久末女との合
 者其人の母ニ孝行り
 家元より貧しき
 孝者のまじりて
 鬼子母神ハ清浄
 寛延二年の夏
 此ひつては
 角葉細工の形と
 造りては
 商ひはるる
 人競ふもの
 獅子のあまの
 常か易く母ハ
 たりしと
 昔の真意
 ひりのあま



又當山ハ花の名... 近年境内ノ櫻教多植ク往昔ノ復セ

女子製... 此条女ノ母一人あり... 家貧... 孝

養心ノ... 常ノ雜司ヶ谷ノ鬼子母神へ

有久寛延二年ノ夏... 角兵衛獅子ノ形と造リ

百度泰... 寄願... 度泰... 寄願... 度泰...

威光山法明寺 同北ノ方あり支院八字あり最古刹あり

寂々寺院... 釋迦堂... 銀杏樹... 同堂前あり

釋迦堂... 余堂中ニ代躰仏を安置す

祖師堂... 同釈迦堂ノ右ニ並ニ中ノ宗祖

鯨鐘... 同西あり寛永二十二年甲申鑄せ

二月十五日... 二月十五日

正月元日... 同十三日

四月八日... 五月十三日... 七月

七日虫拂... 九月十三日... 十月六日... 同日

同十三日御影供（或云）八日あり廿三日迄奉儀

相傳の當寺ハ弘仁元年庚寅草創なり（或云）往古ハ真言宗の

道場あり（或云）正嘉元年丁巳嚴譽律師駿州岩

本の実相寺なり日蓮上人の法を聞直ニ宗風を授け上人の

弘法より乃法号を嚴譽院日源と稱せ（當寺開山是也中
老僧の一員なり）

豎秀坊といふ（或云）賀島の実相寺ハ住持字行群（秀とあり）

按（寺傳）當寺の山号威光と云を以て東鑑（載）石の威光寺と云と

弦巻川（當寺）玉門の前を東流す細き溝川を号く古ハ布引川とも唱へらる

大行院 鬼子母神の別當なり往古ハ東陽坊と云天正年間

加州侯の始祖前田利家朝臣建立せられ堂内ハ

日蓮上人の徒弟六老僧の影像を安置せ（日照日朗日興日向
日像以上六老僧あり）

寺なるぬ彫刻し納むるあり又自らの肖像あり（安す）

當院ハ宗祖歴代の真筆なり（其の深草不可思議の
私書）徑題あり

蓮成寺 同東ハ隣る當寺ハ本山十三世日延上人の開創なりと

より十八老僧の像を安ん（日源日家日保日弁日法日傳日位日秀
日忍日門以上）

十八人なり

早稲田大学図書館

011688984949